

私たちがめざす理想のまちづくり

湘南都市構想2022

～つながろう湘南、ひかろう湘南～



2013年2月
湘南ビジョン研究会

はじめに

湘南地域は、海岸のなぎさ、相模川などの河川や里山などの多彩な自然に恵まれ、多様な産業や特色ある文化を有する地域です。この魅力あふれる湘南地域を、未来の子どもたちに残すため、私たち「湘南ビジョン研究会」では、10年後の湘南地域のまちづくりビジョン「湘南都市構想2022」を策定しました。

なぜ、「湘南都市構想2022」を策定したのか。どこの市町村でも、「総合計画」という長期的・体系的な行政計画を策定しています。しかし、これらの計画は国の法制度や行政単位の枠組など様々な制約があることから、行政区域を横断するような広域的な課題を解決できず、地域住民が求める理想のまちづくり計画になっていないのが現状です。そこで私たちは、湘南地域を市・町の単位ではなく、東は逗子から西は二宮までの『海』でつながる一体の生活圏と捉え、湘南の特性を最大限に活かした理想のまちづくりを目指し、湘南地域の住民が主体となって10年後のまちづくりビジョンを策定することにしました。

策定期間は2012年4月から2013年2月までの10ヶ月。40名の公募で集まったボランティアメンバーが政策テーマ別の4つの分科会に分かれ、延べ80回にわたる打合せを行い、24本のプロジェクトを策定していきました。

策定の過程では、より専門性を高めるため、学識経験者の意見を伺う場を設けたり、より幅広い意見を取り入れるため、「100人ワールドカフェ」などのイベントを開催したり、より具体性をもたせるため、フィールドワークで里山を歩いたり祭りに参加したりするなど、メンバーが一丸となってアイデアを出し合い、創意工夫のなかで進めてきました。

さらに、最終提言前に開催した「中間発表会」では、各分科会のリーダーがプレゼンテーションを行い、180人の地域住民の方に審査していただく「政策コンテスト」を開催しました。湘南の地域住民の手によりでき上がったこの構想により、今後は、地元の事業者・関係団体、神奈川県や他の自治体と積極的に連携・協働して、10年後の湘南地域の理想のまちづくりの具体化に一歩でも近づいていきたいと願っています。

この構想（最終提言書）の策定にあたり、学識経験者をはじめ多くの方々に貴重なご意見やご提言をいただきました。「100人ワールドカフェ」や「中間発表会」「最終提言発表会」にお越しいただいた地域の皆様、並びに、関係団体の皆様に深く感謝を申し上げますとともに、本構想の着実な推進と実現に向け、ご理解とご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

2013年2月

湘南ビジョン研究会 代表 片山清宏

目次

私たちが湘南で実現したい8個の重点プロジェクト	5
1 「湘南都市構想 2022」とは	7
(1) 構想の趣旨	
(2) 構想の概要	
(3) 構想の策定主体	
(4) 構想の実現方法	
(5) 構想の改定	
2 「湘南都市構想 2022」の策定経過	10
(1) 湘南ビジョン研究会の設立	
(2) 策定過程	
3 湘南地域をとりまく状況	12
(1) 人口減少・少子高齢化	
(2) 産業構造の転換	
(3) 安全・安心、コミュニティ	
(4) 環境問題・エネルギー	
(5) 財政問題・行政政治機構の転換	
4 湘南のめざす将来像	16
(1) 湘南のめざす将来像	
(2) まちづくり基本理念	
5 まちづくり体系図	17
6 プロジェクト24	18
(1) 【基本理念1】湘南の次世代を担う人づくり	18
重点	
1 【学校教育】 郷土を学ぶ「湘南学」	
2 【学校教育】 自ら考え身を守る防災教育の推進	
3 【学校教育】 世界で生き抜く湘南人の育成	
4 【社会教育】 保護者のしつけ力向上プロジェクト	
5 【社会教育】 湘南版食育活動～湘南を食べよう～	

重点	6	【スポーツ】 湘南マリンスポーツアカデミー	・	・	・	・	・	30
	7	【スポーツ】 アクティブ・アフタースクール	・	・	・	・	・	
	8	【スポーツ】 ワールドビーチゲームズ in 湘南	・	・	・	・	・	
(2) 【基本理念2】湘南のポテンシャルを活かした活力創出								30
重点	9	【観光】 “なぎさの駅”～観光元年	・	・	・	・	・	
	10	【観光】 つなげよう！海と SATOYAMA 観光	・	・	・	・	・	
	11	【観光】 日本初！「ブルーフラッグ」の国際認証取得	・	・	・	・	・	
重点	12	【産業】 湘南新産業特区	・	・	・	・	・	
	13	【産業】 環境先進都市湘南！「サスティナブルスマートタウン」	・	・	・	・	・	
(3) 【基本理念3】湘南の源となる輝きつづける命と絆づくり								39
	14	【医療】 「湘南ヘルツーリズム」の確立	・	・	・	・	・	
	15	【医療】 高度医療（最先端医療）の提供	・	・	・	・	・	
	16	【医療】 誰もが楽しみながら享受できる保険事業の実施	・	・	・	・	・	
重点	17	【福祉】 50歳からの「湘南大人大学」	・	・	・	・	・	
重点	18	【福祉】 介護・育児を支え合うコミュニティづくり	・	・	・	・	・	
	19	【福祉】 ユニバーサルスポーツ大会の開催	・	・	・	・	・	
(4) 【基本理念4】湘南の安心を守る災害に強いまちづくり								49
重点	20	【防災】 誰もが湘南防災マイスター	・	・	・	・	・	
	21	【防災】 地域防災10日間プラン	・	・	・	・	・	
	22	【防災】 津波避難ビル充実大作戦	・	・	・	・	・	
重点	23	【交通】 自転車で湘南の風を感じよう！	・	・	・	・	・	
	24	【交通】 北斎が愛した富士に逢う“さがみなぎさ新交通”	・	・	・	・	・	

資料編	・	・	・	・	・	・	・	60
(1) 「湘南都市構想2022」策定メンバー								
(2) 「湘南都市構想2022」策定会議の経過								
(3) 湘南の海を考えるミニフォーラム								
(4) 専門家ヒアリング								
(5) 100人ワールドカフェ								
(6) 中間発表会								
(7) 最終提言発表会								

私たちが湘南で実現したい 8個の重点プロジェクト

1

プロジェクト1

郷土を学ぶ「湘南学」

学校教育

これからのグローバル化の時代を生き抜く上で求められる力の一つである、郷土を愛する力を育む。

郷土である湘南を愛するために、自ら湘南を学び、また湘南で学ぶ。総合的な学習の時間等を活用した地域学習や、地域自然を活用した教育を実践する。



2

プロジェクト6

湘南マリンスポーツアカデミー

スポーツ

子ども達の憧れのヒーローとなるトップアスリートを湘南の地場を活かしたマリンスポーツ分野で、地域の応援体制が充実した環境のもと養成する。スポーツを通して地域の誇りを生み出すとともに、地域を元気にできる、トップアスリート養成学校の創設をめざす。



3

プロジェクト9

“なぎさの駅”～観光元年

観光

圏央道開通に伴い国道134号沿いに防災・福祉拠点の機能を備える“なぎさの駅”を開設する。また、地域に埋もれている宝を発掘して磨きをかけ、重ねて・つなげて・広域で連携した、オールラウンド、オールシーズンの観光地を目指す。



4

プロジェクト12

湘南新産業特区

産業

湘南を「新産業特区」と位置づけ、企業・行政・地域が連携してまちおこしと人材育成を図るとともに、口ボット、リビングラボ、ヘルスケアなどの湘南の特色を生かした、新たな産業を推進する。また、大きな産業ではなく、小さなものをコツコツと積み重ねる。



5

プロジェクト 17

50歳からの「湘南大人大学」

福祉

「湘南づきあい」を創出し、誰もが地域にとけこみ、地域の一員となり暮らしていくための入り口として、50歳以上の湘南を愛する方を対象に「湘南大人大学」を開校する。学びや活動を通じて生きがいや仲間をつくり、生涯を地域で健康に過ごすことをめざす。

**6**

プロジェクト 18

介護・育児を支え合うコミュニティづくり

福祉

女性の負担を軽減し労働参加の機会を増やすため、在宅医療や介護、子育てサービスをコミュニティ単位で提供するなど、湘南地域がワークライフバランスのとれる「介護・育児が日本一しやすいまち」となることをめざす。

**7**

プロジェクト 20

誰もが湘南防災マイスター

防災

災害発生時に行政の支援を当てにすることなく市民一人一人が主体性を発揮できるように、全員をスペシャリストにする。湘南の地域性を反映した新資格“湘南防災マイスター”を創設し、市民への普及をし、家庭内における避難訓練を促す。

**8**

プロジェクト 23

自転車で湘南の風を感じよう！

交通

逗子～二宮を結ぶサイクリングロードと駅から海岸までの自転車道、なぎさの駅を整備。自転車のレンタルステーションやシャワーなどを完備した施設の設置など、快適に利用できる環境を整備することで、慢性的な交通渋滞の解消と海岸線沿いのモビリティを向上する。



1 「湘南都市構想 2022」とは

(1) 構想の趣旨

「湘南都市構想 2022」とは、10 年後の湘南地域のまちづくりビジョンである。現在、湘南地域の各市町及び神奈川県では、「総合計画」という長期的・体系的な行政計画を策定しているが、これらの計画は国の法制度や規制の枠内で自治体ごとに個別に策定せざるを得なく、また行政の継続性や網羅性が重視されるなど様々な制約があることから、地域住民が求める理想のまちづくり計画になっていないのが現状である。

また、湘南地域には各市町だけでは対応困難な特有の広域的課題がある。例えば、沿岸一帯の津波対策や観光振興、慢性的な交通渋滞、里山や海の自然環境の喪失などである。住民はこれらの課題の根本的な解決策を望んでいるが、湘南全域のビジョンがないため、それに基づく解決策も示されていないのが現状である。

そこで、「湘南ビジョン研究会」では、湘南地域を行政単位ではなく一体の生活圏と捉え、特有の広域的課題を解決するとともに、湘南の特性を最大限に活かした理想のまちづくりを目指し、住民が主体になって「湘南都市構想 2022」を策定した。

(2) 構想の概要

ア 目標期限

「湘南都市構想 2022」を実現するための目標期限は、2022 年とする。ただし、地域住民が求める理想のまちづくりビジョンを目指すという構想策定の趣旨から、全ての提言を本期限までに実現しようとするものではないが、今後は、行政や企業、NPO など、様々な関係者と連携して具体化に一歩でも近づきたいと願っている。

イ テーマ

「つながろう湘南、ひかろう湘南」

ウ コンセプト

第1のコンセプトは、「行政」都合ではなく「市民」主導の夢のある理想の地域ビジョンであること。各自治体の総合計画は、国の法制度など様々な制約があり、地域住民のすべての意向を反映できるわけがない。本構想は、湘南地域に住んでいる住民自らが主導して策定することにより、住民が本当に住み続けたいと思える夢のある理想の地域ビジョンとする。

第2のコンセプトは、「総花的」ではなく「湘南の特性」を活かした特長ある地域ビ

ジョンであること。行政計画は様々な制約により総花的で特長がなくなり、地域住民にとって分かりづらく、遠い存在だった。本構想は、湘南地域の持つポテンシャルを最大限に活かした特長ある地域ビジョンとし、地域住民が愛着を持てるようなものとする。

第3のコンセプトは、「各自治体単独」ではなく湘南地域の自治体が連携できる「広域」の地域ビジョンであること。各自治体の総合計画は、湘南地域に共通の資源や共通の課題があるにもかかわらず自治体ごとに策定され、相互に政策連携がまだ進んでいないのが現状である。本構想は、行政区域に縛られることなく、各自治体が政策連携できる「広域」の地域ビジョンとする。

工 対象地域

対象地域は、相模湾の海でつながり、地形的、風土的、文化的にもつながりが深い葉山町、逗子市、鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町、平塚市、大磯町及び二宮町の9市町とする。面積は287k m²（神奈川県：2,416k m²）、人口は128万人（神奈川県：905万人）、人口密度は3,859人（神奈川県：3,071人）となる。



才 基本理念と基本方針

【基本理念1】湘南の次世代を担う人づくり

基本方向1 郷土愛にあふれるまち「湘南」

基本方向2 マリンスポーツが盛んなまち「湘南」

【基本理念2】湘南のポテンシャルを活かした活力創出

基本方向1 國際海浜リゾート「湘南」

基本方向2 イノベーション産業都市「湘南」

【基本理念3】湘南の源となる輝きつづける命と絆づくり

基本方向1 健康先進都市「湘南」

基本方向2 「湘南づきあい」のあるまち

【基本理念4】湘南の安心を守る災害に強いまちづくり

基本方向1 “湘南防災スタイル”の推進

基本方向2 楽しくやさしい湘南ロード

力 プロジェクト

基本理念及び基本方針に沿って 24 本のプロジェクトを提案した。詳細は、「6 プロジェクト 24」のとおり。

(3) 構想の策定主体

策定主体は「湘南ビジョン研究会」である。「湘南ビジョン研究会」は、地元湘南のまちをもっとよくしたいという思いを持ったメンバーが集まって 2011 年5月に設立した勉強会で、湘南のまちづくりを考える任意の市民グループである。10 年後の湘南地域のまちづくりビジョン「湘南都市構想 2022」の作成と、ビーチの国際環境基準「ブルーフラッグ」の認証取得を目指して掲げ活動している。

(4) 構想の実現方法

「湘南都市構想 2022」は、湘南の地域住民の手でつくってきた、住民の想いがつまつた理想の構想であり、行政計画のように実現していくための法律や予算の担保はない。よって、全ての提言を実現できないかもしれないが、まずは、小さくとも自分たち市民ができるることは自ら実行していきたいと考えている。実際に実現していくためには、行政や政治、多くの関係者の協力が必要になっていく。今後は、地元の事業者・関係地域団体、神奈川県や他の自治体と積極的に連携・協働して、10 年後の湘南地域の理想のまちづくりの具体化に一歩でも近づいていきたいと願っている。

(5) 構想の改定

本提言書を最終提言書としたが、今後さらに多くの関係者からご意見をいただきながら議論を進めブラッシュアップしていきたいと考えている。

2 「湘南都市構想 2022」の策定過程

(1) 湘南ビジョン研究会の設立

2012年3月に「湘南都市構想 2022」を策定するため「湘南ビジョン研究会」の中に「湘南都市構想 2022 策定チーム」を立ち上げ、策定メンバーを公募したところ40名が集まった。

同年4月14日に「湘南都市構想 2022」第1回策定会議（キックオフミーティング）を開催し、「教育・スポーツ分科会」「観光・産業分科会」「福祉・医療分科会」「防災・交通分科会」を設置した。

各分科会にはリーダーを置いた。各分科会のメンバーは3～8人程度で、湘南地域在住在勤の住民、企業経営者、研究者、コンサルタント、行政職員、会社員、大学生、NPO、自治会、写真家等など多彩な顔ぶれとなった。

なお、湘南都市構想 2022 策定チームメンバーの代表は「湘南ビジョン研究会」代表の片山が務めることとした。



(2) 策定過程

同年4月14日、藤沢産業センターで「湘南都市構想 2022」第1回策定会議（キックオフミーティング）を開催した。当日は30人以上のメンバーが集まった。

第1部では、神奈川県湘南地域県政総合センター企画調整部長に「湘南地域の現状と課題～これからの湘南地域のまちづくり」と題して基調講演をいただき、

その後、代表から「湘南都市構想 2022」の策定意義や今後の進め方を説明した。



第2部では、早速4つの分科会に分かれて、分科会ごとにリーダーを決め、「湘南地域が抱える課題」について議論を行った。分科会ごとに議論した内容を付箋に書いて模造紙に貼って課題を整理し、最後にリーダーから発表した。

第1回策定会議以後、全体会は毎月開催し、2013年2月9日の最終提言発表会で全13回となった。各分科会は、全体会と同日開催のほか、月1回程度開催し、分科会ごとに開催回数は異なるものの、4分科会で延べ80回以上開催した。

なお、策定過程では、専門家のアドバイスや市民の多様な意見を反映させるため様々な場を作ってきた。例えば、9月8日に開催した「100人ワールドカフェ～みんなで湘南の未来を考えよう！」では、約120人の住民から様々な意見をいただき、11月25日に開催したフィールドワークでは、茅ヶ崎の里山を歩き、そこでの体験を構想に反映させた。そして、12月2日に中間発表会を開催し、4つの分科会がそれぞれ構想をプレゼンする「政策コンテスト」を行った。当日は180人を超える地域の方々にご参加いただき、多くの方から様々な質問や意見をいただいた。それらはすべてその後の構想策定に参考にさせていただいた。そして、2013年2月9日に最終提言発表会を開催するに至った。さらに本構想は関係機関に提言していくきたいと考えている。



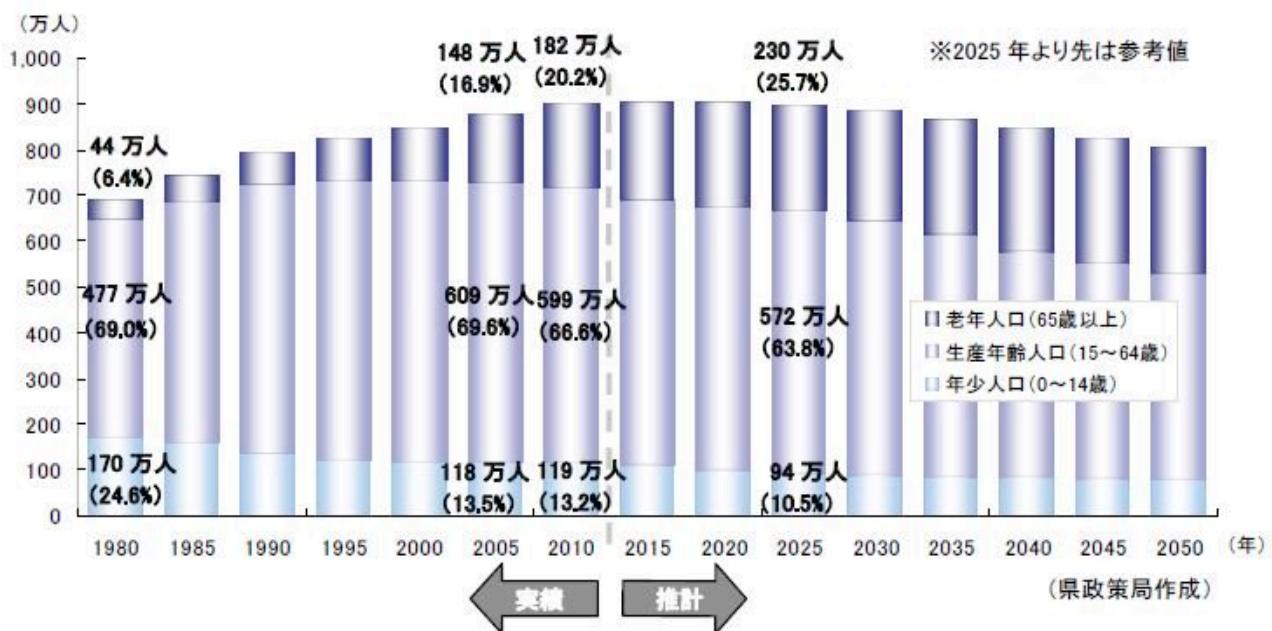
3 湘南地域をとりまく状況

(1) 人口減少・少子高齢化

神奈川県の人口は2006年5月に全国で第2位となり、2009年7月には900万人を突破するなど、依然として増加が続いている。しかし、合計特殊出生率は人口を維持できる水準を下回っており、高齢化は全国を上回るスピードで急速に進行することが見込まれている。県の人口推計では、2019年をピークに人口減少に転じることが予測されており、湘南地域圏でもいすれ人口減少になる。

このような現状の中、湘南地域では地域経済の維持・発展、高齢者の健康維持、医療・福祉の充実、地域コミュニティの維持・活性化などが大きな課題となっている。

図1 年齢3区分別の人口推計



出展：「かながわグランドデザイン基本構想」

(2) 産業構造の転換

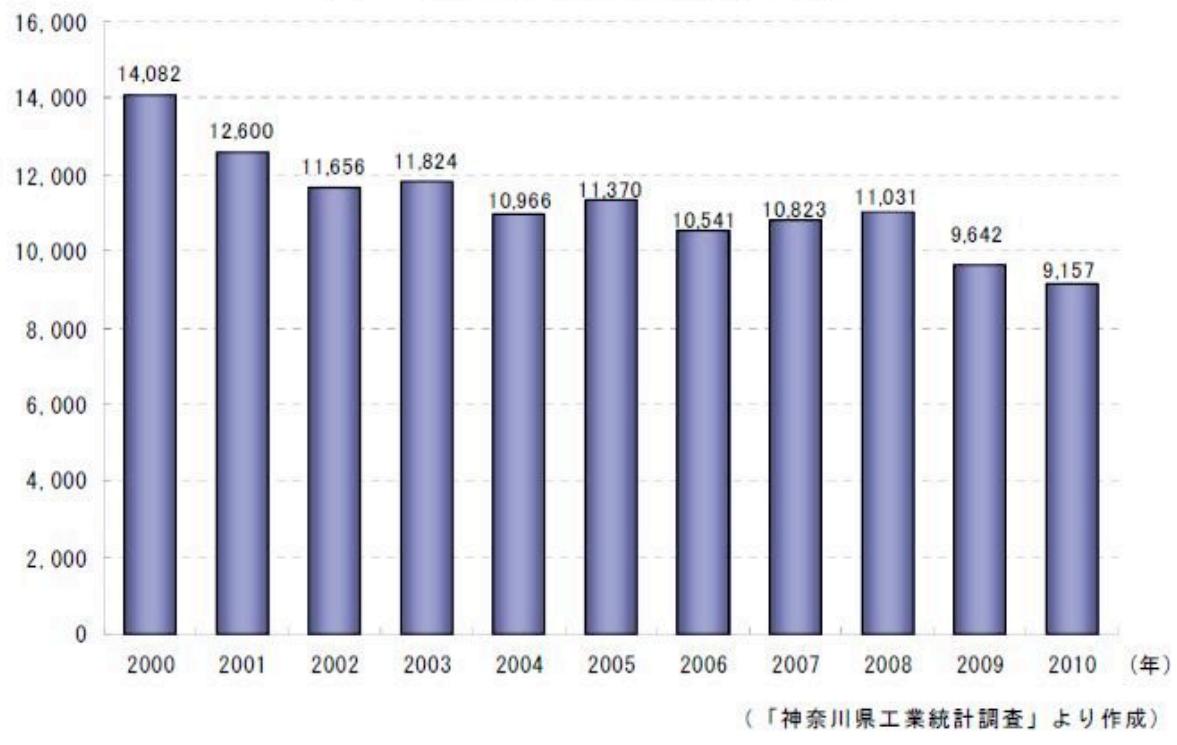
神奈川県内では、製造業の事業所数が2009年には10,000事業所を割り込んで減少するなど、経済のグローバル化により、世界の経済情勢が県内の産業や雇用などに直接の影響を与えるようになっている。一方、企業誘致策などの展開により、成長産業の研究開発拠点や工場などが新たに進出しているが、2011年3月の東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故により電力不足が発生し、夏期には電力使用制限が行われたことに

加え、円高が続いていることなどから、工場の操業環境が悪化し、再び工場の海外流出が懸念されている。また、ものづくりの分野では、長年の経験を必要とする熟練技能者の技術・技能の継承が課題となっている。

このような現状の中、湘南地域でも、観光振興や新産業の創出による地域経済の維持・発展、漁業・農業の振興などが大きな課題となっている。

(事業所)

図8 県内製造業の事業所数の推移



(3) 安全・安心、コミュニティ

神奈川県によると、これまでの地域社会の基盤となっていた人と人とのつながりが弱くなるとともに、高齢者だけの世帯や単身世帯、ひとり親家庭などが増加し、家族形態が多様化している。また、地域や家庭の機能が変化する中で、生活面での様々な課題を抱えながら、社会的なつながりを持てずに孤立してしまう人が増え、地域社会の新たな仕組みづくりが課題になっている。

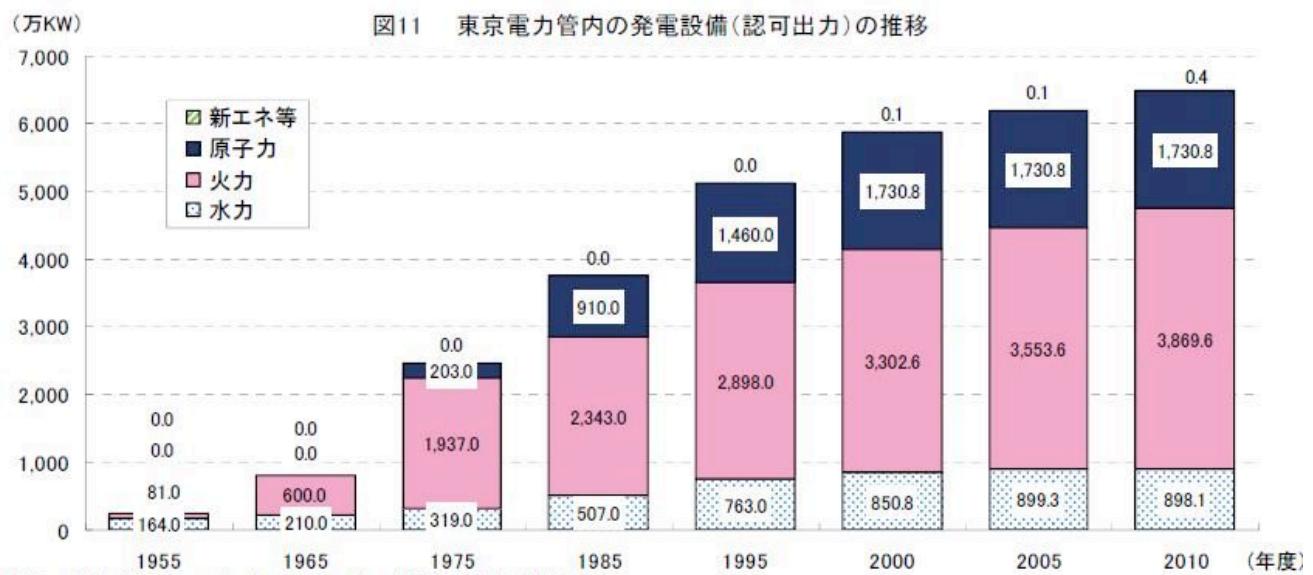
このような現状の中、特に湘南地域では津波対策における高齢者等の要支援護者の避難対策などが大きな課題であり、そのためには、これまでの地域社会の基盤となっていた人と人とのつながりを再生させていくことが急務となっている。また、リタイアした方の経験や知識を有効活用してご本人の生きがいを創出するとともに、地域コミュニティを活性化させていく仕組みが必要となっている。



(4) 環境問題・エネルギー

福島第一原子力発電所の事故により、電力不足が発生したことから、日本では、これまで地球温暖化対策の一環として取り組まれてきた新エネルギーや再生可能エネルギーの導入の動きが一気に加速するとともに、節電などの取組みを通じて、エネルギーに対する県民の意識も大きく変化している。今後も、原子力発電所の再稼働が不透明な中で、電力の需給見通しが立っていない状況にあり、地域が中心となった分散型のエネルギー一体系を新たに構築していくことが求められている。

このような現状の中、湘南地域でも、地域資源を活かした再生可能エネルギーの導入が大きな課題となっている。



※「新エネ等」とは、2008年度以前は風力、太陽光及び廃棄物発電、
2009年度以降はこれらに地熱及びバイオマス発電を加えたものをい

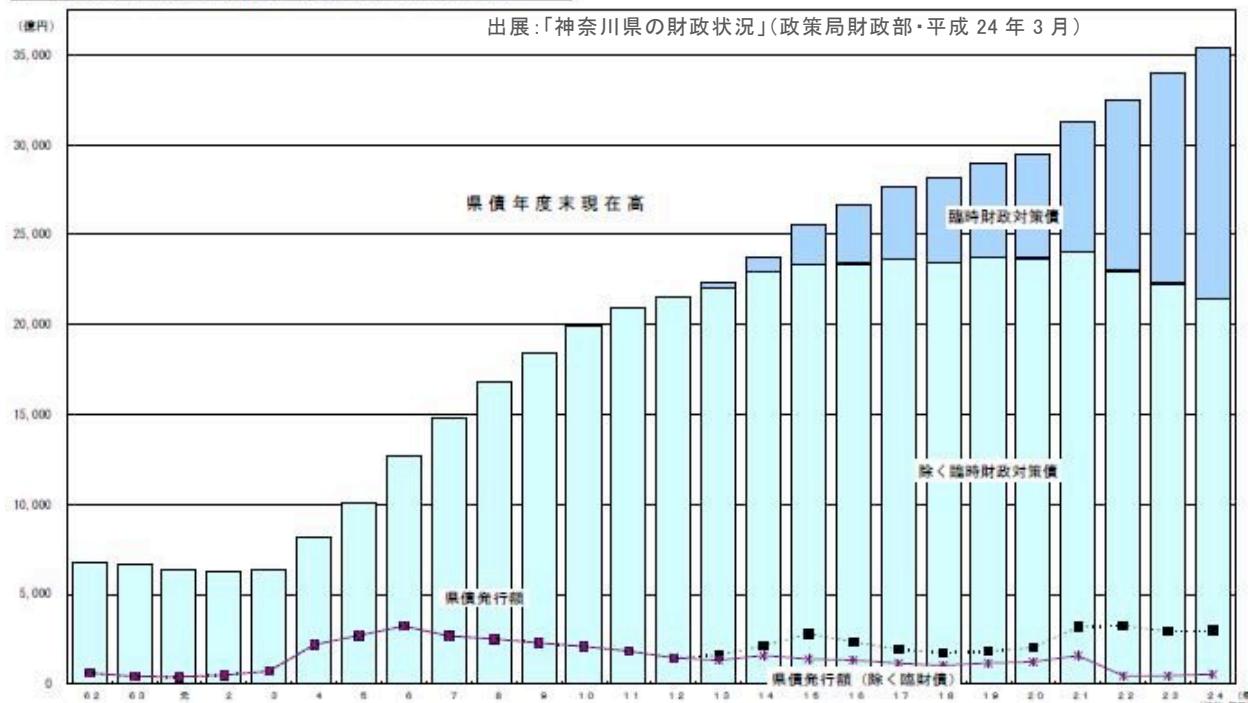
(東京電力株式会社「平成23年度数表でみる東京電力」より作成)

(5) 財政問題・行政政治機構の転換

神奈川県では、2001年度以降、臨時財政対策債が発行され、県債年度末現在高が増加している。湘南地域においても藤沢市が地方交付税の交付団体に転落したことに象徴されるように、財政状況は過去に経験したことのない非常に厳しい状況にあることから、行政運営の一層のスリム化を推進していく必要がある。

一方で、湘南地域はNPOや市民協働の取り組み等の市民活動が活発であり、民間企業の社会貢献活動も進んでいるなど、公共サービスの担い手が多様化していることから、より一層のコスト削減と市民サービスの向上の両立を目指し、市と民間との役割を明確にし、民間活力を活かした行政運営が求められている。

5 県債発行額及び県債年度末現在高の推移



4 湘南のめざす将来像

(1) 湘南のめざす将来像

私たちが考える湘南のめざすべき将来像は、「人と人がつながり、地域がつながり、そして湘南全体がつながることによって、湘南の魅力を最大限に活かしたまちづくりが実現され、住民が元気で幸せに暮らすことができる光輝く地域」である。

「湘南都市構想 2022」のテーマを「つながろう湘南、ひかろう湘南」としたのも、そうした想いからである。本構想を実現することで、しがらみや縦割りが色濃く残る政治行政をも改善し、湘南地域全体を一つにつなげ、湘南の魅力と個性が光り輝くまちにしたいと願っている。

(2) まちづくり基本理念

ア 湘南の次世代を担う人づくり

これから時代を生き抜く上で求められる、郷土を愛する力、自ら課題を解決する力、豊かな心、健全な身体を兼ね備え、世界の舞台で生き抜いていける人材をここ湘南で生み出す。この人づくりは、学校に押し付けるのではなく、保護者や地域の力を含め、湘南のまち全体で協力ししていく。

イ 湘南のポテンシャルを活かした活力創出

観光面では湘南ブランドのイメージにとらわれず、海と山、観光と文化、遊びとトラッドをバランス良く混ぜた、オールラウンド、オールシーズンの観光地を目指す。産業面では人材育成を行い競争力をつけてまちを活性化させ、広域連携の出来る利点や圏央道開通の機会を捉えて、ロボットやリビングラボ等の新たな産業を発展させる。

ウ 湘南の源となる輝きつづける命と絆づくり

湘南に生まれた命が、寿命を迎えるその日まで、心身ともに健康で輝きつづけるように医療や福祉サービスの充実をはかる。また、誰もが湘南で生きがいや仲間を見つけ、共に生き、支え合える絆となる「湘南づきあい」を創出する。さらにその絆が世代を超えて続くようなコミュニティづくりをめざす。

エ 湘南の安心を守る災害に強いまちづくり

湘南地域は海に隣接していることもあり、津波の危険性の高い地域である。この危険性を認識し、防災意識を高めていかなければならない。災害発生時には行政機関も被災することも考えると、市民が主体となって災害に対処していかなければならない。湘南地域では市民が災害対策をするのが当たり前。そんな“湘南防災スタイル”を確立する。

5 まちづくり体系図

保護者のしつけ力向上プロジェクト

湘南版食育活動～湘南を食べよう～

マリンスポーツが
盛んなまち「湘南」7
8国際海浜リゾート
「湘南」9
10
11

イノベーション

産業都市「湘南」

13
14健康先進都市
「湘南」15
16
17

「湘南づきあい」

のあるまち

18
19
20“湘南防災スタイル”
の推進21
22

楽しくやさしい

湘南ロード

24
25
26

湘南マリンスポーツアカデミー

アクティブ・アーチャースクール

ワールドビーチゲームズ in 湘南

なぎさの駅”×観光元年

つなげよう！海と SATOYAMA 観光

日本初！「ブルーフラッグ」の国際認証取得

相南新産業特区

環境先進都市湘南！「サステナブルスマートタウン」

湘南ヘルスツーリズムの確立

高度医療(最先端医療)の提供

誰もが楽しみながら享受できる保険事業の実施

0歳からの「湘南大人大学」

介護・育児を支え合うコミュニティづくり

ユニバーサルスポーツ大会の開催

誰もが湘南防災マイスター

地域防災 10 日間プラン

津波避難ビル充実大作戦

自転車で湘南の風を感じよう！

北斎が愛した富士に逢う“さがみなぎさ新交通”

活力創出

つづける命と絆づくり

湘南の安心を守る

保護者のしつけ力向上プロジェクト

湘南版食育活動～湘南を食べよう～

湘南マリンスポーツアカデミー

アクティブ・アーチャースクール

ワールドビーチゲームズ in 湘南

なぎさの駅”×観光元年

つなげよう！海と SATOYAMA 観光

日本初！「ブルーフラッグ」の国際認証取得

相南新産業特区

環境先進都市湘南！「サステナブルスマートタウン」

湘南ヘルスツーリズムの確立

高度医療(最先端医療)の提供

誰もが楽しみながら享受できる保険事業の実施

0歳からの「湘南大人大学」

介護・育児を支え合うコミュニティづくり

ユニバーサルスポーツ大会の開催

誰もが湘南防災マイスター

地域防災 10 日間プラン

津波避難ビル充実大作戦

自転車で湘南の風を感じよう！

北斎が愛した富士に逢う“さがみなぎさ新交通”

6 プロジェクト24

教育・スポーツ分野

基本理念1

湘南の次世代を担う人づくり

■基本方向1 郷土愛にあふれるまち「湘南」

私達を取り巻く環境は、刻々と変化している。その社会の変化に流されることなく、流れをしっかりとつかみとり、力強く生きていかなくてはならない。

そのために、情報収集力や表現力、コミュニケーション力、判断力を育み、知識やスキルを活用し、道筋を見出す力を育てていく必要がある。どんな状況でも自分で考え、意思決定し、行動することができる人を育てることをめざす。

これらの力に加え、グローバル化が進展する現代社会においては、自己形成の基礎となる郷土を愛する力が求められる。この力によって、自己の形成だけでなく、その熱い想いを次世代の人づくりにつなげる、そのような循環する教育プロジェクトを提言する。

プロジェクト 1 郷土を学ぶ「湘南学」

【学校教育】

育)

アクション①	「湘南学」の実践
アクション②	「湘南検定」&「湘南博学士制度」
アクション③	湘南学アーカイブの作成
アクション④	企業による文化 PR 活動

プロジェクト 2 自ら考え身を守る防災教育の推進

【学校教育】

アクション①	小中学校における実践的防災訓練の普及
アクション②	地域防災力向上プロジェクト
アクション③	学校－地域共同防災訓練の実施

プロジェクト 3 世界で生き抜く湘南人の育成

【学校教育】

アクション①	教員向け「湘南人を育てよう！プログラム」の実施
アクション②	模擬議会「湘南子ども議会」の開催
アクション③	「小学校1年生から英語必修化」の実施

アクション④	「お店を開こう！」授業の開催
--------	----------------

プロジェクト 4 保護者のしつけ力向上プロジェクト 【社会教育】

アクション①	「しつけは家庭の役割です」宣言
アクション②	保護者・地域による学校運営体制の構築
アクション③	家庭教育協力事業者数アップ大作戦

プロジェクト 5 湘南版食育活動～湘南を食べよう～ 【社会教育】

アクション①	保護者を対象とした食育推進活動
アクション②	湘南地産ブランド“湘南を食べよう”認定制度
アクション③	“今が旬！”ポップによるPR活動

■基本方向2 マリンスポーツが盛んなまち「湘南」

湘南から連想される「マリンスポーツ」は、歴史的に切っても切れない運命にある。これからの時代を生き抜くために必要な体力を、マリンスポーツを通して身につける。そして、湘南地域全体が連携してマリンスポーツを盛り上げ、将来的に「マリンスポーツといえば湘南」と全国的に言わしめる。

プロジェクト 6 湘南マリンスポーツアカデミー 【スポーツ】

アクション①	湘南マリンスポーツアカデミーの開校
アクション②	湘南マリンスポーツアカデミー指導ライセンスの発行
アクション③	湘南マリンスポーツアカデミーサポート制度
アクション④	湘南スポーツ文化親善大使の育成

プロジェクト 7 アクティブ・アフタースクール 【スポーツ】

アクション①	官民連携による湘南版スポーツ指数の作成
アクション②	アフタースクールサポーターの養成
アクション③	アフタースクールにおける場の選定と整備アクション
アクション④	毎年開催「湘南スポーツテストの日」

プロジェクト 8 ワールドビーチゲームズ in 湘南 【スポーツ】

アクション①	ワールドビーチゲームズ実行委員会の発足
アクション②	ワールドビーチゲームズの開催

アクション③

ワールドビーチゲームズの発展

プロジェクト 1

【学校教育】

郷土を学ぶ「湘南学」

“湘南を学ぶ” “湘南で学ぶ。”

世界的にグローバル化の進展が見込まれる中、世界の舞台で他国の人々と交流する中では、“日本人”としてのアイデンティティが必要とされる。自らを日本人として、国を愛する思いが形成されるには、そのベースとなるのが郷土愛であると考え、郷土である湘南を愛する力を育むことを目的としたカリキュラム「湘南学」を提唱する。

湘南学とは、まずは湘南を学ぶこと。行政区域の垣根を越えた、湘南全体としての魅力をしっかりと学び、湘南を一層愛し、誇れる人材を育てていく。さらに、湘南は海だけでなく、そこに流れる川、そして上流にあがると田畠、里山もある。これらが比較的狭いエリアに混在する、自然豊かな環境にある。それら湘南の環境素材を活かした自然体験学習を推奨する。

(関連プロジェクト：③世界で生き抜く湘南人の育成、④保護者のしつけ力向上プロジェクト、
⑦アクティブ・アフタースクール、⑧ワールドビーチゲームズ in 湘南)

■現状と課題

- 今でも学校で地域を学ぶ機会はあるが、学ぶ時間が少ない。自分たちが住んでいる地域を理解することは、地域社会の一員として大人に向けて成長していく上で必要なことではないか。
- 地域を学ぶ教材を各市教育委員会が作成していることはあっても、それは行政単位のものであって、湘南エリアとして学ぶ資料はない。
- 鎌倉をはじめ湘南地域は、歴史的に重要で価値あるものが多い。また、この気候、風土を求めて多彩な人材が多く集まっている。しかし、これらの地域資源が十分に活用されていない現状がある。
- 「自分が住んでいる地域には昔何があったのか」、「どのような由来で地名がついているのか」などについて、全く知らない人も多く、関心も低い。地域名の由来や過去の姿を知らないと、防災の側面でも問題である。
- 以前は親が自然の良さや怖さを子に教えることが多かったが、都市化や核家族化の進行により、親自身にもその知識が欠落している。その結果、今の子どもは、自然を学ぶ機会が減少してしまっている。



■めざす姿

- 湘南で育った成人は、湘南を愛し、国際社会へ湘南の魅力・地域性を発信することができる。
- 地元愛にあふれるが故に、地域で次の世代への教育に参画する大人が増えている。

■具体的な取組み

アクション① 「湘南学」の実践

具体的な内容	実施主体
<p>■小中学校で湘南学を一定のカリキュラムとして実施できるよう、各自治体の教育委員会が協力し、指導案及び教材（副読本等）を作成する。作成にあたっては、指導主事だけでなく、地元大学や地域市民を巻き込み、多様な視点により形成されたカリキュラムをめざす。</p> <p>■総合的な学習の時間（小学校3年～6年：70時間/年、中学校1年：50時間/年、2・3年：70時間/年）のうち、50%の時間を「湘南学」の時間として教育課程を編成するよう、各学校へ働きかける。</p> <p>○指導プラン（案）</p> <p>>小学校3年：地域の地名の由来を調べよう、地域のお祭りに参加しよう</p> <p>>小学校4年：地域資源マップを作成しよう、地域イベントに参加しよう</p> <p>>小学校5年：地域で活躍している人を調べよう、地域活動に参加しよう</p> <p>>小学校6年：地域で活躍している人にインタビュー、自分の将来を考えよう</p> <p>>中学校1年：地域と地域を結ぶ関係（南北・東西）、それぞれの特徴を調べよう 地域の企業で働くこと</p> <p>>中学校2年：湘南の良さ・課題を話し合おう</p> <p>>中学校3年：地域で活躍している人にインタビュー、自分の将来を考えよう (湘南こども議会に各校代表が参加) (以下、湘南で学ぶ)</p> <p>>体育(中学)：海でサーフィン、川でカヤック等のスポーツ導入</p> <p>>理科(共通)：海・川・田畠等地域にある自然を活用した体験学習</p> <p>>歴史(中学)：湘南エリアの歴史→現代までの変遷を学ぶ</p>	教育委員会 (協力：大学・市民他) 教育委員会 ・学校
<p>■湘南学の実践に向けたモデル校を指定。総合的な学習の時間はじめ、社会や理科の教科においても湘南に関連した内容に幅を持たせた授業を実践する。</p> <p>■湘南博学士（次のアクションを参照）による出前授業。湘南をこよなく愛する人が指導し、湘南を愛する想いが伝達する好循環をめざす。</p> <p>■教員が地域を学ぶ研修を取り入れる。地域学習を教える立場にある教員が地域に出て、地域の方々から話を伺う機会をもつことで、地域を学ぶだけでなく、地域とのつながりも創ることができる。</p>	学校 市民 教育委員会 学校

アクション② 「湘南検定」&「湘南博学士制度」

具体的な内容	実施主体
<p>■子どもに限らず、全ての世代で湘南を学ぼうというインセンティブをはかるため、「湘南検定」を実施。検定合格者のうち、特に優秀な成績を収めた方に対しては「湘南博学士」としての称号を授与。</p> <p>■江の島トレジャーハント（オリエンテーリング）のような企画とコラボし、湘南をより知ることができるイベントを開催。</p>	NPO (又は行政)
	NPO 企業

アクション③ 湘南学アーカイブの作成

具体的な内容	実施主体
<p>■湘南を学びたいと思った人が調べ学習をするにあたり、ここをみればわかるというアーカイブページを作成・公開する。</p> <p>■アーカイブページは、湘南検定の実施主体が作成。コンテンツは、湘南博学士や教育委員会が中心になって作成。テキストや写真等の情報を蓄積していく。</p> <p>■実施にあたっては、県教育委員会の委託事業として行う。</p>	NPO NPO 教育委員会

アクション④ 企業による文化PR活動

具体的な内容	実施主体
<p>■地域の顔であったり、地域に親しまれてきたりしている企業の商品や施設等を、CSR活動の一環として、地域へより情報発信する。</p>	企業
<p>■中学生が行う職業体験を積極的に受け入れ、企业文化に触れる機会を増やす。</p>	企業・学校

プロジェクト 2

【学校教育】

自ら考え身を守る防災教育の推進

■ねらい（概要）

- 湘南は、地理的に地震や津波などの自然災害にあうリスクが高いことから、災害時に自分を守る行動ができるよう義務教育の中で教育することが求められる。
- さらに、自然災害にかかわらず、火災などを含め、危険がせまった状況で、自ら判断し、適当な行動をとることができるよう、広く身を守るために考える教育を実践する。

（関連プロジェクト：②誰もが湘南防災マイスター）



■具体的な取組み

アクション① 小中学校における実践的防災訓練の普及

具体的な内容	実施主体
■児童・生徒による地域ハザードマップ作り。	学校
■ハザードマップを参考に、地域リスク（津波、土砂崩れ、河川氾濫、大規模火災等を想定）を考慮した実践型防災訓練の実施。	学校
■防災訓練にあたって、各学校へ防災アドバイザー等をスーパーバイザーとして派遣。専門家による評価の視点を取り入れる。	教育委員会
■災害発生時への対応に関する補助教材の作成、配布。それら補助教材を参考に、災害別で生き延びるための手法検討を授業の中で行う。	教育委員会
■防災教育の一環として、人命救助ではなく、事故防止活動が主目的であるライフセービングを学ぶ。未然に事故を防ぐリスクマネジメントを学ぶとともに、他人や弱者に優しく配慮した事故防止活動をめざす。	学校 学校・NPO

アクション② 地域防災力向上プロジェクト

具体的な内容	実施主体
■地元企業と災害時のパートナーシップ協定を締結。避難所となる学校が、災害時に技術的な援助を受けることができる体制を整える。	企業
■ボーイスカウト団体等の協力のもと、インフラがダメージを受けた場合に使える技術訓練を、自治会の防災訓練活動の一環として実施する。	NPO・市民

アクション③ 学校－地域共同防災訓練の実施

具体的な内容	実施主体
■学校と地域での共同防災訓練がスムーズに進行することができるよう、地域防災訓練ガイドラインを作成し、配布する。	行政
■自治会等が主催する防災訓練と学校で行う防災訓練を同時に開催する。	学校・地域
■大規模災害の発生時、速やかに避難所設営等ができるよう、学校と自治会が共同で図上訓練を実施する。	学校・地域
■避難所が設営され、継続的に運営されることを想定した役割分担（自治会、教員、児童・生徒）を話し合いで決め、その分担作業まで行う。	学校・地域

プロジェクト 3

【学校教育】

世界で生き抜く湘南人の育成

■ねらい（概要）

- グローバル化の時代を迎えた中で、これまでの教育内容では時代の変化に対応できないことから、湘南独自の教育制度として、世界で生き抜く「湘南人」の育成を目的とした教育プログラムを実施する。
- 具体的には、①教員向けに「湘南人を育てよう！プログラム」を実施し、各学校において、②政治教育、③コミュニケーション教育、④経営教育を実施することにより、世界で生き抜く「生きる力」を習得させ、湘南、日本、そして世界で活躍できる人材を育成する。



■具体的な取組み

アクション① 教員向け「湘南人を育てよう！プログラム」の実施

具体的な内容	実施主体
■教育委員会、学校、有識者、市民等によるプロジェクトチームを立ち上げ、「世界で生き抜く湘南人」と「湘南人に必要な教育」プログラムメニューを策定。 ■各学校1名選出の研修により「湘南人育成プログラムリーダー」を養成。各学校ではリーダーが中心となり、校内で本プログラムの浸透を図る。	教育委員会・学校・市民 教育委員会・学校

アクション② 模擬議会「湘南子ども議会」の開催【政治教育】

具体的な内容	実施主体
■自ら課題設定し、主体的に解決する能力を身に付けるため、「湘南子ども議会」を開催。湘南地域にある社会的課題をテーマに小・中学生が議論する。 ■議会への準備として、地域でヒアリングや調べ学習を実施。情報収集力、論理構成力、対話力等を身に付けるとともに郷土愛を育む。また、地域間の学校交流を促進する。	教育委員会・学校 学校・地域・市民

アクション③ 「小学校1年生から英語必修化」の実施【コミュニケーション教育】

具体的な内容	実施主体
■小学校5年生から始まる外国語活動を、小学校1年生から英語を必修化とし、言語力に加え、価値観の多様性を教え、コミュニケーション力の向上を図る。 ○指導プラン（案） >低学年：「英語によるゲーム」など遊びの要素を入れる >高学年：「朝会1分間スピーチ」「外国人観光客・修学旅行生との交流」「英語による寸劇発表」など実践的なコミュニケーション訓練	教育委員会・学校

アクション④ 「お店を開こう！」授業の開催【経営教育】

具体的な内容	実施主体
■経済の仕組みを学ぶ「お店を開こう！」授業を実施。地域のお店の協力を得て、店の企画や商品開発を行い、お祭りや子どもが運営する「子ども市」で出店。仕入れ、販売を行う。 ■地域の方を講師として招き、経営に関する授業を実施。商品開発、流通、利益が出る仕組み、利益金の使途を学ぶ。	学校・地域 学校・市民

プロジェクト 4

【社会教育】

保護者のしつけ力向上プロジェクト

■ ねらい（概要）

- 家庭教育力の低下により、しつけを学校に求める保護者が増加している。“学校で学ぶこと、家庭で学ぶこと”を明確にし、保護者に「しつけは家庭で教えること」と意識付ける。
 - 昔は、隣近所のオジサン・オバサンが叱ることもあり、地域においてもしつけがなされていたが、そのような機会も減少してしまっている。地域全体で子どもを教育していくような環境づくりをめざす。
 - 学校運営での保護者参画機会を広げ、地域や保護者の役割を増やすことで、家庭教育力向上につながる保護者の学びの機会をつくりだす。



■具体的な取組み

アクション① 「しつけは家庭の役割です」宣言

具体的な内容	実施主体
■しつけを学校に任せようという風潮を排除するため、しつけは家庭の役割と各市町村で宣言し、広く周知する。	教育委員会
■学校教育部門と社会教育部門が協力し、各機関で家庭教育力を意識した事業を開いていくことをめざす「家庭教育力向上プロジェクト」を作成・実施する。	教育委員会

アクション② 保護者・地域による学校運営体制の構築

具体的な内容	実施主体
<p>■社会全体での教育力を向上させる取り組みとして、国が推奨する各中学校校区における学校支援地域本部※1の設置及び各小学校校区で放課後こども教室※2の実施を推進する。</p> <p>※1：地域ボランティアの協力により、学校運営や教育活動など学校支援活動を行う組織。全国 3,036 本部の設置に対し、神奈川県下（政令市を除く）での実施は 1 本部（1 市町村）。</p> <p>※2：放課後の校庭や空き教室を利用して、地域で子どもたちとともに学習やスポーツ活動などを行うもの。全国 10,098 教室に対し、神奈川県下（政令市を除く）での実施は 84 教室（22 市町村）。</p>	市民 学校 教育委員会
<p>■保護者は、原則として学校支援地域本部、放課後こども教室、PTA、クラス委員のいずれかに所属しなければならないものとする。</p>	市民

アクション③ 家庭教育協力事業者数アップ大作戦

具体的な内容	実施主体
<p>■県が実施している「家庭教育協力事業者連携制度※3」を地域でPR。すでに協力いただいている事業所を地域で賞賛し、他の事業所にも働きかける。</p> <p>〔 ※3：家庭教育力の充実に向けて、従業員の家庭教育に係る活動を支援する事業所と県が協定を結ぶ制度。 〕</p>	教育委員会 企業
<p>■湘南学の一環として企業を学ぶ際、そこに勤めている保護者の協力を得て、発表する。その際、家庭教育協力事業者連携制度の普及をめざす。</p>	学校・家庭 企業

プロジェクト 5

【社会教育】

湘南版食育活動～湘南を食べよう～

■ねらい（概要）

- 食は人が生活する上でなくてはならない重要な活動の一つであるにもかかわらず、家庭における食育が進んでいない状況がある。
- 湘南は、南は海に面していることから海産物に恵まれ、北部には田畠が広がり、果樹園まである。さらに、葉山牛や高座豚なども生産されており、こうした湘南の地域特性を活かした食育活動を推進する。



■具体的な取組み

アクション① 保護者を対象とした食育推進活動

具体的な内容	実施主体
■保護者を対象とした食育活動推進に向けた実行計画を作成する。	教育委員会
■保護者を対象とした栄養学の講座開催。	行政・NPO
■「食とはどうあるべきか」的な保護者向け啓発資料の作成・配布	行政
■「学ぶ～採る～作る～食べる」の親子体験教室の開催	行政・NPO

アクション② 湘南地産ブランド“湘南を食べよう”認定制度

具体的な内容	実施主体
■湘南地産地消プログラムのシンボル商品として、湘南地産ブランドの認定制度を創設し、周知普及をはかる。（葉山牛、高座豚、湘南野菜、相模湾の鰯・シラス、湘南の輝き（みかん）etc）	行政・NPO
■湘南ブランドのレシピ検索システムを開発。ネット上で「季節」「食材」「料理ジャンル」で検索できるようにする。	NPO

アクション③ “今が旬！” “ポップによるPR活動

具体的な内容	実施主体
■湘南エリア共通で使用できる”今が旬”ポップカードを作成し、ポップカードの使用について、小売店へ協力依頼をする。	行政
■スーパーなどの小売店において、旬の素材に“今が旬！”ポップをつける。	企業
■中央卸売市場や「わいわい市場」などの場を活用し、小学生や中学生の保護者を対象とした手軽な料理教室（旬素材を活かしたお弁当の一品教室）を開催。	企業
■学校を通じて、料理教室のPRを行う。	学校・企業

湘南マリンスポーツアカデミー

“湘南のヒーローをつくり、競争力を高める”

子どもの運動能力については、特に神奈川県では低下傾向にある。たくましく生きる人を育てるためには、子どもの運動能力を引き上げることが喫緊の課題である。そのため、全国区のトップアスリートを輩出できる地域づくりを目標として、湘南の地場を生かした湘南マリンスポーツアカデミーを創設する。

トップアスリートを輩出することにより、「地域活性化」「湘南ブランドの確立」など様々な効果を生み出し、特に次世代の子どもたちには「ヒーロー」となり、「目標」にもなり、あらゆる場面に必要な「競争力」を、スポーツを通して植えつける。

湘南を日本が誇る「スポーツ選手育成のまち」としての実現と定着をめざす。

■現状と課題

- 学校体育の授業にアスリートの育成を絡めることは、学習指導要領のしばりがあり難しい。部活動に関しても、あくまで教育活動の一環であり、トップアスリートを育成することが目的ではないため、ここに触れることも現実的ではない。
- 野球やテニス、水泳などでは全国区の選手を輩出しているが、個人のスキルや私設スクールの関与比率が高く、スクールに頼りすぎない環境があることが望ましい。スクールの選手育成コースの中でも選手としての目標の「個人差」があるので非常に難しい。
- ナショナルチームの招へいに適した施設がなく、学校体育施設の有効活用が現時点では必要だが、地域総合型スポーツクラブの運営方法と重ね合わせて助成金や企業支援金の確保が最も必要。なぜなら、この運営資金確保が細かな課題項目（優秀な専属指導者招聘/会員獲得における広報資金/アカデミー専用施設確保）の解決に繋がり、はじめて選手育成に努めることができる。



■めざす姿

- 「マリンスポーツといえば湘南」というブランド化。
- 湘南からオリンピック金メダリストを輩出する。
- 国民的スポーツ選手を育てるこことにより、選手が広告塔となり湘南経済発展の一躍を担う。
- アカデミー所属選手は、選手引退後のセカンドキャリア（第二の人生）として、アカデミー指導者や湘南企業への就職をスムーズに出来るような仕組みができている（雇用促進）。
- 地域住民全体が、湘南マリンスポーツアカデミー（以下、説明文中は「湘南 MSA」）を応援したくなっている。



■具体的な取組み

アクション① 湘南マリンスポーツアカデミーの開校

具体的な内容	実施主体
<p>■運営母体となる湘南 MSA（マリンスポーツアカデミー）の法人格を取得 ■湘南 MSA で主となる種目を決定し、受け入れ可能な施設や開校可能な敷地を選定し、開校に向けての提案書を作成する。</p> <p>(例) • 主となる種目（ヨット、オープンウォーター、ビーチバレー、トライアスロン） • 受け入れ可能施設（学校/公共スポーツ施設/民間スポーツ施設） • 開校可能な敷地（江ノ島ヨットハーバー、茅ヶ崎ヘッドランド他）</p>	NPO・事業者 NPO・事業者
<p>■提案書を受け入れ可能施設やサポート企業などの関係各所に提案し、実現に向けての調整を図る。</p>	NPO・事業者

アクション② 湘南マリンスポーツアカデミー指導ライセンスの発行

具体的な内容	実施主体
<p>■湘南 MSA 指導ライセンス構築委員会を設立し（運営母体から代表者を選出）正式なライセンス発行までのスケジュールを決める。</p>	NPO・事業者 NPO・事業者
<p>■国内スポーツ組織各団体の指導ライセンス発行までのプログラムを参考に、コンセプトを決定し、主となる種目の指導カリキュラムと講義内容の構築を図る。</p> <p>例：湘南 MSA 指導者十則 〈一則〉自分自身が頑張る事は当たり前であり、誰かのために(御世話になっている方々)頑張る事を意識する事も大切である。</p>	
<p>■湘南 MSA 指導ライセンスを完成させ、資格取得者はキャリアアップ出来るような研修を積み、資格を発行できる側にまわり、湘南を発信元として全国に有資格者が生まれるような枠組みを作る。</p>	NPO・事業者

アクション③ 湘南マリンスポーツアカデミーサポート制度

具体的な内容	実施主体
<p>■運営母体内に湘南 MSA サポートデスクを設置し、官公庁からの助成金申請や応援企業やファンクラブ（個人サポーター）による支援金調達を図る。</p>	NPO・事業者
<p>■直接的な市民参加型応援プランを提案し、選手と支援者（企業/個人）に還元する。</p> <p>プラン① 県外選手のホームステイ受け入れ制度 プラン② 地元不動産業が中心となったアパート家賃割引プラン プラン③ 各商店街で選手に対して応援割引を実施する、湘南 MSA 応援加盟店制度 プラン④ 支援者（企業/個人）の特典として、湘南 MSA 指導者マンツーマンスポーツ指導チケットの発行</p>	NPO・事業者

アクション④ 湘南スポーツ文化親善大使の育成

具体的な内容	実施主体
<p>■湘南 MSA 内に文化振興部門を設置し、選手を育成しているスポーツ別の歴史と文化の情報収集を図り、SNS 等を活用した情報発信を実施。</p>	NPO・事業者
<p>■現役所属選手に対し、常にスポーツ文化人として生きるよう指導。</p>	NPO・事業者
<p>■湘南 MSA が育成した選手から湘南スポーツ文化親善大使を選出。</p>	NPO・事業者
<p>■湘南 MSA の元、文化振興につとめる。</p>	NPO・事業者

アクティブ・アフタースクール

■ねらい（概要）

- スポーツは様々な場面で行われているが、それぞれのプログラムはバラバラで連携が図られていない。そのため、官民が協力して体力向上プログラムを作成し、それぞれの機関が連携し、効果的な体力向上をめざす。
- まち全体でスポーツを盛んにするという気風はないのが現状。地域スポーツクラブが盛んなヨーロッパでは、スポーツクラブを介して地域コミュニティが強化されているという例もあることから、湘南エリア全体でアクティブなアフタースクール（以下、説明文中は「AAS」）を地域参加型スポーツクラブとして確立し、湘南らしい「たくましく生きるためのからだづくり」をめざしていく。



■具体的な取組み

アクション① 官民連携による湘南版スポーツ指数の作成

具体的な内容	実施主体
■ヘルスケア関係者が中心となり、身体活動と運動の強度表（METs）を参考に、湘南ならではの「身体活動」と「身体運動」の項目（例：海岸清掃/スタンドアップパドルで釣り/砂浜でのノルディックウォーキング）を挙げ、数値化した湘南版スポーツ指数を策定。	行政・企業 病院
■年に一度のスポーツテストの日（アクション④）に「年間スポーツ指数チェック表」を配布し、データ収集の為の回収デスクを設置。年齢別の平均値を行政が中心に公開し、湘南地域全体のからだづくりに対する意識を高める。	行政・企業 病院

アクション② アクティブ・アフタースクールの開催

具体的な内容	実施主体
■放課後の校庭や体育館を活用して実施する、AAS 実施可能な学校の選定。実施校では、官民連携によるサポート体制を設ける。	行政・企業 学校・NPO
■各学校教員内に AAS 担当者を配置。実施主体と参加者の連携を図る。 ■湘南版スポーツ指数の項目も踏まえ、AAS 種目を決定する。	

アクション③ アフタースクールソポーターの養成

具体的な内容	実施主体
■定年退職者を対象に AAS ソポーターを地域で募集。スポーツを通して次世代を担う人材育成を、経験豊富な定年退職者の方々に担ってもらう。 ■AAS 実施プログラムを開発し、AAS ソポーター資格を発行する。	行政・企業 学校・NPO

アクション④ 毎年開催「湘南スポーツテストの日」

具体的な内容	実施主体
■湘南スポーツテストの日実行委員会を設立。	行政・NPO 等 NPO 等
■テスト種目とアフタースクール種目との関連性をつけた、湘南独自のテスト種目と級制度を開発。	行政・NPO 等 NPO 等
■官民連携による広報活動を実施。 ■「年間スポーツ指数チェック表」回収デスクを設置（アクション①）。 ■AAS 実施校を湘南スポーツテスト会場に指定。湘南スポーツテストを通して、AASへの参加者を増やす。	行政・NPO 等 NPO 等 行政・NPO 等 市民・

プロジェクト 8

【スポーツ】

ワールドビーチゲームズ in 湘南

■ねらい（概要）

- 湘南は自然を活かしたスポーツが盛んに行われており、特に海のスポーツに適した地域である。湘南の特性を最大限に活かした取り組みにより、他の地域との差別化をはかる。その取り組みの一環として、ワールドビーチゲームズをここ湘南に誘致する。
- 世界レベルの大会を地元の子どもたちが観戦し、マリンスポーツが盛んなこの湘南を「かっこいいまち」と思えるようめざす。そのためにも、地域全体で大会の誘致・運営を行う。



■具体的な取組み

アクション① ワールドビーチゲームズ実行委員会の発足

具体的な内容	実施主体
■有識者・マリンスポーツ関係者・公募委員等により構成する実行委員会を発足。 同委員会にてアジアビーチゲームズを参考に誘致計画を策定。	行政・企業
■湘南 MSA 種目や湘南の特性を踏まえ開催種目を選定。	行政・企業
■開催種目別に向けて環境を整備する。	行政・企業 ・市民

アクション② ワールドビーチゲームズの開催

具体的な内容	実施主体
■ワールドビーチゲームズ大会事務局を設立。	行政・企業
■地元企業を中心に大会スポンサーを依頼。	行政・企業
■大会周知に向けた広報活動。	行政・企業
■運営ボランティアスタッフの募集。	市民

アクション③ マリンスポーツのまち実践プラン

具体的な内容	実施主体
■学校体育においてワールドビーチゲームズ実施種目の導入。 ■地域活性化成功市町村を参考に、更に重ね合わせたまちづくりを目指す。	学校 行政
(参考事例) ①市の大学無料誘致における地域活性化（国際武道大学） ②サーフィンのメッカということを活用した世界大会開催における「勝浦はサーフィンのまち」という意識づけ	

観光・産業分野

基本理念2

湘南のポテンシャルを活かした活力創出

■ 基本方向1 国際海浜リゾート「湘南」

圏央道開通に伴い国道134号沿いに“なぎさの駅”を開設して地域観光や防災・福祉の拠点とする。また、海だけでなく地域に埋もれている宝を発掘して磨きをかけ、重ねて・つなげて・広域で連携して、オールラウンド、オールシーズンの観光地を目指す。

さらに、海岸の実態や英知を総合的に結集させた「海岸学」という新たな学問体系を構築するとともに、日本初のブルーフラッグを取得して、世界中から認められる湘南とするよう提言する。

プロジェクト 9 “なぎさの駅”～観光元年

【観光】

アクション①	魅力あふれる湘南観光のための土台づくり
アクション②	徹底的な地域の「宝さがし」
アクション③	地域の参画による「観光」の育成、情報の発信

プロジェクト 10 つなげよう！海と SATOYAMA 観光

【観光】

アクション①	海と里、まちと里のネットワーク形成
アクション②	まだまだ足りない里山観光の拠点作り
アクション③	湘南の里山の情報発信

プロジェクト 11 日本初！「ブルーフラッグ」の国際認証取得

【観光】

アクション①	魅力ある海の観光のための体制づくり
アクション②	美しい湘南の海づくり
アクション③	「海岸学」の普及・啓発

■基本方向2 イノベーション産業都市「湘南」

企業は行政や地域と連携してまちおこしと人材育成を図るとともに、湘南の特色や広域連携が出来る利点を生かして、ロボット、リビングラボ、ヘルスケアなどの新たな産業を推進する。また、“Fujisawa サスティナブル・スマートタウン”による低炭素型ライフスタイルを推進して、各地へ展開できるよう提言する。



プロジェクト 12 湘南新産業特区のネットワーク

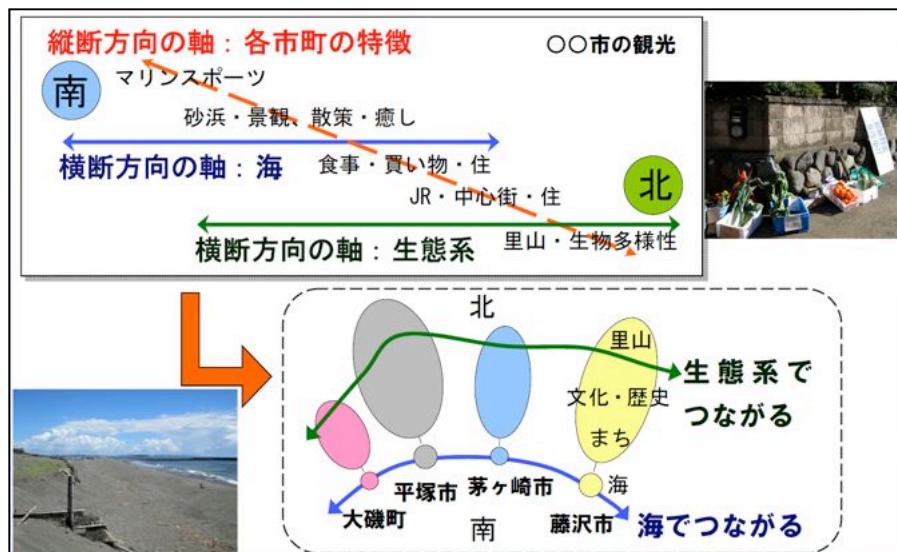
【産業】

アクション①	基盤整備と広域連携
アクション②	産・学・官が連携した人材育成
アクション③	新たな産業価値の創出

プロジェクト 13 環境先端都市湘南！「サスティナブル・スマートタウン」

【産業】

アクション①	地域でのスマコミブームの盛り上げ運動
アクション②	世界に広げるサスティナブル・スマートタウン



“なぎさの駅”～観光元年

混迷するサイクリングロード

■ねらい（概要）

圏央道開通に伴い国道 134 号沿いに“なぎさの駅”を開設して地域観光や防災・福祉の拠点する。また、海だけでなくまちや里にも埋もれている地域の宝を発掘して磨きをかけ、それらの資源に横のつながりを作り、足りないものは広域連携によって補うことで、オールラウンド、オールシーズンの観光地を目指す。

（関連プロジェクト：①郷土を学ぶ「湘南学」、⑩つなげよう！海と SATOYAMA 観光、②自転車で湘南の風を感じよう！）

■現状と課題

- ワールドカフェでの湘南の魅力は、「学校の窓をあけると潮風が吹いてくる。」「海だけじゃなく山もあり歴史もあるよ」「海がにぎやかで一年中人がいる」「海のにおいが好き」「江ノ電は乗っても外から見ても楽しく、海の見える瞬間がいい」。湘南は年齢を問わず住む人、訪れる人の多くが愛着をもち、満足をしているが、次に示す課題も多い。
- 湘南は①場所が不明確、②ブランドイメージが先行して地域価値に結びついていない、③住んでいる人や訪れる人への付加価値があまりないとされ、「湘南痴呆」と皮肉されることもある。
- 「おれが湘南、私の湘南」が実態で、行政は湘南ブランドの名を取り合いしており、湘南のブランドを戦略的に演出できていない。多くの市民は今のライフスタイルには満足しているが、湘南があたりまえの存在として捉えており、改めて価値を意識する機会や教育はなく、さらにまちの事をよく知らない。
- 交通渋滞、駐車場等のインフラ整備の遅れ、宿泊施設や荷物預り所の不足、交番がない、イベントへの苦情、海岸の飽和状態など多くの課題を抱えている。



■方向性

- 圏央道開通を見据え、なぎさの駅を国道 134 号沿いに開設するとともに、ここが観光をはじめ防災、福祉、教育における地域の拠点となるよう、各種機関と連携をとりあって施策を推進する。
- 「湘南ブランド」というイメージに捉われず、眠っている地域の宝を徹底的に見つけ出して磨きをかける。この宝を重ね、つなぎ合わせ、足りないものは広域的な連携ができる立地を活かして補う。
- 市町間で競い合わせてそれぞれの価値を高め、湘南の持つ弱みを強みに変える。
- 文化という土台をベースに、企業と市民、人と人とが繋がる魅力あるコミュニティを創出する。
- 砕波帯からなぎさ、砂浜、砂丘植生、海岸林へと続く生態系豊かなエコトーンを保全していく。

■めざす姿

- 国道 134 号沿いに開設されたなぎさの駅が地域観光や防災・福祉の拠点として機能している。
- 市民が見つけて磨き上げた地域の宝が広域連携でつながり、身近な観光スポットが増えた。
- 空民家を利用した宿泊施設が増えて、泊まって海やまちを楽しむ観光客が増加し、外国人も来る一年中賑わいのある観光地となった。
- ライフガードセンターの設置により海のルールが周知され、自治会による青パトの海岸巡回や休日におけるなぎさの移動交番が開設され、安心して海が利用できるようになった。



■具体的な取組み

アクション① 魅力あふれる湘南観光のための土台づくり

実施主体	具体的な内容
行政・企業	■圏央道開通を見据え、なぎさの駅建設を実現して湘南観光の拠点とする。
市・企業	■JR・小田急・江ノ電・神奈中と連携し、なぎさの駅を活用したバイクシェアリング制度を推進する。
市民・市	■駐車場・トイレ・荷物預かり所を増設し、行政と市民が協働して運営管理を行う。
市民・行政	■警察・消防・海上保安庁・ライフガードが常駐するなぎさの交番を設置する。さらに自治会のまちパト・青パトによる海岸巡回を行い、安心安全に楽しめる海にする。
市・企業	■海のルールの周知とPR活動を行い、誰もが気持ちよく訪れる海にする。
市民・市	■湘南北部地区との公共交通を確保し、イベントや生活・文化の交流を図る。
市民・企業	■安価な海のゲストハウスを設営して宿泊拠点を増やし、湘南の魅力であるライフスタイルを体験する機会を作る。また、民有の空き地を臨時駐車場や駐輪場へ転用する。これらにより、泊まり易い・移動しやすい観光地を目指す。

アクション② 徹底的な地域の「宝さがし」

実施主体	具体的な内容
市民・市	■湘南の今あるアドバンテージである、海、砂浜、富士山・江の島・松林等の優れた眺望、波の音・風の感覚・潮の香り等の体感を最大限に活かす。
市民・市	■発掘した地域の宝は最大限の磨きをかける。中には観光地として名のある烏帽子岩に“エボシ岩ブリッジ”を、など夢のある構想も必要である。
市民・NPO	■市民参加型の観光の確立。町を学び、歩き、通になり、ガイドを行い自ら楽しむ。
企業	■海岸近傍に湘南 B 級グルメ＆スイーツセンターを開設する。
市・企業	■海の家組合が協働運営する湘南足湯、シャワー、ビヤガーデンの開設と海の家シーズンの延長を行う。

アクション③ 地域の参画による「観光」の育成、情報の発信

実施主体	具体的な内容
市民・企業	■外国人ツアーの企画、寺での宿泊体験、外国人社員の呼び込み等をして、外国人が気軽に来やすい環境を整備する。そのためには外国語の学習も必要。
市民・企業	■ロードレーサーやロードバイク愛好家に対する駐輪や商店街と協働の各種イベント＆サービスを充実させる。
市・企業	■ペットと一緒に休めるお店（ドックカフェ）の開業や行政との協働によるペットの適正管理、しつけのセミナーを開催する。
市民・学校	■湘南を知り学ぶカリキュラムの導入や地域社会から学校教育への積極的な参加を促すことで、将来の皆を引っ張っていく観光リーダーとなる人材を育成する。
企業・NPO	■地元企業の助力による湘南の海の観光体制を確立するため、企業が自ら海を通じたCSR活動、イベントの開催や市民団体活動への協賛・支援等を実施する。
NPO・学校	■NPOの組織間や地元の学校・企業と連携して、地域に密着した活動を行う。
市民・企業	■地産地消、地産他消を推進する。

プロジェクト 10

【観光】

つなげよう！海と SATOYAMA 観光

■ねらい（概要）

- 湘南地区北部には自然豊かな里山が多く残っているが、「湘南の海」のネームバリューが大きいため、里山の認知度は低く、また交通の便が悪い。一方、海だけ・イベントだけの観光はシーズンや年齢層に制約があるなど課題も多い。
- このため、「海」に里山・谷戸・湧水などの魅力を併せ、里山・里川・里海の三位一体とした環境を創造し、市民が憩い、学習し、保全・保護するための活動を推進する。
- 湘南地区間の横軸に里山の魅力を活かした市民参加型の観光を開催して、海岸地区の観光や生活を縦軸でつなげ、広域連携を生態系でつなげた、観光ネットワークを形成する。

（関連プロジェクト：①郷土を学ぶ「湘南学」、⑤湘南版食育活動～湘南を食べよう～、⑨“なぎさの駅”～観光元年）



■具体的な取組み

アクション① 海と里、まちと里のネットワーク形成

実施主体	具体的な内容
市	■豊かな自然のつながりを意識した保全計画・活動指針を整備する。
市民・NPO	■市民のためのガイドの育成とツアー、共同イベント、ウォーキングの企画や双方のイベントへの交換参加を行う。
市民・NPO	■「里山公園」など特定の場所での受け身のボランティアだけでなく、学生に農家へ手伝いにいかせる、など若い世代から大人まで巣巣込み、地域の活性化を図る。
市・企業	■里山や花の名所、果樹園、祭、古道等の資源をフットパスでつなぎ、バスとバスの間に併せて食事処や産直販売所を展開する。里山やまちエリアで楽しめる観光の「道すじ」を地域にちりばめる。

アクション② まだまだ足りない里山観光の拠点作り

実施主体	具体的な内容
市・企業	■JR・小田急・江ノ電・神奈中と連携し、レンタル電動自転車を利用したバイクシェアリング制度を推進する。
市民・企業	■安価な農家滞在型のハウスを設営して宿泊拠点を増やし、民有の空き地を駐輪場へ転用する。これらにより、泊まり易い・移動しやすい観光地を目指す。
市民・企業	■里山エリアに飲食が出来て、地元で作った野菜や果物を販売する市を設ける。
市民	■里山管理活動の定期的な参加による地域ぐるみの里山管理体制を確立する。
企業	■里山の地の利を活かして昔のように木材生産林としての利用を推進する。

アクション③ 湘南の里山の情報発信

実施主体	具体的な内容
市民・市	■伝統的景観や風俗・自然の魅力をまずは市民、次に域外の方へ知ってもらう。
市民・学校	■湘南地域の学校間での連携をとりながら、環境を語ることのできる先生となる人材の教育を行う。
市民・学校	■海・川・里を意識させた教育へ NPO や地域に密着した研究を行う大学教授や地域の人人が協力する。

プロジェクト 11

【観光】

日本初！「ブルーフラッグ」の国際認証取得 ビーチスクール

■ねらい（概要）

- 湘南地区では市民団体の活動が盛んであるが、各団体の利害が複雑なため行政が首領を取ることはできずバラバラに活動している。これは理想の湘南海岸の目指すべき方向性が示されていないことにも要因がある。
- このため、きれいで安心安全、持続可能な開発が可能な湘南海岸を実現し、日本初のブルーフラッグ(BF)*を取得して、湘南からアジアへ海のエコ認証制度を発信する。その結果、世界中から認められる湘南観光地を目指す。
- また、海岸の実態や英知を総合的に結集させた「海岸学」という新たな学問体系を構築して、海岸の抱える諸問題の解決に貢献し、多くの人に海岸の自然の力、豊かさ、大切さ、危険性を理解してもらう。

(関連プロジェクト：⑨ “なぎさの駅”～観光元年)

*ブルーフラッグは、FEE(国際環境基金)により行われている海岸の国際的な環境認証基準で、現在44カ国約3650のビーチが認証済みである。アジアの海岸では認証事例はまだ無い。



■具体的な取組み

アクション① 魅力ある海の観光のための体制づくり

具体的な内容	実施主体
■BFを取得した各国の先進事例を調査研究する。	市・NPO
■BF取得を目指す団体(NPO法人湘南ブルーフラッグ協会)を設立する。	NPO
■BF取得に対して多くの住民が賛同・参加して地域一体的なムーブメントにする。	市民
■湘南BF協会へ環境・漁業・観光・ホテル・海の家・飲食店・スポーツ等の団体が加入して、BF取得のための環境保全、環境教育、施設整備等の事業を行う。	市民・市・企業

アクション② 美しい湘南の海づくり

具体的な内容	実施主体
■自治体が窓口になりBF基準の水質・安全・衛生等の各種調査を実施するとともに、FEEにブルーフラッグを申請する。	行政
■市民自らが湘南の海の魅力を再認識し、郷土愛を深める。また、家庭において環境教育などを行い、自然に触れ合い環境意識を向上させる。	市民
■地域でのBFイベントを開催する。例えばNPOが湘南の海の自然を学ぶ環境教育と海岸のゴミ拾いを一つのイベントで行うなど、BFの考え方方が体感して理解できるようなイベントを地域・観光客を対象として行う。	市民・NPO
■体育のカリキュラムや野外観察にマリンスポーツを導入する。またライフセーバーの育成をする。	学校

アクション③ 「海岸学」の普及・啓発

具体的な内容	実施主体
■市民自らが海岸学の勉強を通して、湘南の海の魅力・危険さを再認識するとともに、自然に触れ合い、地域の環境に対する意識を向上させる。	市民・学校
■海に関する社会的な諸問題の現状と課題について、広く一般に情報提供する。	市・県
■湘南地区の大学に海岸学科を新設し、学問探究を行うとともに専門家を育成する。	学校
■CSR活動、社員活動の一環として現場のフィールドワークの協力をする。	企業

プロジェクト 12

【産業】

湘南新産業特区

■ねらい（概要）

行政が住民の生活の全てを面倒みるのではなく、自分たちの問題は自分たちの知恵で対処する時代へと変わっている。企業は行政や地域と連携してまちおこしと人材育成を図るとともに、湘南の特色や広域連携が出来る利点を生かして、ロボット、リビングラボ、ヘルスケアなどの新たな産業を推進する。

（関連プロジェクト：⑨“なぎさの駅”～観光元年、⑭「湘南ヘルツーリズム」の確立、⑮高度医療（最先端医療）の提供）

■現状と課題

- 湘南は首都圏という大消費地に位置する利点を生かして、東海道線を軸に多くの工場が建設されてきたが、近年の相次ぐ工場撤退により、空洞化エリアの問題が生じている。藤沢市ではこの10年で1兆5千億円の税収減と1万5千人の雇用が消失した。
- 高速道路のインターチェンジからは遠く、道路事情が悪いため、大型物流拠点の多くが北関東地区へ集中している。
- 産業誘致等に対しては行政任せであり、市民は地元企業のことはよく知らず、大企業や都心の企業に勤務しているのが実態である。



■方向性

- 現在はかつてのように、雇用の裾野が広い第二次産業（製造業）に雇用を依存するのは難しいため、大きな産業でやっていくというのは現実的ではなく、産業構造をどうかえるかが重要となる。
- これからの産業はソーシャルビジネスが主流であり、新しい隙間をついていくような、小さいものをこつこつと積み重ねる産業により、地域の中でお金を回すことも同時に考える。
- 企業内教育を推進して競争力をつけ、まちを活性化させる。
- 文化という土台をベースにして、企業と市民、人と人が繋がる魅力あるコミュニティを創出する。



■めざす姿

- 圏央道の全面開通やバイクシェーリングの導入で交通事情が解消して、物流の拠点が湘南各市町へと広がった。
- ロボット、リビングラボ、ヘルスケアなどの新たな産業が発展して、雇用や若年人口が増えて活気あるまちとなっている。
- 都心で依存するところ、湘南でだけでできるところをしっかりと見いだされている。

■具体的な取組み

アクション① 基盤整備と広域連携

実施主体	具体的な内容
市・企業	■圏央道開通を見越して、交通渋滞の解消に向けた駐車場建設・歩道整備・交通機関や企業と連携したバイクシェアリングの導入を推進する。
市・企業	■商えるものを外から持つてこれないのであれば、中にある資源で考える。これは今あるものの価値観を高めて、売れるものにしていく、域外の人が湘南エリアに来て商品を購入することで外貨の獲得につなげる。
市	■市町間で競い合わせてそれぞれの価値を高め、湘南の持つ弱みを強みに変えていく。
県・市・企業	■圏央道沿線市町に湘南地区「の産業・文化・観光・産業特区」で連携して取り組む。
市・企業	■今東京近郊で元気のあるまちの、「東の渋谷！柏市」、「新都心！さいたま市」、「文化芸術！立川市」等の成功事例を調査研究する。

アクション② 産・学・官が連携した人材育成

実施主体	具体的な内容
市・企業・学校	■大学もまちに魅力がないと撤退するのが現実であり、文化が衰退する。このため、企業と連携してまちおこし、人おこし、人材育成を推進する。
市・企業・学校	■遊びは瞬間風速のようなもの。働きたいまち、学びたいまちにして消費を生み、人が集まり、経済が集まり、未来のまちへ続く。
企業	■昨今の地域間・国際間競争を抜け出すため研究開発や人の育成に力を入れる。
市民・企業	■産業誘致等に対して行政任せにせず、地域ぐるみで行動を起こす。
企業・学校	■企業同士や地元大学との連携を図る。
市民・企業	■魅力ある地域コミュニティを創出し、企業の積極的な参加を促す。
市民・企業・学校	■市民・学校と協働した企業のCSR活動を推進する。

アクション③ 新たな産業価値の創出

実施主体	具体的な内容
市・企業	■リビングラボに積極的に協力する。地域の産業・商業に対して興味を持ち、市民自らアンテナを広げて行動をする。
企業・NPO	■マリンスポーツ、フィットネスなど「海」・「湘南」のイメージを活かしたヘルスケア産業やサロン、ペットを入れるお店、身体と心を癒やした医療ツーリズムを促進する。
企業・NPO	■外国人観光客向けのおみやげの考案、ロードレーサー・ロードバイクの専門店とユーザーの商店街への誘導、魅力的なペットショップの開店など湘南観光の特徴とタイアップした新たな産業を創出する。



プロジェクト 13

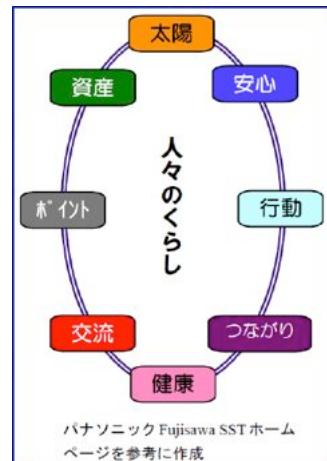
【産業】

環境先進都市湘南！「サスティナブル・スマートタウン」

■ねらい（概要）

- 東日本大震災を受け、太陽光発電システムと蓄電池をコミュニティ単位で導入した、安心・安全のエネルギー・インフラが着目されている。このような中、藤沢市では企業と連携して、「FUJISAWA サスティナブル・スマートタウン構想」(H26 春まち開き) を立ち上げた。
- これにより、「自然の恵みを最大限取り入れた、地産地消型の安心・安全なサスティナブルな街づくり」、「電力・情報ネットワークが最初から繋がり住民に負荷なく最適制御するスマートな街づくり」を実現して、街の魅力を高めるとともに CO₂ の削減を目指す。併せてサスティナブル・スマートタウンの住宅関連の環境技術研究機関の誘致を目指す。

(関連プロジェクト : ⑭ 「湘南ヘルツーリズム」の確立、⑮ 高度医療(最先端医療)の提供)



パナソニック Fujisawa SST ホーム
ページを参考に作成

■具体的な取組み

アクション① 地域でのスマコミブームの盛り上げ運動

具体的な内容	実施主体
■ 「Fujisawa サスティナブル・スマートタウン」を検証する。	市
■ 交通、住宅、エネルギー等に関する先進環境技術企業を誘致し、先進環境技術を実証実験して、市内外での事業化・導入展開を誘導する。	市・企業
■ pHV 共同利用（カーシェアリング、太陽光発電を利用した充電施設等の整備）を実施する。	企業
■ 市民・事業者・行政が協働した取組による低炭素型社会システムの構築・低炭素型ライフスタイルの改革を行う。	市民・市・企業
■ 環境関連産業の振興や雇用の創出を図る。	市・企業

アクション② 世界に広げるサスティナブル・スマートタウン

具体的な内容	実施主体
■ 広域連携を活かしてサスティナブル・スマートタウンを湘南地区へ広める。	市・企業
■ メガフロートでサスティナブル・スマートタウン “ENOSHIMA” を作り、アジア地域・世界へ輸出する。	企業



医療・福祉分野

基本理念3

湘南の源となる輝きつづける命と絆づくり

■ 基本方向1 健康先進都市「湘南」

「湘南」地域が、明るく暖かいというイメージを活かし、湘南を訪れる人を健康にする、湘南に住んでいる人は健康である、という健康先進都市であることをアピールする。

プロジェクト 14 「湘南ヘルツーリズム」の確立 【医療】

アクション①	構想を実現する環境整備
アクション②	ヘルツーリズム構想の具現化
アクション③	環境維持への協力

プロジェクト 15 高度医療（最先端医療）の提供 【医療】

アクション①	医療体制の整備
アクション②	高度医療の提供
アクション③	安全の確保など提供体制の維持

プロジェクト 16 誰もが楽しみながら享受できる保険事業の実施 【医療】

アクション①	制度の設計
アクション②	フィットネスクラブ等を利用した保健事業の実施
アクション③	事業への参加、協力

■ 基本方向2 「湘南づきあい」のあるまち

湘南に憧れ、湘南に住みたいと思う方は多い。湘南に集う誰もが、湘南で生きがいや仲間を見つけ、それぞれが健康で充実した生活を送り、お互いに支え合える絆「湘南づきあい」のあるまちをつくる。さらにその絆が世代を超えて続くようなコミュニティをつくることによって、介護や子育てがしやすい「湘南」をめざす。

プロジェクト 17 50歳からの「湘南大入大学」 【福祉】

アクション①	「湘南大入大学」の開校
アクション②	「湘南大入大学」の運営
アクション③	「湘南大入大学」の発展



プロジェクト 18 介護・育児を支え合うコミュニティづくり

【福祉】

アクション①	コミュニティづくりにむけた環境整備
アクション②	コミュニティづくりとコミュニティの運営
アクション③	ワークライフバランスの普及啓発、推進

プロジェクト 19 ユニバーサルスポーツ大会の開催

【福祉】

アクション①	バリアフリーのまちづくり
アクション②	ユニバーサルスポーツ大会の実施
アクション③	ユニバーサルスポーツの発展

プロジェクト 14

【医療】

「湘南ヘルスツーリズム」の確立

■ねらい（概要）

- 湘南という環境を活かし、ヘルスツーリズムを確立することによって健康・医療都市のイメージを創り出すとともに、観光客を呼び込むことにより地場産業や雇用の創出をめざす。
- 介護者も休める（レスパイト）メニュー作り、既存施設の活用（旅館や公共施設をリフォーム）、福祉人材の活用、オフシーズンの活用などを検討する。

（関連プロジェクト：12 湘南新産業特区、23 自転車で湘南の風を感じよう！）



■具体的な取組み

アクション① 構想を実現する環境整備

具体的な内容	実施主体
■まちづくり（ゾーニング）の検討と実施を行う。	行政
■サイクリング・ウォーキングできる道路を整備する。	行政
■ツアーへの既存施設（旅館、お寺や公共施設等）の活用を検討する。	行政、企業
■施設・公共空間のバリアフリー化を行う。	行政、企業
■シティプロモーションを実施する。	行政
■参入事業者への優遇税制の検討と実施を行う。	行政
■地産地消できる卸制度を構築する。	行政

アクション② ヘルスツーリズム構想の具現化

具体的な内容	実施主体
■ツアーの企画（メニューづくり）を行う。	企業
■ツアーの運営（実施はオフシーズンを想定する）を行う。	企業
■ツアーの中で湘南産の野菜・魚を使用した食事を提供する。通常の営業の中でも湘南産の野菜・魚の使用に努める。	企業
■ツアーの中で健康や癒しの体験プログラムを実施する。	企業
■ツアーに関わる雇用については、地元雇用（高齢者・障がい者・女性）を積極的に推進する。	企業
■要介護旅行者の介助への福祉人材の活用を行う。	企業、行政

アクション③ 環境維持への協力

具体的な内容	実施主体
■サイクリング・ウォーキング道路の砂の除去に協力する。	市民、NPO
■マリンスポーツ団体、障がい者団体のツアーへの協力、連携を進める。	NPO、企業
■砂浜や海の清掃を実施する。	行政、学校、NPO、市民

プロジェクト 15

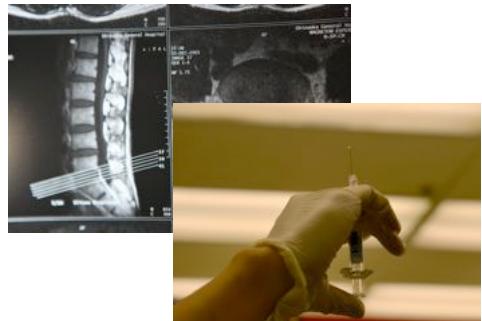
【医療】

高度医療(最先端医療)の提供

■ねらい（概要）

- 高度医療が提供できる病院を誘致する。ヘルツツーリズムに加え、メディカルツーリズムを提唱するとともに、地元医療機関との連携による医療提供体制の構築や人材育成を進める。また、医療系企業との連携をはかる。

(関連プロジェクト：12 新産業特区)



■具体的な取組み

アクション① 医療体制の整備

具体的な内容	実施主体
■各種規制の緩和による環境整備を行う。	行政
■病院を誘致し、設立する。	行政、医療機関
■地域の医療計画との整合をはかる。	行政
■地元医療機関、医師会との連携による地域医療のネットワークづくりを進める。	行政、医療機関
■看護学校との連携、協力を進める。	NPO 行政、医療機関、学校

アクション② 高度医療の提供

具体的な内容	実施主体
■病院による高度医療の提供を行う。	医療機関
■高度医療機器の整備（整備補助）を進める。	医療機関、行政
■地域医療ネットワークを通じた患者の受け入れを行う。	医療機関
■海外からの医師、研究者、患者の受け入れを行う。	医療機関
■地元医師の研修受け入れを行う。	医療機関
■医療機器、医薬品メーカーとの連携を進める。	医療機関、企業

アクション③ 安全の確保など提供体制の維持

具体的な内容	実施主体
■病院のかかり方など医療に関する理解を深める。	市民
■未承認薬などの使用に関する取り決めを行い、安全の確保をはかる。	行政、医療機関
■受診に関する健康保険制度との整理を行う。	行政
■治療成果、研究成果などを積極的に発信する。	医療機関

プロジェクト 16

【医療】

誰もが楽しみながら享受できる保険事業の実施

■ねらい（概要）

- 国民健康保険（国保）は、総支出額（主に医療費）に対して、加入者、市町村、国が一定割合ずつ負担し合う制度である。しかし、赤字補てんのためなど、市町村が割合以上の税金を投入している実態がある。このままでは、小規模な市町村の国保は財政的に破綻する可能性があるため、現在、国保の保険事業を市町村個別の運営から都道府県単位での運営に移行することが想定されている。
- 病気予防を促進し医療費を抑制するため、従来から運営の中で実施されてきた保健事業について、移行後の規模を活かし誰もが楽しみながら参加できる事業としていく。

（関連プロジェクト：23 自転車で湘南の風を感じよう！）



■具体的な取組み

アクション① 制度の設計

具体的な内容	実施主体
■制度の設計（法・制度改正要望を含む）を行う。	行政
■加入者への説明、周知を行う。	行政
■連携事業者（フィットネスクラブ等）を募集する。	行政

アクション② フィットネスクラブ等を利用した保健事業の実施

具体的な内容	実施主体
■フィットネスクラブへの使用料の負担を行う。	行政
■オフピーク時のスペースの提供を行う。	企業
■オフピーク時のトレーナーの協力をを行う。	企業
■器具（ボールなど簡易な運動用器具）を購入する。	企業
■医療費分析など効果を測定する。	行政、企業
■サイクリング事業（コミュニティーサイクル事業など）との連携を検討し実施する。	行政、企業

アクション③ 事業への参加、協力

具体的な内容	実施主体
■積極的に事業へ参加する。	市民
■事業への保険料負担についての理解を深めるとともに、意見提案を行う。	市民
■さらなる効果的なプログラムの考案を行う。	企業、NPO
■医療費抑制効果額に応じ、保健事業を充実させる。	行政

プロジェクト 17

【福祉】

50歳からの「湘南大入大学」

■ねらい（概要）

「湘南づきあい」を創出し、誰もが地域にとけこみ、地域の一員となり暮らしていくための入り口として、50歳以上の湘南を愛する方を対象に「湘南大入大学」を開校する。学びや活動を通じて生きがいや仲間をつくり、生涯を地域で健康に過ごすことをめざす。
(関連プロジェクト：4 保護者のしつけ力向上プロジェクト、9 “なぎさの駅”～観光元年、21 誰もが湘南防災マイスター)

■現状と課題

- 各自治体で社会教育講座が行われているが、縦割りだったり、参加者が少なかったり、お洒落じゃなかったりというイメージがある。
- 特に50歳位の方の地域づくり活動や社会教育講座への参加が少ない。
- 予算が少ない。



■めざす姿

- 運営にあたり、カリキュラムを柔軟に設定する、講師を幅広く募集する、参加者のニーズを反映するしくみをつくる。その結果、多くの参加者が集まっている。
- 新たな学びや人間関係構築の場を提供し、これまで仕事や家庭に打ち込んできた方が、50歳位を転機として、地域で第二の活躍ができている。
- 行政の予算だけでなく、企業の寄付講座などを募ることにより、カリキュラムの内容が充実している。
- 講義や発表の内容がアーカイブ化され、発信されることにより湘南の文化の蓄積と湘南に憧れる人の増加が図られている。



■具体的な取組み

アクション① 「湘南大人大学」の開校

具体的な内容	実施主体
■開校（設置）に向けてNPO法人を立ち上げる。	NPO
■湘南エリアの市町村の協力を呼びかける。	NPO、行政
■エリア内にある大学（慶應・文教・湘南工科・・）、企業（地場産業だけではなく）の参加を働きかける。	NPO、学校企業
■予算の確保及び協賛金を募る。	NPO
■設置場所を確保する（例：学校の空き教室やお寺）。市町村ごとにサテライトの設置も検討する。	NPO、行政
■学長を創造性の高い人（例：作家やディレクター、加山雄三さん）にお願いする。	NPO、企業
■学部の設定やカリキュラムを検討し、決定する。 ＜学部・カリキュラム（案）＞ ○湘南学部なぎさ学科／人生学部酒学科・旅学科 など ○企業からの寄付講義	NPO、行政 学校、企業、市民
■カリキュラムに合わせて、従来の講座（社会教育）を再構築、重複がないようにし、講座の開催を委託する。	NPO、行政
■カリキュラムに合わせた教授陣を選考し、決定する。	NPO、行政、学校、企業、市民
■生徒を募集する（全国からの応募も受ける）。 ＜入学資格（案）＞ ○50歳以上 ○湘南が好きであること ○特に試験は行わないが、卒業後は地域の一員となってもらうこと ■入学式を行い、開校する。	NPO
	NPO、市民

アクション② 「湘南大人大学」の運営

具体的な内容	実施主体
■事務局として運営にあたる。	NPO
■情報を広報し、提供する。	NPO
■講座やカリキュラムの協賛を募る。募集を受け、協賛する。	NPO、企業
■湘南の地域を活かしたカリキュラム（海岸学・地域史）へ協力する。	NPO、市民
■受講者として積極的に参加する。	市民
■持っているネットワークを活かして入学者の確保に協力する。	市民、行政
■カリキュラムの向上（希望を出すなど）に協力する。出された意見を反映する。	NPO、市民
■カリキュラムの可否を生徒が集まるかどうかで判断するシステムを構築する。	NPO
■先生、生徒それぞれが英知を披露し、刺激しあう場とする。	市民
■湘南大人大学グッズを作成する。	NPO、市民、企業
■入学式や卒業式を考案し、実施する。	市民
■卒業後は地域の一員となり、引き続き地域で活動していく。	市民

アクション③ 「湘南大人大学」の発展

具体的な内容	実施主体
■観光施設、イベント（例：大磯市）などでも発表や公開講座を行う。	NPO
■大人達が新たなコミュニケーションの場で繋がりを深め、社会の役に立っていくという目的を達成するための具体策を検討し、実施する。	NPO、行政
■卒業生を登録し、シルバー人材の宝庫とする。この人材を「湘南大人大学のゴーランド人材」と呼ぶ。	NPO
■卒業生の人材派遣、再就職をバックアップ。今までの現役経験をフルに活かした様々な能力を企業に（ハローワークを経由させないホット情報）直接アピールする。	NPO、企業
■卒業生の人材を積極的に活用していく。	NPO
■オンライン大学を開設し、全国の湘南に憧れる人へ向けて発信する。	NPO
■講義や発表などはアーカイブ化する。	NPO
■都内通勤者を中心に、入学者予備軍の集うサークル「湘南クラブ」を組織し、運営する。	市民

プロジェクト 18

【福祉】

介護・育児を支え合うコミュニティづくり

■ねらい（概要）

女性の負担を軽減し労働参加の機会を増やすため、在宅医療や介護、子育てサービスをコミュニティ単位で提供するなど、湘南地域がワークライフバランスのとれる「介護・育児が日本一しやすいまち」となることをめざす。

ここでいうコミュニティとは、地区・団地・マンション単位で構築していくものとし、在宅医療など医療・福祉サービスが適正に展開できる人口・世帯構成の規模とバランスをとっていく。

■現状と課題

- 働いている方が地域にいる時間が少ない。
- 高齢化が進行している。
- 待機児童が増加している。
- 介護や子育てなどで休みにくかったり働き続けることが難しい風潮がある。
- 世帯所得が下がって働きに行きたいが介護や子育てを両立して行える仕事が少ない。



■めざす姿

- 地域での雇用や多様な働き方が増える。
- 高齢者の地域での見守りの場や、高齢者が活躍できる場を確保されている。また、在宅医療が受けられるような環境がある。
- 地域で子育てができる場がつくられている。その結果、待機児童が減少している。
- 世代間交流などが実施され、高齢者や子どもが支え合える関係ができている。
- 社会的にワークライフバランスをとることの価値が高まっている。
- 家庭や地域で介護や子育てをしながらできる仕事や、取得した資格が活かせるようなしきみがつくられている。



プロジェクトのイメージ図



■具体的な取組み

アクション① コミュニティづくりにむけた環境整備

具体的な内容	実施主体
■法や制度の整備（改正要望などを含む）を行う。	行政
■多岐にわたる担当窓口を一本化する。	行政
■運営主体への補助制度を設計する。	行政
■まちづくり（ゾーニング）を実施し、コミュニティの圏域を設定する。	行政
■4世代、3世代住宅を奨励する。	行政
■駅付近に高齢者向け住宅を建設し、商店街などまちのにぎわいを復活させる。	行政
■助け合うコミュニティづくりとして自治会・町内会の活性化をはかる。	行政、市民
■医療・福祉サービス提供の中核となる、在宅医療者や介護・保育事業者の誘致もしくは既存事業者の協力を依頼する。	行政、事業者、市民
■子ども達が自主性を持つとともに、各年代の居場所を整備する。 <例> ○泥んこ保育園、知育保育園、生きる力保育園 ○乳児から小学校3年生までの保育園&学童施設 ○小学校高学年にも放課後児童クラブ ○小学4年生～中学生までの居場所作り	行政、事業者
■介護と子育てが融合するよう、子育て施設と高齢者施設を近くに設置したり、世代間交流をはかる。	行政、事業者
■地元で起業しやすくする制度を設計し実施する。	行政
■女性が働きやすい企業の誘致を行う。	行政
■女性が働きやすいインセンティブを検討し、実施する。	行政、企業
■資格のある人材を育てる（看護師・保健師・保育士）。	行政

アクション② コミュニティづくりとコミュニティの運営

具体的な内容	実施主体
■受け入れコミュニティ（地区・団地・マンション単位）の協力をとりつける。	市民
■複合的な在宅医療・介護・保育サービスの提供を行う。	事業者
■提供サービスのコーディネートを行う運営主体を設置する。	NPO
■運営主体はコールセンター機能を有し、地域住民がコーディネートをはかる。	NPO、住民
■ITフル活用の医療、介護、日常生活のサポートを行う。	NPO
■圏域内の施設（グループホームや保育ママ、障がい者地域作業所等）とも連携を図る。	NPO、住民
■潜在的有資格者（看護師・保健師・保育士）の参加・ネットワーク化を進める。	NPO、住民
■住民や市民団体もボランティアとしてコミュニティの運営（介護（高齢者の見守り）や育児）に協力する。	住民
■男性は積極的に子育て、家事に参加する。	住民
■里孫制度、孫がない高齢者と子育て世代のマッチングを行う。	NPO、住民
■元気な高齢者が介護サポートを行う体制をつくる。	NPO
■湘南地域の「介護・子育て」ワンストップ問題解決ポータルサイトを設置、運営する。	NPO、行政

アクション③ ワークライフバランスの普及啓発、推進

具体的な内容	実施主体
■働きやすい、多様な働き方に理解のある職場環境づくり（休みやすい・残業を減らす・給与体系、キャリアサポートの整備）に努める。	企業
■ワークライフバランスに関する企業への助言等を行う。	行政、NPO
■在宅ワークの拡大をはかる。	行政、企業
■ワークライフバランスに関する啓発を実施する（イクメン教育など）。啓発をうけて理解を深める。	行政、市民
■正社員でも労働時間がフレキシブルな体制づくり	企業
■お店はハッピーアワーの導入をし、仕事を早く終えたり、家族との時間を過ごすよう誘引する。	企業
■女性にやさしい日「湘南レディースデー」を制定し、飲食店・美容院の割引サービスなどが幅広く受けられるようにする。	行政、企業

ユニバーサルスポーツ大会の開催

■ねらい（概要）

- 誰もが「湘南づきあい」の一員として地域にとけこみ、明るく健康に暮らすためには、障がい者、高齢者に配慮したバリアフリーのまちづくりが必要である。
- そういうた環境整備が行き届いた湘南であることをアピールするために、まちのバリアフリーを活かしたユニバーサルスポーツ大会（障がい者も参加できるスポーツ大会）を実施する。



■具体的な取組み

アクション① バリアフリーのまちづくり

具体的な内容	実施主体
■まちづくりにバリアフリーの観点を取り込む。	行政
■公共空間のバリアフリー化を行う。	行政
■大会コースの整備を行う。	行政
■障がい者もスポーツできるような練習環境の整備を行う。	行政

アクション② ユニバーサルスポーツ大会の実施

具体的な内容	実施主体
■大会事務局を設立する。	行政、NPO
■スポンサー、協賛の募集および応募を行う。	NPO、企業
■大会の企画、運営を行う。	NPO
■大会の周知を行う。	NPO
■運営ボランティアスタッフとして協力する。	市民
■多くの当事者、市民が出場する。	市民

アクション③ ユニバーサルスポーツの発展

具体的な内容	実施主体
■海に関するスポーツ（オープンウォーター、サーフィン、トライアスロンなど）を体育の授業で実施する。	行政、学校
■バリアフリー教育を行う。	行政、学校
■障がい者スポーツ団体、競技者の育成を進める。	行政

防災・交通分野

基本理念4

湘南の安心を守る災害に強いまちづくり

■ 基本方向1 “湘南防災スタイル”の推進

災害は突然やってくる。湘南地域は海に隣接していることもあり、津波の危険性の高い地域である。この危険性をしっかり認識し、防災意識を高めていかなければならない。災害発生時には行政機関も被災することを考えると平素から災害の対策を市民の手で考えていかなければならない。

しかし、1000年に一度の災害に対応することは不可能であり、日常に生かしつつ減災を考える施策が現実的。また、義務教育と家庭で防災を志すスピリットの醸成は、弱者に優しく心の温かい幸せあふれる街づくりに必ず貢献する。

日常に生かせる施策を進めるとともに、常に市民が率先して防災のことを考える、「湘南防災スタイル」を確立する。

プロジェクト 20 誰もが湘南防災マイスター

【防災】

アクション①	新資格“湘南防災マイスター”的創設。住民の50%に普及。
アクション②	全家庭で家庭ごとの避難訓練実施
アクション③	自治会独自の防災対策費と防災モデル地区へ
アクション④	オレンジフラッグの普及

プロジェクト 21 地域防災10日間プラン

【防災】

アクション①	発災後～3時間以内 災害への初期対応と情報発信
アクション②	発災後24時間以内 避難生活環境の改善
アクション③	発災後10日以内 生活再建支援と自治会機能の回復

プロジェクト 22 津波避難ビル充実大作戦

【防災】

アクション①	住民主体による防災合意形成と避難場所の確保
アクション②	先進事例を基に周辺マンション、地域に展開し安全エリア化を図る
アクション③	自治体による津波避難への補助制度拡充

■基本方向2 楽しくやさしい湘南ロード

10m以下の津波をブロックできるように、葉山～二宮を結ぶ盛土したサイクリングロードの建設と、大火事の延焼を防ぐためでもある駅から海岸までのサイクリングロードの整備を通じて、防災を図りつつも「サイクリングと言えば湘南」という観光の目玉にする。既存のサイクリングロードを盛土して嵩上げし、左右に森を作り、世界に誇れる風光明媚な景観を堪能できるばかりか、湘南のさわやかな風を感じ走れるように、縦横に結ぶサイクリング道路を整備する。また、災害を含む緊急時には、防災ロードとしての役割を担い、安心安全で快適な街づくりを支える。

プロジェクト 23 自転車で湘南の風を感じよう！

【交通】

【通】

アクション①	道路周辺状況の記録と発信
アクション②	ステークホルダーによる理想像の検討
アクション③	画期的なサイクルシティーの誕生

プロジェクト 24 北斎が愛した富士に逢う “さがみなぎさ新交通” 【交通】

アクション①	JR各駅～海岸線間のクリーンシャトルバスの運行
アクション②	葉山～大磯間の国道134号線へLRT(次世代型路面電車システム)導入
アクション③	自転車も積める相模湾海上交通(シーバス)網の充実
アクション④	プライシングロード

プロジェクト 20



【防災】

誰もが湘南防災マイスター

■ねらい（概要）

湘南地域は海に隣接しているという地域性、災害発生時行政も被災することを考慮すると、市民一人一人が最低限の防災知識を共有していかなければならない。自分たちの町は自分たちで守る精神を涵養すると共に、災害発生時には全員が主体的に動けるまちづくりをしていかなければならない。そこで、市民全員が防災スペシャリストとなるプランを提案する。

（関連プロジェクト：②自ら考え身を守る防災教育の推進）

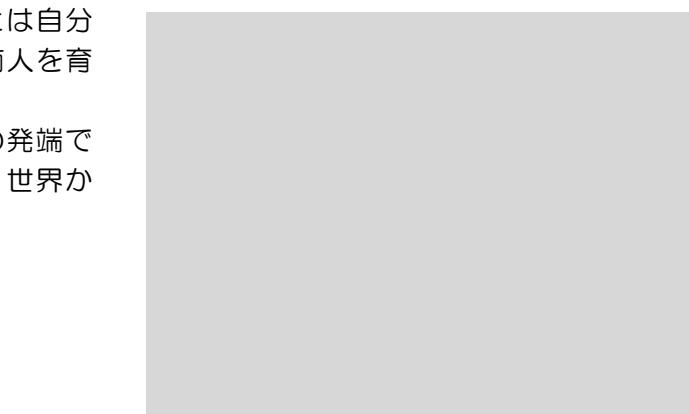
■現状と課題

- 多くの住民が災害発生時の緊急対応に関し、公助に期待している。しかし、大災害時には公助はまったく役に立たない。このことを周知徹底とともに、自分たちにできることは自分たちで行う自助、隣三軒の方を率先して救う共助の重要性を理解する必要がある。
- 数千億を投じた防潮堤を建設することは景観的、財政的に困難である。それに比べ、市民への防災普及にはコスト的に安いばかりでなく、地域社会の結びつきを強めたり、住民自らが危険箇所を把握できたりと様々な効果が期待できる。
- 犯罪対策であるなら警察、疫病に対してなら病院が専門的に対処することができるが、災害に関して対処するのは市民一人一人である。



■めざす姿

- 市民誰もが防災知識を共有することで、迅速且つ主体的に行動でき、いざというときに被害を最小限に抑えることができる。
- 行政の手を借りることなく市民が市民を守る地域を実現する。
- 何かあれば他を頼ることなく、自分のことは自分で行うという自主自立の精神を持った湘南人を育成する。
- 今までの湘南は、マリンスポーツや流行の発端であったが、これからは防災の街づくりで、世界から注目されている。



■具体的な取組み

アクション① 新資格“湘南防災マイスター”の創設。住民の50%に普及。

具体的な内容	実施主体
■防災系の資格と言えば、防災士や救急救命ボランティアなどが挙げられるが、全て全国的な資格である。防災には地域性が必要。そこで、湘南地域に特化した民間資格“湘南防災マイスター”を新設する。防災士、災害救援ボランティア講座の内容のみならず、倒壊家屋からの生き埋め者を救出できるチェンソーや油圧ジャッキの講習を受けた、言わば文武両道の防災マイスターを育成する。	市民
■ライセンスを発行する市民団体を創設。	NPO
■2022年までに住民の50%に普及させる。	NPO
■開催は「湘南大人大学」と連携	NPO
■企業、NPO、学校等あらゆる主体での“湘南防災マイスター”的推奨を実施。義務教育で必修として（学校教育とリンク）、数十年後には成人の住民のほとんどが取得したい。住民にインセンティブを与えるため、世帯全員が受講済みの場合には、交通政策のブライシングロードの年間料金を無料とする。	企業、学校等
■また県民共済などと協定を結んで、この資格を取得した人には生命・損害保険料が安くなる等のインセンティブを実現する。	企業

アクション② 全家庭で家庭ごとの避難訓練実施

具体的な内容	実施主体
■学校や企業での避難訓練は適宜行われているが、多くの場合、家庭での避難訓練は実施されていない。湘南地区では各家庭での避難訓練を強く推奨する。	行政
■湘南地区では、家庭避難訓練をするのが「当たり前」という習慣をつくる。	各家庭
■“shake out”的導入。実際に体を使い、より多くの人が参加し、その体験を共有することにより、実践的な防災リテラシーを高める。	

アクション③ 自治会独自の防災対策費と防災モデル地区へ

具体的な内容	実施主体
■地域住民に、遺言の一部で災害対策用機材などを自治会に寄付することを奨励 1000万円以上の寄付で、○○自治会名誉市民として後世に名を残す (例:湘南太郎児童公園、湘南太郎会館、湘南太郎防災倉庫、湘南太郎夏祭り等)	自治体、自治会
■公園内の災害対策兼用のトイレ、シャワーなどにネーミングライツを導入 例:○○肉店災害対策マンホールトイレ、○○小児科 AED、故○○氏寄贈発電機	自治会
■向う三軒両隣で、各世帯最低1人が防災講習を受講したら表彰とステッカー付与	自治会
■協賛した地域の企業・商店に、自治会協力店ステッカーとPRチラシの配布協力 年30万円 ○○自治会プラチナ協力店 掲示板、回覧板にロゴ、PRチラシ等 年10万円 ○○自治会ゴールド協力店 プラチナ協力店との差別化 年5万円 ○○自治会シルバー協力店 ゴールド協力店との差別化	自治会
■防災土講習の簡易版や大災害発生を前提にした防災訓練を主管・実践する、湘南エリアを統括した主管NPO団体を育成する。湘南エリア内が横連携することで、スケールメリットが生まれて、人・救助機材・資金が集まり、組織・実行力が増す。	NPO
■上記の湘南モデルを確立させて、「世界が模範とする防災モデル地区」認定をめざす。	行政、市民

アクション④ オレンジフラッグの普及

具体的な内容	実施主体
■「オレンジフラッグ」とは、日本財団と全国各地の団体でつくる「諸の交番プロジェクト」が津波注意報・警報発令時に波の音や風の影響に左右されない視覚的な避難合図として、全国各地で認知を広める活動が行われている鎌倉発の新しい津波情報の伝達手段。しかし、なかなか普及していないのが現状。	NPO、市民
■湘南地域から巻き起こすプロジェクトとして周知徹底、全国への普及活動を行なう。誘導サインの掲示や分かりやすい統一デザインなどの整備も行なう。	NPO、市民

プロジェクト 21



【防災】

地域防災 10 日間プラン

■ねらい（概要）

- 関東大震災の際に、首都東京への緊急物資の支援は早かったが、湘南は遅れる傾向があったよう。地域内の自助共助を強化して公助が届くまで生き延びられるようにする。
- 公助の防災対策に限界があることを前提に、日ごろから地域内に少しずつ救助資材、備蓄飲料、食料、トイレを配備し、情報ネットワークの強化も図る。
- 生死を分ける発災後 72 時間以内の生き埋めとなった住民の救出・救助を高めるため、地域の救出・応急手当能力を高める組織や住民の研修、また地域内の企業との協定や訓練を実施する。
- 公助については、今の税収不足では期待できない。緊急性が求められる今、地域の防災対策トイレや救助機材の配備費用は、自治会内の住民企業からの寄付で推進させる。

■具体的な取組み

アクション① 発災後～3 時間以内 災害への初期対応と情報発信

具体的な内容	実施主体
■生き埋め者の救出・救助と初期消火活動	市民
■地域内の安全確保と、要援護者を含む住民の避難誘導	市民
■救護所、避難所の開設準備と住民への伝達	市民
■水や食料の配布準備と仮設トイレの設置	市民
■災害時に有効な情報インフラの把握と共有	市民
■ペット受け入れ場所の設置	市民

アクション② 発災後 24 時間以内 避難生活環境の改善

具体的な内容	実施主体
■倒壊家屋の生き埋め者の搜索と機材を使った救出及び応急手当・搬送	市民
■水、食料、乳児ミルク、持病患者への薬品などの提供と情報伝達	市民
■要援護者の避難環境の改善	市民
■自治体、提携企業、学校、自衛隊、災害ボランティアセンターなどとの連携	市民
■トイレ、風呂、ゴミ、着替えなど保健衛生の向上	市民

アクション③ 発災後 10 日以内 生活再建支援と自治会機能の回復

具体的な内容	実施主体
■救援・支援物資の配布	市民
■避難所の生活環境の改善、とくに女性・高齢者のプライベート空間の確保	市民
■自治会役員会議、地域再建会議の開催	市民
■被災者の健康調査と病状悪化者の搬送	市民
■防犯対策の見回り隊結成	市民

プロジェクト 22



【防災】

津波避難ビル充実大作戦

■ねらい（概要）

- 住民自らの避難ビル／高台構築活動を湘南地域で展開する。
- 沿岸にはマンション、高台が多く存在することから津波からの全員避難を目的にワーキング活動を通じ、地区毎の課題把握と避難場所設置への住民理解により実行する。
- 個々のマンション、高台地域で屋上階段・通路を自主整備するとともに周辺住民や観光客へ避難場所を提供する事を基本とすることで自治体は効率的な津波避難ビル／高台確保と補助対策が可能となる。

■具体的な取組み

アクション① 住民主体による防災合意形成と避難場所の確保

具体的な内容	実施主体
■マンションや自治会ごとの勉強会、ワーキング活動にて自らの津波避難への正しい理解と課題把握を行い、行政に頼らない「自助」を基本に屋上階段、通路の設置へ向けた合意形成を進める。	市民
■また、周辺住民や観光客の避難を想定し（パニック防止）、共助への備えとともに自らの安全（地域連携、広域化）を高めることを理解する。	市民
■避難に必要最低限な階段や通路整備はマンション修繕積立金等を活用し設置する。	市民

アクション② 先進事例を基に周辺マンション、地域に展開し安全エリア化を図る

具体的な内容	実施主体
■先進事例を参考に周辺マンション、地域の津波避難ビル／高台化への行動を広げことで湘南の安全エリア化を進める。	市民
■浸水が予想される戸建て住宅地域については近隣マンション等を活用すべく協定締結と費用負担を明確化する。	市民
■避難時の臨時トイレ、食料備蓄等についても避難ビル／高台住民とともに協議し自主的に協力し実行する。	市民

アクション③ 自治体による津波避難への補助制度拡充（提案）

具体的な内容	実施主体
■自助防災活動が盛んなマンション、地域に限定しより安全な津波避難ビル化へ向けたフェンス設置等の設備補助金制度を拡充する。（静岡市の例で上限 1000 万円、3.11 以降案件、遡り補助も有り）	市民
■学校や公共施設への避難者集中を避け、避難タワー等によるコスト、時間の削減を図る。民間マンション等を活用した防災の充実化を進めることで費用効率を大幅に高めることができる。	市民



プロジェクト 23

【交通】

自転車で湘南の風を感じよう！

■ ねらい（概要）

10m以下の津波に対しては、渚沿いの森がプロテクトできるように、盛土された潜在自然植生※の森の中を走る葉山・宮を結ぶサイクリングロードを建設する。また、湘南の主要な駅から海岸沿いのサイクリングロードを結ぶ幅員のある自転車道を整備して、利便性を高めるとともに、大火事などの延焼防止に配慮した安全安心な街づくりを図る。防災にも配慮した世界初のサイクリングロードの建設は、住民や観光客にとって利便性が高く、景観に優れて快適であり、国際海浜リゾート「湘南」の顔となろう。

※横浜国立大学の宮脇昭名譽教授が推奨する元々の広葉樹木を中心とする森。鎮守の森はその典型。

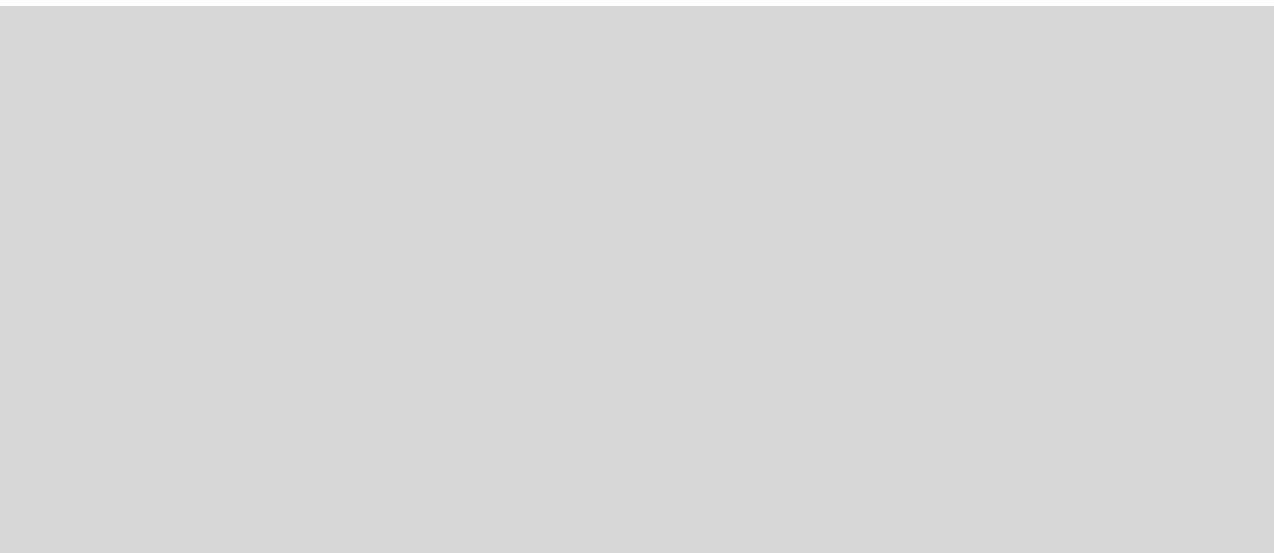
また、コミュニティーサイクルを導入し、サイクリストも使えるランナーズステーションを充実させ、誰もが気軽に“湘南の風を感じて走れる”ように縦横にサイクリング道路・付帯施設を整備する。また住民が気軽に通勤通学・買い物にも利用できるようにする。

湘南は基本的に平坦であり、自転車の移動には適した地域。美しい海と渚に加え、江の島、鳥帽子岩、そして遠くに富士山という世界に誇れる観光資源をより生かすのがこのサイクリング道路である。

足の悪いお年寄りや乳幼児のために、人力車やベロタクシーの走行を認めるため、幅員は4m以上。駅からコミュニティーサイクルが利用でき、いつでもどこでも気軽に乗り捨てが可能なため、車で来るよりも、自転車を借りて湘南を楽しむ観光客が増えよう。将来的には、GW、秋の連休、お正月には、箱根駅伝開催時のように国道134号線を歩行者天国にすることも……。

(関連プロジェクト：⑨“なぎさの駅”～観光元年、⑪日本初！「ブルーフラッグ」の国際認証取得、⑭「湘南ヘルツーリズム」も確立、⑯誰もが楽しみながら享受できる保険事業の実施)

■ 現状と課題



- 逗子海岸～鎌倉・材木座。元々自動車専用道路のため歩道がない。トンネルもあるが奥までも暗い。
- 盛土した上に、さらに森を作るとなると、沿岸沿いの建物からは海などの眺望が制限されてしまう。
- 鎌倉・由比ヶ浜～片瀬東浜。おおむね歩道はあるが、場所により狭く、また七里ガ浜から腰越

にかけては海側に歩道がなく狭い。

- 片瀬西浜～茅ヶ崎・柳島。基本はサイクリングロードだが、ランナーを含め往来が多く時に危険。また強風時に砂に覆われる。また、防砂の柵や砂の除去費用が毎年高額かかっている。
- 茅ヶ崎柳島～平塚（湘南大橋）間は、海側に歩道が一部しかなく、吹きさらしのために強風時の車道走行は危険。
- 平塚（湘南大橋）～大磯間は、海岸沿いの国道 134 号線は4車線化に向けて拡幅工事中で、自転車専用道は一部しかない。花水川河口から上流に向かってサイクリングロードが整備されている。大磯～二宮間は、花水川河口から大磯港までは一部防潮堤を移動できる。国道 134 号線は国道 1 号線と交差する。大磯町役場付近からは太平洋岸自転車道が不動川付近まで続く。
- 海岸線（国道 134 号線）の一部は、神奈川県による津波浸水予測図の中で浸水想定がある。

■めざす姿

- 葉山から二宮までの海岸線に沿って、10m以上盛土した小高い丘の上に広葉樹の森を走る、景観に優れた津波防災を併せ持つ世界初のサイクリングロードを建設する
- 湘南の海岸線の横軸と、各駅との縦軸を融合させ、自転車などで気軽に安全に自由に移動できるインフラを整備する
- コミュニティーサイクルを導入して、観光客を含むサイクリストやランナーが気軽に立ち寄れるロードサイド付帯施設を充実させる
- 潜在自然植生の森の中にあるサイクリングロードは、自然の中を走り抜ける喜びを体験できる
- 域内ではレンタサイクルの乗り捨てを可能にし、LRT・シーバスも併せて使えるバスや年間バスの発行など、観光客のみならず、住民も気軽に使える利便性の高い交通環境を整備する

■具体的な取組み

アクション① 道路周辺状況の記録と発信

具体的な内容	実施主体
■道路周辺状況の記録と発信 現状で、自転車で海岸線や駅周辺を利用している市民が、不便と感じたことや感動したことなどを facebook やブログ等で記録、発信する。 同じ場所を利用する人がコメントを寄せることで、その道路や周辺環境のデータを集積する。	市民
■データベースの作成 上記で得たデータを湘南ビジョン研究会で集約すると共に、ステークホルダーをリスト化する。	NPO
■道路整備基金の設立 上記で利用するメディアにて、アフィリエイト広告の収入を獲得し、その収入を道路整備基金として積み立てる。	NPO

アクション② ステークホルダーによる理想像の検討

具体的な内容	実施主体
■海沿いに住む住民には、津波から命と資産を守り、小高い森が潮風や漂砂を防ぎ、なおかつ湘南の魅力を高める重点施策であることを強調して特段の協力を仰ぐ。	市民
■ステークホルダーのネットワーク化 データベースに基づき、用途別（例：サーファー、通勤者、ロードサイド店舗など）のステークホルダーのネットワーク化を図る。	NPO
■ステークホルダーによる理想像の検討 自転車利用の用途別にどのようなニーズがあり、どのような道路整備が望ましいのか検討する。 例) i)駅から海岸沿い自転車道まで、河川上のスペースを活用して専用ルートを整備 -各駅の比較的近くを河川が流れていることを利用 -既設の遊歩道とは別に、河川敷の整備または河川上に張り出す形で専用レーンを設置	NPO

<p>ii)逗子から二宮まで防潮堤機能を持ったサイクリングロードの整備 「いのちを守る森の防潮堤」を参考に、海岸線の防砂林とサイクリングロードを、10m程度に盛土した上、潜在自然植生に基づいた広葉樹を中心とした森（管理コストがかからない雑木林。鎮守の森がその例）を作り、その中にサイクリングロードを走らせる。世界に誇れる湘南のオーシャンビューを、さらに魅力的にするこの施策は、防災を兼ねた画期的なサイクリングロードとなり、国際海浜リゾート「湘南」の柱となる。 （観光プロジェクトとリンク）</p> <p>iii)海岸自転車道および主要駅前に、ランナー＆バイクのサポートステーションを整備 -「ラン＆バイク支援」の機能」と、「道の駅」「渚の交番」のような機能を合体 -主要駅近く、および海岸線の要所（海上交通との接続ポイント含む）に施設設置 -できるだけ既存施設の利活用を考える</p>	
---	--

アクション③ 画期的なサイクルシティー誕生

具体的な内容	実施主体
■自転車利用の魅力を共有 メディアや、雑誌「湘南スタイル」、テレビ、ラジオ、学校、企業など、様々な場所で、湘南ならではのお洒落な自転車利用の魅力・使い方を共有する。	市民、メディア、企業等
■自転車を載せられるバス・LRT・マイカーの開発 バス・LRT・マイカーに、簡単に自転車を載せられるようにすることで、公共交通機関と自転車の共存共栄を図り、ゾーニングをし易くする。	企業等
■駐輪場と駐車場の連携 駅や海岸から少し離れた場所にある駐車場と、駅や海岸の近くにある（整備する）駐輪場の相互利用を、コミュニティーサイクルや駐車場の駐輪場化等によって進める。	企業等
■コミュニティーサイクルの導入 いつでもだれでもどこでも気軽に借りられるコミュニティーサイクルを導入する。年間パスは、湘南エリア内のコミュニティーサイクルのみならず、域内の公共交通が自由に使えるばかりか、クーポンでお店の割引が受けられる。湘南を愛する観光客に大いに利用されるばかりか、住民に対しては湘南防災マイスター取得を促すために大幅割引を施して防災対策・スピリットを進展させるとともに、バスの利用を促す。	企業等



通】

”

北

■ねら

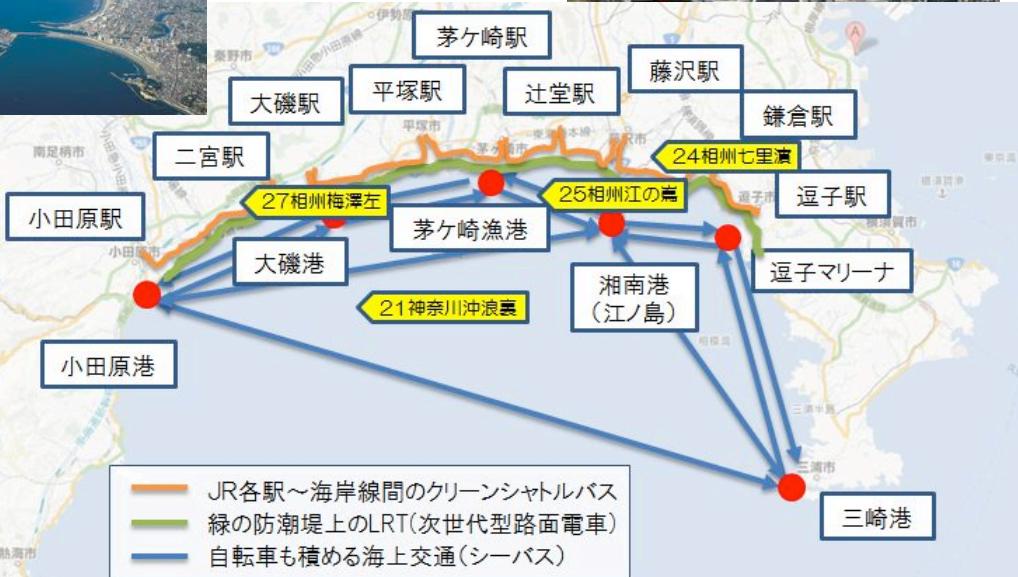
- 慢性
先進
いだ
ビリ
ス発
工ネ

- 本工

士のうち「相州七里濱」「相州江の島」「相州梅澤左」「神奈川沖浪裏」の4点がある。JRから海岸へのアクセス、国道134号線、および海上をも連結した動線を作り、湘南が誇る観光資源「相模湾と富士山遠望」体験を容易にする（サイクリングロードは、ベロタクシーや人力車も走れるようとする）。

また地域間の循環動線が生まれることで、来訪者は各地域の様々な魅力を楽しみ易くなる。

（関連プロジェクト：⑨“なぎさの駅”～観光元年）



■具体的な取組み

アクション① JR各駅～海岸線間のクリーンシャトルバスの運行

具体的な内容	実施主体
<p>■逗子、鎌倉、藤沢、辻堂、茅ヶ崎、平塚、大磯、二宮各駅を発着し、国道134号線沿いの各所（LRT駅、渚の交番、ランナーズステーション、道/海の駅など、海岸線に今後新設される様々なターミナル）との間を結ぶクリーンエネルギーバスを走らせる。（動力は、県内先端産業の技術を活かした燃料電池やグリーン電力等） バスのフロントには、コミュニティーサイクルを含む自転車が数台乗せられるスペースがある。</p>	自治体、企業

アクション② 葉山～二宮間の国道134線へLRT(次世代型路面電車システム)導入

具体的な内容	実施主体
<p>■国道134号線にLRTを敷設。走行に必要な電力は、湘南内陸をはじめとした遊休地、各種公共施設、民間施設等に設置された太陽光パネルによるソーラー発電と、各地域のバイオマス発電により賄う。ゆくゆくは洋上風力発電と潮力発電も視野に入れる。①と同様に、自転車の搭載を可能に。</p>	自治体、企業

アクション③ 自転車も積める相模湾海上交通（シーバス）網の充実

具体的な内容	実施主体
■相模湾沿岸部を定期巡航するシーバス網を作る。	企業
■拠点港は、逗子マリーナ、湘南港（江ノ島）、茅ヶ崎漁港、大磯港（および対象エリア外として三崎港、小田原港）	企業
■50-100人規模が搭乗でき、自転車も積める中型船を、各港30分間隔で発着。	企業

アクション④ プライシングロード

具体的な内容	実施主体
<p>■すでに、湘南エリアにおいてはパークアンドライドシステムの導入等の様々な渋滞緩和措置を実施している。しかし、夏季の海水浴場シーズンにおける慢性的な渋滞の抜本的な解決には至っていないと考える。そこで、湘南地域において検討が進められている、プライシングロードを導入することで自動車利用率の減少を目指し、更に今回提案する新交通システム（クリーンシャトルバス・LRT・海上交通）並びにコミュニティーバイク自転車の利用促進を促すことで、渋滞緩和の相乗効果を狙う。</p>	行政、住民、企業、NPO
■課金エリアは、R134を対象に逗子マリーナ付近～大磯港付近を対象に行い、海上交通（シーバス）が整備される、逗子マリーナ付近、江ノ島付近、茅ヶ崎漁港付近、大磯付近にETCゲートを設け1区画200円（上下線同様）の徴収を行う。地域住民には年額で1000円くらいのパスを発行して協力を仰ぐ。	行政
■徴収した通行料は、新交通システムやサイクリング道路等の整備事業費として計上する。	行政、企業
■これらの整備・料金徴収・管理する主体組織は、地元のボランティアを加えたNPO法人が、湘南全体を統括して円滑な運営を行う。	NPO



資料編

- (1) 「湘南都市構想 2022」策定メンバー
- (2) 「湘南都市構想 2022」策定会議の経過
- (3) 湘南の海を考えるミニフォーラム
- (4) 専門家ヒアリング
- (5) 100人ワールドカフェ
- (6) 中間発表会
- (7) 最終提言発表会

(1) 「湘南都市構想 2022」策定チームメンバー名簿

	氏名	分科会	備考
1	片山 清宏	事務局	代表
2	坂本 勝敏	教育・スポーツ	リーダー
3	笈川 博志	教育・スポーツ	
4	工藤 崇	教育・スポーツ	
5	錦織 熱	教育・スポーツ	
6	林 正洋	教育・スポーツ	
7	眞壁 功	教育・スポーツ	
8	最上 澄代	教育・スポーツ	
9	壱岐 信二	観光・産業	リーダー
10	海老名 健太郎	観光・産業	
11	岩野 温子	観光・産業	
12	海津 ゆりえ	観光・産業	
13	白石 学	観光・産業	
14	長山 沙織	観光・産業	
15	伏見 康博	観光・産業	
16	増田 元秀	観光・産業	
17	東 晋吾	医療・福祉	リーダー
18	小鷹 英由紀	医療・福祉	
19	清水 孝哉	医療・福祉	
20	武田 真由美	医療・福祉	
21	能勢 健生	医療・福祉	
22	宮澤 進一	医療・福祉	
23	江口 元気	防災・交通	リーダー
24	大塚 光紀	防災・交通	
25	岡崎 進	防災・交通	
26	加藤 道夫	防災・交通	
27	津田 淳	防災・交通	
28	堂谷 拓	防災・交通	
29	葉木 洋一	防災・交通	
30	村上 賢之	防災・交通	
31	宮崎 渉	防災・交通	
32	友野 幸司	複数分科会	
33	海野 義明	アドバイザー	
34	小池 潔	アドバイザー	
35	鈴木 正	アドバイザー	
36	芹川 明義	アドバイザー	
37	井坂 啓己	アドバイザー	
38	細川 甚孝	アドバイザー	
39	増田 正悟	アドバイザー	
40	宮下 量久	アドバイザー	
41	清水 久美	事務局	

(2) 「湘南都市構想 2022」策定会議の経過

■全体会

開催回	日時	場所	内容
第1回	2012年4月14日（土） 14時30分～18時	藤沢産業センター研修室2	<ul style="list-style-type: none"> ■代表挨拶 「湘南都市構想 2002 の策定について」 ■基調講演 「湘南地域の現状と課題 ～これからの湘南地域のまちづくり～」 ■自己紹介 ■分科会 「湘南地域の課題について意見交換」
第2回	2012年5月20日（日） 14時30分～18時	藤沢産業センター第3会議室	<ul style="list-style-type: none"> ■分科会発表 「理想の将来像と現状・課題」 (5分×4分科会) ■基調講演 「地域からのまちづくり手法～市町村単位でのまちづくりを超えて～」 ■主催者説明 「湘南都市構想 2022 の今後の進め方について」
第3回	2012年6月15日（金） 19時～22時	藤沢産業センター第2会議室	<ul style="list-style-type: none"> ■分科会発表 「理想像と現状・課題まとめシートの進捗状況について」 (3分×4分科会) ■主催者説明 「湘南都市構想 2022 の今後の進め方について」
第4回	2012年7月11日（水） 19時～21時30分	藤沢市市民活動推進センター会議室A	<ul style="list-style-type: none"> ■分科会 中間発表 「理想像と現状・課題まとめシートについて」 (10分×4分科会) ■アドバイザーより講評 ■主催者説明 「湘南都市構想 2022 の今後の進め方について」
第5回	2012年8月8日（水） 19時～21時30分	藤沢市市民活動推進センター会議室A	<ul style="list-style-type: none"> ■有識者（アドバイザー）のご紹介、ご挨拶 ■各分科会リーダーの進捗状況発表 (3分×4分科会) ■主催者説明 「湘南都市構想 2022 の今後の進め方について」

第 6 回	2012年9月8日(土) 15時30分～18時	藤沢産業セン ター情報ラウ ンジ	■100人ワールドカフェ（湘南地域住民 との意見交換）
第 7 回	2012年10月12日(金) 19時～21時30分	藤沢市市民活 動推進センタ ー会議室A	■各分科会リーダーの進捗状況発表 (3分×4分科会) ■主催者説明 「湘南都市構想2022の今後の進め方に について」
第 8 回	2012年11月7日(水) 19時～21時30分	藤沢市市民活 動推進センタ ー会議室B	■各分科会リーダーの進捗状況発表 (3分×4分科会) ■主催者説明 「湘南都市構想2022の今後の進め方に について」
第 9 回	2012年12月2日(日) 13時～16時40分	公益財団法人 松下政経塾 講堂	■中間発表会 (14分×4分科会)
第 10 回	2012年12月22日(土) 13時～19時30分	藤沢産業セン ターレストラ ンフジビュー	■第1回レビュー会議
第 11 回	2013年1月5日(土) 11時～15時	藤沢産業セン ターレストラ ンフジビュー	■第2回レビュー会議
第 12 回	2013年1月27日(日) 13時～16時	藤沢産業セン ターレストラ ンフジビュー	■第3回レビュー会議
第 13 回	2013年2月9日(土) 13時～16時30分	神奈川県立か ながわ女性セ ンターホール	■最終提言発表会

■分科会（教育・スポーツ分科会）

開催回	日時	場所	内容
第1回	2012年4月14日(土) 14時30分～18時	藤沢産業センタ 一研修室2	■分科会 「湘南地域の課題について意見交換」
第2回	2012年5月11日(金) 20時30分～22時30分	藤沢・居酒屋	■分科会ごとに意見交換
第3回	2012年5月20日(日) 16時～17時55分	藤沢産業センタ 一第3会議室	■理想の将来像の検討・整理 ■分科会発表
第4回	2012年6月15日(金) 19時30分～20時45分	藤沢産業センタ 一第2会議室	■「理想像と現状・課題まとめシート」 の検討・整理 ■分科会発表 「理想像と現状・課題まとめシートにつ いて」 (5分×4分科会) ■全体で意見交換(ワールドカフェ方式)
第5回	2012年7月11日(水) 20時～21時30分	藤沢市市民活動 推進センター会 議室A	■全体で意見交換(ワールドカフェ方式)
第6回	2012年8月8日(水) 19時40分～21時30分	藤沢市市民活動 推進センター会 議室A	■分科会ごとに意見交換(4分科会に分 かれて有識者から意見交換(事前に提 出した「質問票」をもとに意見交換を行 う))
第7回	2012年8月20日(月) 20時～22時	藤沢・ファスト フード店	■分科会ごとに意見交換
第8回	2012年10月4日(木) 20時～22時	藤沢・居酒屋	■分科会ごとに意見交換
第9回	2012年10月12日(金) 19時～21時30分	藤沢市市民活動 推進センター会 議室A	■分科会ごとに意見交換
第10回	2012年11月7日(水) 19時～21時30分	藤沢市市民活動 推進センター会 議室B	■分科会ごとに意見交換
第11回	2013年1月10日(木) 20時～21時30分	藤沢・喫茶店	■分科会ごとに意見交換

■分科会（観光・産業分科会）

開催回	日時	場所	内容
第1回	2012年4月14日(土) 14時30分～18時	藤沢産業センタ 一研修室2	■分科会 「湘南地域の課題について意見交換」
第2回	2012年5月20日(日) 16時00分～17時55分	藤沢産業センタ 一第3会議室	■理想の将来像の検討・整理 ■分科会発表
第3回	2012年6月15日(金) 19時30分～20時45分	藤沢産業センタ 一第2会議室	■「理想像と現状・課題まとめシート」 の検討・整理 ■分科会発表 「理想像と現状・課題まとめシートについて」 (5分×4分科会) ■全体で意見交換(ワールドカフェ方式)
第4回	2012年7月11日(水) 20時～21時30分	藤沢市市民活動 推進センター会 議室A	■全体で意見交換(ワールドカフェ方式)
第5回	2012年8月8日(水) 19時40分～21時30分	藤沢市市民活動 推進センター会 議室A	■分科会ごとに意見交換(4分科会に分 かれて有識者から意見交換(事前に提 出した「質問票」をもとに意見交換を行 う))
第6回	2012年10月12日(金) 19時～21時30分	藤沢市市民活動 推進センター会 議室A	■分科会ごとに意見交換
第7回	2012年11月7日(水) 19時～21時30分	藤沢市市民活動 推進センター会 議室B	■分科会ごとに意見交換
第8回	2012年11月25日(日) 13時～17時	神奈川県立茅ヶ 崎里山公園ほか	■フィールドワーク「里山ツアー」 (参加者4名)

■分科会（医療・福祉分科会）

開催回	日時	場所	内容
第1回	2012年4月14日（土） 14時30分～18時	藤沢産業センタ ー研修室2	■分科会 「湘南地域の課題について意見交換」
第2回	2012年5月20日（日） 16時00分～17時55分	藤沢産業センタ ー第3会議室	■理想の将来像の検討・整理 ■分科会発表
第3回	2012年5月25日（金） 19時00分～21時00分	藤沢産業センタ ーレストランフ ジビュー	■打ち合わせ
第4回	2012年6月13日（水） 18時45分～21時00分	藤沢産業センタ ーレストランフ ジビュー	■打ち合わせ
第5回	2012年6月15日（金） 19時30分～20時45分	藤沢産業センタ ー第2会議室	■「理想像と現状・課題まとめシート」 の検討・整理 ■分科会発表 「理想像と現状・課題まとめシートにつ いて」 (5分×4分科会) ■全体で意見交換(ワールドカフェ方式)
第6回	2012年6月23日（土） 10時00分～12時00分	戸塚地域センタ ー地下1階集会 室2	■フィールドワーク 「幸福度に関する勉強会」
第7回	2012年7月5日（木） 18時30分～21時00分	藤沢産業センタ ー6階レストラ ンフジビュー	■打ち合わせ
第8回	2012年7月15日（日）	藤沢市民会館	■フィールドワーク 「湘南在宅ケアセミナー」
第9回	2012年7月11日（水） 20時～21時30分	藤沢市市民活動 推進センター会 議室A	■全体で意見交換(ワールドカフェ方式)
第10回	2012年7月31日（火） 18時30分～21時00分	藤沢産業センタ ーレストランフ ジビュー	■打ち合わせ
第11回	2012年8月8日（水） 19時40分～21時30分	藤沢市市民活動 推進センター会 議室A	■分科会ごとに意見交換（4分科会に分 かれて有識者からで意見交換（事前に提 出した「質問票」をもとに意見交換を行 う））
第12回	2012年9月13日（木） 19時00分～21時00分	藤沢産業センタ ーレストランフ ジビュー	■打ち合わせ
第13回	2012年10月3日（水） 19時00分～21時00分	藤沢産業センタ ーレストランフ ジビュー	■打ち合わせ

第 14 回	2012年10月12日(金) 19時00分~21時30分	藤沢市市民活動 推進センター会 議室 A	■分科会ごとに意見交換
第 15 回	2012年11月1日(木) 19時00分~21時00分	藤沢産業センタ ーレストランフ ジビュー	■打ち合わせ
第 16 回	2012年11月7日(水) 19時00分~21時30分	藤沢市市民活動 推進センター 会議室 B	■分科会ごとに意見交換
第 17 回	2012年11月20日(火) 19時00分~21時30分	藤沢産業センタ ーレストランフ ジビュー	■打ち合わせ
第 18 回	2012年12月5日(水) 19時00分~	藤沢・居酒屋	■「湘南大人大学」打ち合わせ
第 19 回	2012年12月10日(月) 19時00分~	藤沢・居酒屋	■「湘南大人大学」打ち合わせ
第 20 回	2013年1月5日(土) 15時00分~15時30分	藤沢産業センタ ーレストランフ ジビュー	■第2回レビュー会議後打ち合わせ
第 21 回	2013年1月25日(金) 19時00分~	善行・ハロハ	■「湘南大人大学」打ち合わせ

■分科会（防災・交通分科会）

開催回	日時	場所	内容
第1回	2012年4月14日（土） 14時30分～18時	藤沢産業センタ ー6階研修室2	分科会 「湘南地域の課題について意見交換」
第2回	2012年5月16日（水） 19時～20時30分	藤沢市市民活動 推進センター	分科会 地域事情の把握 スケジュール方針
第3回	2012年5月20日（日） 16時00分～17時55分	藤沢産業センタ ー第3会議室	■理想の将来像の検討・整理 ■分科会発表
第4回	2012年6月6日（水） 19時～20時30分	藤沢市市民活動 推進センター	「理想像と現状・課題まとめシート」の 検討・整理
第5回	2012年6月15日（金） 19時30分～20時45分	藤沢産業センタ ー第2会議室	■「理想像と現状・課題まとめシート」 の検討・整理 ■分科会発表 「理想像と現状・課題まとめシートにつ いて」 (5分×4分科会) ■全体で意見交換(ワールドカフェ方式)
第6回	2012年6月26日（火） 19時～20時30分	藤沢市市民活動 推進センター	「理想像と現状・課題まとめシート」ま とめ
第7回	2012年7月11日（水） 20時～21時30分	藤沢市市民活動 推進センター会 議室A	■全体で意見交換(ワールドカフェ方式)
第8回	2012年7月30日（月） 19時～20時30分	藤沢市市民活動 推進センター	質問票まとめ 報告書作成に向けた打ちあわせ
第9回	2012年8月8日（水） 19時40分～21時30 分	藤沢市市民活動 推進センター会 議室A	■分科会ごとに意見交換（4分科会に分 かれて有識者から意見交換（事前に提 出した「質問票」をもとに意見交換行う））
第10回	2012年8月27日（月） 19時～20時30分	藤沢市市民活動 推進センター	防災(ソフト班)、防災(ハード班)に分かれ て議論
第11回	2012年9月27日（木） 19時～20時30分	藤沢市市民活動 推進センター	防災①、防災②、交通に分かれて議論
第12回	2012年10月12日（金） 19時～21時30分	藤沢市市民活動 推進センター会 議室A	■分科会ごとに意見交換
第13回	2012年11月1日（木） 19時～20時30分	藤沢市市民活動 推進センター	防災①、防災②、交通班全体で議論 報告書作成

第 14 回	2012年11月7日(水) 19時~21時30分	藤沢市市民活動 推進センター 会議室B	■分科会ごとに意見交換
第 15 回	2012年12月2日(日)	松下政経塾	中間発表会
第 16 回	2012年1月5日(土)	藤沢産業センタ ー	報告書最終打ちあわせ

ツイート 5

0

いいね！

27



クリップ

「湘南」からまちづくりの提言を目指す「湘南都市構想」会議が開催（2012/05/21 政治山）



「湘南都市構想2022」第2回策定会議の様子

湘南地域の市民・研究者・自治体職員らが「湘南の海」をベースとした10年後のまちづくりのビジョンを提言することを目的とする「湘南都市構想2022」の第2回策定会議が、藤沢市の藤沢産業センターで20日に行われた。会議では、教育や観光などのテーマ毎に、4つの分科会による発表が行われたほか、有限責任事業組合「政策支援」代表組合員の細川基孝氏による基調講演が実施された。

「湘南都市構想2022」は、元厚木市職員で松下政経塾31期生の片山清宏氏が代表を務める「湘南ビジョン研究会」の活動の一環。市民・研究者・自治体職員・NPO・写真家など40名のメンバーで構成され、自治体単位ではなく「湘南地域」の10年後の理想像を提言することを目的としている。

今回参加した20名は、「湘南の海」という環境資源を軸に、「教育・スポーツ」「観光・産業」「福祉・医療」「防災・交通」という4つの政策テーマ毎に分科会で議論。それぞれのテーマ毎の構想を、神奈川県や湘南地域の市町村に提言していく。

「湘南都市構想」という名前には、経済・雇用の面で横浜や東京に依存している湘南地域を、自立都市にしたいという思いが込められている。

片山代表は冒頭の挨拶で、「湘南都市構想」が地域全体の将来像を提言するものである点について「最近、構想について人に話すと、『これまでになかった活動だ』と意義を認めてもらっている」とした。



「湘南ビジョン研究会」代表
片山清宏氏

分科会では、メンバーが4つのグループに分かれて現状と課題について議論した。「福祉・医療」の分科会では、在宅医療や地域のかかりつけ医、介護問題に着目して元気に高齢者が住むことのできるまちづくりを目指すと発表し、「防災・交通」グループは、津波対策や地域の渋滞解消を課題としている点が共有された。その他、「教育・スポーツ」「観光・産業」でも活発な議論が行われた。

基調講演には、アドバイザーでもある細川氏が立ち、「地域からのまちづくり手法～市町村単位でのまちづくりを超えて」というテーマで、自治体の地域づくりがうまくいかない中で個人や団体がまちづくりに関わる重要性について語った。



有限責任事業組合「政策支援」
代表組合員の細川基孝氏

細川氏はこれまで、自治体コンサルタントの立場から、市の政策評価や基本計画作成や市民参加のワークショップなどに関わってきた。講演の中で、自治体によるまちづくりがうまくいっていない現状について説明。その原因を、自治体単位では、いま起きている課題に対応できなくなってきたこととし、そこで重要なのが、問題を取り巻く個人や団体の存在だと語った。「いまの地域づくりには広域の人のつながりが必要。人々の思いや考えを論理的な発想で共有する必要がある。原因と課題を1つの流れで理解し、解決策も皆さんで共有することが重要だ」とまとめた。

次回の第3回会議は6月15日に行われる。今後は毎月1回の会議を経て、2013年1月の構想完成、発表を予定している。

(3) 湘南の海を考えるミニフォーラム

ア 期間

2011年11月から2013年2月まで毎月1回開催。19時から2時間程度。全14回開催した。

イ 場所

藤沢駅、辻堂駅、茅ヶ崎駅周辺の貸し会議室等

ウ 参加者

湘南地域在住勤の住民

エ 概要

湘南地域は、河川や海の汚染、海岸のゴミ問題などの環境問題が深刻化しているのが現状である。また、津波や放射能等を含めた防災対策、漁業や観光等の産業振興、さらに、海岸浸食、不法投棄、防犯・治安、交通渋滞、環境教育への取組など様々な課題がある。そこで、「湘南ビジョン研究会」では、これらの課題を多面的に勉強していく、どうすれば湘南の資源である「海」を最大限に活かした理想のまちづくりができるかを考え、「湘南の海を考えるミニフォーラム」を開催してきた。本フォーラムの内容については、「湘南都市構想2022」の策定の際に参考にさせていただいた。

開催回	概要及び講師										
第1回	<p>テーマ「湘南の海を活かしたまちづくり」 2011年11月16日（水）19時～20時50分 藤沢産業センター7階第2会議室</p> <table><tr><td>伊藤 正侑子氏 一般社団法人FEE Japan 代表理事</td><td></td><td>片山 清宏氏 湘南ビジョン研究会代表</td><td></td></tr></table>			伊藤 正侑子氏 一般社団法人FEE Japan 代表理事		片山 清宏氏 湘南ビジョン研究会代表					
伊藤 正侑子氏 一般社団法人FEE Japan 代表理事		片山 清宏氏 湘南ビジョン研究会代表									
第2回	<p>テーマ「湘南海岸のごみ問題への挑戦」 2012年12月13日（火）19時～20時50分 藤沢産業センター7階第2会議室</p> <table><tr><td>澤田英樹氏 (公財)かながわ海岸美化財団事務局長</td><td></td><td>小島あづさ氏 一般社団法人JEAN事務局長</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>古澤純一郎氏 海さくら代表</td><td></td></tr></table>			澤田英樹氏 (公財)かながわ海岸美化財団事務局長		小島あづさ氏 一般社団法人JEAN事務局長				古澤純一郎氏 海さくら代表	
澤田英樹氏 (公財)かながわ海岸美化財団事務局長		小島あづさ氏 一般社団法人JEAN事務局長									
		古澤純一郎氏 海さくら代表									

第3回	テーマ「どうなる!?湘南海岸の津波対策」 2012年1月17日(火) 19時~20時50分 藤沢産業センター8階情報ラウンジ			
	熊谷兼太郎氏 国土交通省国土技術政策総合研究所 沿岸海洋研究部主任研究官		渡邊伸二氏 藤沢市災害対策課長	
第4回	テーマ「湘南の海岸侵食は止められるか?」 2012年2月22日(水) 19時~20時50分 藤沢産業センター7階第2会議室			
	細川順一氏 神奈川県藤沢土木事務所 なぎさ港湾課長		塩入 同氏 海洋政策研究財団研究員	
第5回	テーマ「湘南の海を活かした環境教育」 2012年3月15日(木) 19時~20時50分 藤沢産業センター7階第2会議室			
	錦織 真氏 湘南学園小学校 教諭		向山宏和氏 厚木市環境総務課主査	
第6回	テーマ「湘南海岸の希少な生態系を守れ！」 2012年4月21日(土) 15時~17時 かながわ女性センター1階集会室			
	坂本昭夫氏 海をつくる会 事務局長		工藤孝浩氏 神奈川県水産技術センター主任研究員	
第7回	テーマ「湘南の海・浜ルールを考えよう！」 2012年5月20日(日) 19時~20時50分 藤沢産業センター7階第1会議室			
	葉山一郎氏 藤沢市漁業協同組合 組合長		脇田忠氏 湘南藤沢マリン連盟専務理事	
第8回	テーマ「湘南観光の魅力と新たな戦略」 2012年6月28日(木) 19時~20時50分 茅ヶ崎市勤労市民会館 6階研修室A			
	新谷雅之氏 一般社団法人茅ヶ崎市観光協会 事務局長		海津ゆりえ氏 文教大学国際学部准教授	
				高橋十大氏 湘南ちがさき屋十大 代表取締役
				

第9回	テーマ「湘南の快適な海水浴利用に向けて」 2012年7月19日(木) 19時~21時 サザンビーチ茅ヶ崎 海の家「夏俱楽部」			
	大久保義雄氏 茅ヶ崎海水浴場事業協同組合理事長	加藤道夫氏 日本ライフセービング協会支部長	鈴木正氏 茅ヶ崎マリンスポーツ連盟相談役	
第10回	テーマ「湘南の交通政策と都市づくり」 2012年8月22日(水) 19時~20時50分 藤沢産業センター6階研修室1			
	近藤修宏氏 県県西土木事務所小田原土木センター道路都市課長	中沢俊之氏 江ノ島電鉄株式会社観光企画部課長	平尾博氏 株式会社ペダル代表取締役	
第11回	テーマ「湘南の安全安心と放射能対策」 2012年9月19日(水) 19時~20時50分 藤沢産業センター8階情報ラウンジ			
	岡部英男氏 神奈川県衛生研究所 所長	松原広美氏 環境NGO サーフライダーファウンデーション事務局長	海老名健太朗氏 茅ヶ崎市議会議員	
第12回	テーマ「湘南の漁業と食とまちづくり」 2012年10月17日(水) 19時~20時50分 大磯町商工会館2階大会議室			
	中村良成氏 神奈川県環境農政局水産課水産企画グループリーダー	蒲原辰弘氏 大磯海の会議代表	原大祐氏 NPO法人 西湘をあそぶ会代表理事	
第13回	テーマ「湘南の未来と再生可能エネルギー」 平成24年11月14日(水) 19時~20時50分 藤沢産業センター7階 第1会議室			
	藤巻均氏 神奈川県環境農政局新エネルギー・温暖化対策部 部長	伊藤正治氏 NEDO新エネルギー部主任研究員	上野ひろみ氏 ちがさき自然エネルギー・ネットワーク代表	
第14回	テーマ「湘南・江の島の歴史文化を探る」 平成24年12月13日(木) 19時~21時 江ノ電第2ビル7階湘南アカデミア			
	吉田克彦氏 江ノ電沿線新聞社会長	和田篤氏 江の島・藤沢ガイドクラブ 副会長		

(4) 専門家ヒアリング

ア 日時

2012年8月8日（水）19時～21時30分

イ 場所

藤沢市市民活動推進センター会議室A

ウ 内容

第5回策定会議では、検討内容について8人の有識者から専門的な視点でアドバイスをいただき、提言内容をブラッシュアップする作業を行った。検討内容については、有識者へ事前に分科会ごとに作成した5～10問程度の質問票をメールで送付し、会議当日、分科会ごとに分かれて回答をいただいた。有識者は、神奈川県湘南地域県政総合センター企画調整部長、公共経営コンサルタント、大和市立南林間小学校校長、文教大学国際学部国際観光学科准教授、前藤沢市経営企画部長、平塚市企画部企画課企画調整担当、平塚市防災危機管理課危機管理アドバイザー、藤沢市防災担当参与である。

エ 主な質問と回答（一部抜粋）

分科会	質問	回答
教育・スポーツ	時代の変化に対応できる力として、①どの時代にも共通する思想、②他社とのコミュニケーション力、③情報収集・処理能力、④金融教育、消費者教育 を事例としてあげています。これから時代を生き抜くために子ども達が身につけなければならない力として考えられるものは何があるでしょうか。	◎OECDでは、これから社会を生きる上で必要な能力を定めていて、それをはかるテストがPISAである。そこではキーコンピテンシーとして①自律的に活動②道具を相互作用的に用いる③異質な集団で活動できる、これらをベースとして①読解カリテラシー②数学リテラシー③__リテラシーの力を必要な力として定めている。OECDが必ずしも正しいとは言えないだろうが、ヒントにはなる。
観光・産業	「観光と歴史文化と食、先進性とトラッドをバランス良く織り交ぜる」 観光には景観と飲食と歴史文化が高い資源とされますが、今あるものを活かして観光客がワクワクさせるような仕組みつくりについて、参考事例をご存じであれば紹介ください。特に湘南地域のように広域的な海岸における観光資源の活用が盛んな地域や、茅ヶ崎のように海岸部に観光が集中した地域における里山資源の観光利用の事例について、教えてください。	・海ばかりが資源ではない。どこにも宝は眠っている。資源の“重ね合わせ”と“つなぎ”を行っていき、また広域的な連携のできる立地を活かし、足りないものはその中で補う。 ・北と南を縦軸に結ぶものが必要。南北の交流は生活レベルでもいい。江の島の海鮮を北部のワイワイ市で販売しており、経済波及効果はある。

医療・福祉	障がい者のスポーツ大会を実施すれば、バリアフリーのまちづくりに繋がるのでは、と考えておりますが、現実的に大会を開催するにあたって、課題や考慮すべき点があるか、専門の方のご意見をお伺いできればと思います。	・障がい者スポーツ大会については、全県下で既に実施されている。シートにも書かれているが湘南地域の特性をいかし、多くの方が楽しめるものを考えられないか。車椅子の方が水泳できるとか、サーフィンできるとか。実際障がい者にサーフィンを教えている方も湘南にいらっしゃる。入口は障がい者スポーツでも出口は「誰でも参加できる」ものになればと思う。
防災・交通	防災を普及するために我々は防災教育の普及を考えています。忙しいサラリーマンなど普段地域との関わりが希薄な方には、どのような形で防災の知識を普及させればよいのでしょうか。	・地域や学校などの防災教育が注目されるが、実は家庭内の防災教育が一番重要。いざというとき家庭でルールを決めておく。 ・ミニ防災訓練などをやる ・イベントに来た人には景品を与えるなど工夫が必要



(5) 100人ワールドカフェ

ア 日時

2012年9月8日（土） 15時30分～18時

イ 場所

藤沢産業センター8階 [情報ラウンジ]

ウ 参加者

約120名

【地域】藤沢市、茅ヶ崎市、平塚市、逗子市、大和市、横浜市など神奈川県内中心

【職種】会社員、経営者、公務員、芸術家、主婦、教員、大学生、小学生（※）など

【年齢】10歳代～70歳代

【男女】7：3程度

※湘南学園小学校6年「光輝組」24人

エ ファシリテーター

統括：沼田真一

グループ	氏名
A	吉田 浩介
B	田邊 健一
C	小川 俊明
D	助川 達也
E	加藤 貴之
F	細川 甚孝
G	壱岐 信二
H	江口 元気
I	坂本 勝敏

グループ	氏名
J	堂谷 拓
K	嶋崎 圭一
L	兵頭 祐子
M	望月 啓太
N	鈴木 誠司
O	金子 理綱
P	中島 昇幸
Q	富田 翼
R	岩村 啓史

（敬称略）

オ 概要

「湘南都市構想2022」に一般市民の意見を取り入れることを目的に、「100人ワールドカフェ～みんなで湘南の未来を考えよう！～」を開催した。当日の参加者は、約120人。24人の小学生をはじめ、主婦、サラリーマンの方から、企業経営者、芸術家、教師、自治体職員、サーフショップ店員、アスリート、大学生など多彩な人材が集まり大

盛況だった。

当日、120人の参加者はそれぞれ自分がおすすめしたい「湘南スイーツ」を持ち寄り、5~6人のグループに分かれ、①湘南の魅力、②湘南の残念なところ、③10年後の湘南のために自分に何ができるか、の3つのテーマについてワールドカフェ形式で話し合った。その結果、①湘南の魅力については、「海」「おしゃれ」「サザン」「文化歴史」「観光地がたくさん」など、②湘南の残念なところについては、「海岸のごみ」「交通渋滞」「冬に活気がない」「津波が心配」など、③10年後の湘南のために自分に何ができるかについては、「ごみを拾う」「地元の魅力を知る」「地産地消を支えていきたい」など、子どもから大人まで世代を超えた様々な意見が飛び交った。

最後に、「今日、自分が気付いたこと、発見したことは何ですか?」というテーマで、感想記述シートを記入してもらった。参加した小学6年生の女の子は、「10年後の湘南のまちを作っていくのは自分たちなんだと改めて実感した。ちょっと難しいところもあったけど、自分の意見が言えてよかったです」と満足気。70歳代の男性も「子どもたちと話せて元気をもらいました。世代を超えてみんなで湘南の未来を話し合うのはとてもいいこと」と語っていた。

全体進行は、ワールドカフェの専門家でもある、早稲田大学講師にボランティアでご協力いただき、テーブルファシリテーター20人には、神奈川県内自治体の若手職員ネットワーク「神奈川自治政策研究会(K33ネットワーク)」のメンバーにお願いして手伝っていただいた。「100人ワールドカフェ」でいただいた貴重な意見は、分科会ごとに「湘南都市構想2022」の策定に大きく反映させた。

カ プログラム

開始時間	時間(分)	概要	目的	備考
15:40	10	■主催者挨拶	本会の開始の挨拶および、事業趣旨の説明	開会挨拶(代表兼司会) 事業説明(沼田)
15:50	10	■自己紹介ゲーム (アイスブレイク)	参加者同士の自己紹介を通して、雰囲気を和らげ、意見交換のしやすい状況を創りだす。	A4の紙(自己紹介シートA<ウィンドウズ>)に4つのマスを用意し、そこに自分の好きなもの、こと、ひとなどを書いて、互いに紹介しあう。
16:00	10	■ワールドカフェの説明	本日のプログラムの説明	事業説明(司会)→ワールドカフェ説明(沼田)
16:10	30	■1番目のラウンド 「自分の思う湘南地域の魅力は何でしょうか?」	魅力について語りながら、湘南地区への愛着や誇り、気づきや発見を起こしながらつながりを深めていく。	①自己紹介(5分)→②自由議論(20分)→③移動(5分)

16:40	30	■2番目のラウンド 「自分の思う湘南地域の残念なところは何ででしょうか？」	課題について語りながら、湘南地区への愛着や誇りの気づきや発見を起こしながらつながりを深めていく。	①自己紹介（5分）→②自由議論（20分）→③移動（5分）
17:10	30	■3番目のラウンド 「湘南地域の10年後のために、自分に何ができるでしょうか？」	湘南地区で魅力をより高めるために、もしもくは、課題を解決するために、自分に何ができるかを自分事化して考える。	①自己紹介（5分）→②自由議論（25分）
17:40	10	■感想記述シート 「今日、自分が気づいたこと、発見したことは何ですか？」	対話の中で感じたこと、発見したことを振り返り、記憶を固定化して、全体で共有する準備をする。	→配布されたシートに記述する。「今日気づいたこと、発見したことは何ですか？」
17:50	5	■発表	各参加者の思いを全体で共有する	発表（有志の発表）
17:55	5	■まとめ ■事務局連絡	本日のプログラムのおさらいと今後の展開について	本日のプログラムのおさらい 閉会挨拶及び事務連絡、次回案内
18:00	30	■終了 ■写真撮影・片付け		
18:30		■完全撤収		

キ 議論で出された意見（一部抜粋）

Aグループ 意見まとめ（ファシリテーター：吉田浩介）

■自分が思う湘南地域の魅力は何ですか？

分野	湘南の魅力
観光・産業	<ul style="list-style-type: none"> ○海 ○映画・テレビ・マンガ・小説などの舞台になったロケ地がたくさんある（最近の作品では「とめはねっ！」」「ビブリア古書堂の事件手帖」） ○サザンC ○江ノ電 ○サザン・加山雄三 ○お祭りがたくさんある <ul style="list-style-type: none"> ・春の大岡越前祭 ・浜降祭 ○鳥帽子岩 ○歴史がたくさん（特に鎌倉）

教育・スポーツ	<input type="radio"/> シュノーケリング <input type="radio"/> サーフィン <input type="radio"/> ベルマーレ平塚
医療・福祉	—
防災・交通	—
その他	その他 <input type="radio"/> おしゃれなイメージがある <ul style="list-style-type: none"> ・カフェで海を見ながらコーヒーを飲んだり ・おいしいスイーツがたくさんある ・海の前の美容室（ビュートリアム七里ヶ浜）

■自分が思う湘南地域の残念なところは何ですか？

分野	湘南の残念なところ
観光・産業	<input type="radio"/> 海の水が汚い <input type="radio"/> 観光客のモラルがひどい <input type="radio"/> バーベキューの後とかの海岸のゴミ
教育・スポーツ	—
医療・福祉	—
防災・交通	<input type="radio"/> 災害時の危険性 <ul style="list-style-type: none"> ・津波が来たら危ない ・古い木造家屋が多い ・道が狭い、家と家の間が狭い <input type="radio"/> 交通が貧弱 <ul style="list-style-type: none"> ・車の渋滞がひどい 特に夏の134号線 ・渋滞がひどいのでバスもダメ ・江ノ電も混む 特に観光シーズン ・公共交通が少ない
その他	—

■湘南地域の10年後のために、自分に何ができるでしょうか？

分野	湘南の10年後のために自分ができること
観光・産業	—
教育・スポーツ	<input type="radio"/> 小学生にとって一番大事なのは立派な大人になること！ <ul style="list-style-type: none"> ・小学生が立派なおとなになるために頑張れば、大人も負けていられなくなる
医療・福祉	—
防災・交通	<input type="radio"/> 車がなくても住める環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・自転車をもっと使う <input type="radio"/> 観光客のモラルが上がるような仕組みづくり
その他	<input type="radio"/> きれいな海を守る <ul style="list-style-type: none"> ・落ち葉を拾うことも立派な貢献 ・ゴミを出さない ・ゴミ拾いをする ・バーベキューの片づけをもっとちゃんとする <input type="radio"/> 科学がもっと進歩すれば、今は魔法みたいに思えることも出来るようになるかも！ <ul style="list-style-type: none"> ・空中に公園を作ることだって出来るかも ・科学が進歩するように、ちゃんと勉強！

Bグループ 意見まとめ（ファシリテーター：田邊健一）

■自分が思う湘南地域の魅力は何ですか？

分野	湘南の魅力
観光・産業	<ul style="list-style-type: none"> ○おいしいモノがたくさんある。 ○湘南と名前がつくだけで、おいしそうな感じがする。 ○四季折々の景色が素晴らしい。 ○歴史と伝統の町 ○おしゃれなイメージ
教育・スポーツ	—
医療・福祉	—
防災・交通	○江ノ電は、ゆっくりなのに、魅力的
その他	—

■自分が思う湘南地域の残念なところは何ですか？

分野	湘南の残念なところ
観光・産業	○新しいモノと、古いモノを共存させたいが、目先の開発が重視されている気がする。
教育・スポーツ	○学校の津波ビルが低くて、3.11以降心許ない。
医療・福祉	—
防災・交通	<ul style="list-style-type: none"> ○道が狭く、通学が怖い。 ○道路の整備が進んでおらず、渋滞が年中発生している。 ○交通の便が悪いことにより、製造業が出て行ってしまった。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○地元に古くからいる人が、湘南が好きすぎて、新しいモノをなかなか受け入れてくれない。 ○湘南ブランドの負の作用がある。 ○出身地を聞かれると、「湘南」と答えるが、住んでいる市町村名を言わない。 ○マンションばかりが建設されている。

■湘南地域の10年後のために、自分に何ができるでしょうか？

分野	湘南の10年後のために自分ができること
観光・産業	○毎年、湘南の海でも事故が起きる。海の安全をもっと高めたい。
教育・スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ○海を綺麗にする。そのために、ゴミ拾いを続ける。 ○スポーツができる公園が少ないので、スポーツができる公園を増やしたい。そのために、スポーツの人気をあげるために、スポーツの魅力をいっぱい発信していきたい。
医療・福祉	—
防災・交通	—
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの人に現状をもっと知ってもらいたい。 ○その地域の文化の中で、人々がいつでも交流していることが、地域の発信力につながる。 ○オープンであること。人の出入りがしやすいようにしたい。 ○何かをやろうとしてもそのとき限りになってしまう方がおおい。続けなければならない。





「湘南都市構想 2022」 100人ワールドカフェ

無料

～みんなで湘南の未来を考えてみませんか？～

1 目的

「湘南都市構想 2022」とは、10年後の湘南地域のまちづくりビジョンです。「湘南ビジョン研究会」では、湘南の特性を最大限に活かした理想のまちづくりを目指し、湘南地域の住民が主体になって10年後の理想の湘南地域まちづくりビジョン「湘南都市構想 2022」を作成しています。この度、湘南地域のみなさんと一緒に未来の湘南について意見を出し合い、これからまちづくりを考えるワークショップ「100人ワールドカフェ」を開催します。

2 実施日

2012年9月8日(土)
15時30分～18時00分

3 主催

湘南ビジョン研究会

4 実施場所

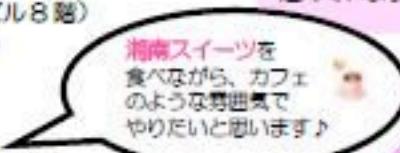
藤沢産業センター8階 [情報ラウンジ]
(藤沢市藤沢109 湘南NDビル8階)
TEL0466-21-3811(代表)

5 ワールドカフェの進め方

15:00 開場
15:30～15:40 開会・主催者挨拶
15:40～16:00 ワールドカフェについて説明
16:00～17:50 ワールドカフェ①②③④
17:50まとめ
18:00 閉会

ワールドカフェとは

“カフェ”的な環境の中で、参加者がルールに沿って自由に会話をを行い、創造的なアイディアや発想を生み出したり、互いの理解を深めることができます。という可能性を秘めた話し合いの手法です。1995年にアニータ・ブラウン氏とティビッド・アイザックス氏によって開発・提唱され、現在、世界中に普及しており、ビジネス、市民活動、まちづくり、教育など様々な分野での活用が進んでいます。



100人ワールドカフェ 参加者を募集します！

【募集期間】 2012年8月8日(水)から9月6日(木)まで

【対象者】 湘南地域在住住勤の住民等

【応募方法】 湘南ビジョン研究会(下記連絡先)へ氏名と連絡先をお送りください。

湘南ビジョン研究会

「湘南ビジョン研究会」とは、地元湘南のまちをもっとよくしたいという思いを持ったメンバーが集まった勉強会です。10年後の湘南地域のまちづくりビジョン「湘南都市構想 2022」の作成と、ビーチの国際環境基準「ブルーフラッグ」の認証取得を目指して掲げ活動しています。2011年5月設立。代表：片山清宏

【問い合わせ先】 [電話] 090-9017-2459 [メール] shonan_vision@hotmail.co.jp



湘南の「10年後」を考える「100人ワールドカフェ」

子どもから大人まで自由に気軽に意見交換

</

(6) 中間発表会

ア 日時

2012年12月2日（日） 13時～16時40分

イ 場所

公益財団法人松下政経塾 講堂

ウ 概要

第9回策定会議は、松下政経塾講堂で「湘南都市構想2022」中間発表会を開催した。180人を超える地元の方々にご参加いただき、中間発表会では、各分科会のリーダーが提言内容をプレゼンし、参加者の投票により最優秀賞を決めるという「政策コンテスト」を開催し、防災・交通分科会が優勝した。なお、当日は併せて松下政経塾見学ツアー、松下政経塾政経研究所・金子一也所長の基調講演及び第31期生の片山清宏の塾生発表が行われた。

エ 発表内容（一部抜粋）

【教育・スポーツ分科会】

教育・スポーツ分科会では、次の9つのプロジェクトを発表した。①「郷土を学ぶ「湘南学」の導入」、②「自ら考え身を守る防災教育の推進」、③「世界で生き抜く湘南人の育成」、④「保護者のしつけ力向上プロジェクト」⑤「湘南食育活動の推進」、⑦「「湘南スポーツアカデミー」の創設」、⑧「官民連携スポーツプログラム」、⑨「マリンスポーツ日本一のまちプラン」。

その中で、①「郷土を学ぶ「湘南学」の導入」と、⑦「「湘南スポーツアカデミー」の創設」を重点プロジェクトとした。①は、これからグローバル化の時代を生き抜く上で必要とされる力の一つである、郷土を愛する力を育むために、湘南で自ら湘南を学ぶ総合的な学習の時間等を活用した地域学習や地域自然を活用した教育を実践する取組である。

教育・スポーツ8本の施策

学校教育分野

- ①郷土を学ぶ「湘南学」の導入 ■
- ②自ら考え身を守る防災教育の推進
- ③世界で生き抜く湘南人の育成



The diagram is a graphic representation of the eight policies. It features a light blue background with a white central area containing the text. The first policy, '郷土を学ぶ「湘南学」の導入', is highlighted with a red arrow pointing to it and the word '■' next to it, indicating it is a priority. The other seven policies are listed below it. A small illustration of a person standing next to a whiteboard is located at the bottom right.

【観光・産業分科会】

観光・産業分科会では、次の9つのプロジェクトを発表した。①「海・眺望・体感！アドバンテージを生かした新たな観光つなげよう！」、②「海と SATOYAMA 観光」、③「日本初「ブルーフラッグ」の国際認証取得」、④「海岸の総合的学問「海岸学」」、⑤「冬でも賑わうの提唱」、⑥「楽しい湘南海岸地区の創出」、⑦「ロボット・リビングラボ・新産業への展開」、⑧「環境先進都市湘南！「サスティナブルスマートタウン」」、⑨「圏央道・渚の駅に始まる新たな観光拠点の整備」。



その中で、①「海・眺望・体感！アドバンテージを活かした観光」と、⑦「ロボット・リビングラボ・新産業への展開」を重点プロジェクトとした。①は、観光を湘南ブランドから考えると個々に眠る資源が見えなくなるので、海だけでなく、埋もれている地域の宝を徹底的に見つけ出して磨きをかけ、重ねとつなぎを行い、足りないものは広域で連携して活かしていく取組である。②は、圏央道の全面開通を見据え、产学研官連携を深めたロボット産業の集積地、人種のルツボ湘南の多種多様なライフスタイルを活かした、国内外の市場テスト～リビングラボをめざす取組である。

【医療・福祉分科会】

医療・福祉分科会では、①「50歳から地域に居場所がつくれる「湘南大人大学」の開校」と、②「介護・育児が日本一しやすいまちプロジェクト」を重点プロジェクトとしてあげた。

「50歳から地域に居場所がつくれる「湘南大人大学」の開校」は、50歳以上の湘南が好きで湘南で活動する「大人」が対象で、正式な「大学（学校）」ではなく、楽しいカリキュラムを寄付講座を中心に（例：酒・料理・地域史…）、

学校の空き教室・お寺等の場所を利用して行う学びの場で、個人の健康づくりと地域福祉の推進を図る取組である。②「介護・育児が日本一しやすいまちプロジェクト」は、地区や団地、マンションのコミュニティ単位で医療・介護・子育てサービスを提

提案その1
50歳から地域に居場所がつくれる「湘南大人大学」の開校

ポイント

- ✓ 50歳以上の「大人」が対象です(メインターゲットは50代)。
- ✓ 正式な「大学(学校)」でないので、もっと楽しく・おしゃれに！
<学長を創造性の高い人に／楽しいカリキュラムを寄付講座中心に(例:酒・料理・地域史...)／場所は柔軟に(例:学校の空き教室・お寺...)>
- ✓ 卒業後は、地域の一員になっていただきます。
<入学資格は、50歳以上、湘南が好き、地域で活動>

個人の健康づくりと地域福祉の推進をはかります。

湘南ビジョン研究会(医療・福祉分科会)からのご提案

供する取組である。在宅医療・介護サービス事業者・保育施設を中心にグループホーム・保育ママ・障がい者地域作業所等とが連携して、住民や市民活動団体も協力する相互に「支え合う」関係をつくり、ワークライフバランスのとれる地域をめざすものである。

【防災・交通分科会】

観光・産業分科会では、次の8つのプロジェクトを発表した。①「市民全員が防災スペシャリストプラン」、②「地域防災10日間プラン」、③「津波避難ビル充実大作戦」、④「湘南全域サイクリング道路整備計画」、⑤「海上交通「湘南シーバス」導入プラン」、⑥「8m道路の推進」、⑦「夏場500円課金制度」、⑧「通学道路安全対策“コミュニティゾーン”」。

政策プロジェクト	
防 災	市民全員が防災スペシャリストプラン
交 通	地域防災10日間プラン
	津波避難ビル充実大作戦
	湘南全域サイクリング道路整備計画
	海上交通「湘南シーバス」導入プラン
	8m道路の推進
	夏場500円課金制度
	通学道路安全対策“コミュニティゾーン”

その中で、①「市民全員が防災スペシャリストプラン」と、④「湘南全域サイクリング道路整備計画」を重点プロジェクトとした。①は、災害発生時、行政も被災することを考慮し、市民一人ひとりが最低限の防災知識を共有するために、家庭内での避難訓練の実施、“湘南防災リーダー”の新設、オレンジフラッグの普及を行う取組である。②は、逗子から二宮まで海岸線を自転車で安全に移動できるようにサイクリングロードを整備する取組である。駅から海岸沿い自転車道までも河川上のスペースを活用して専用ルートを整備するとともに、海岸自転車道及び主要駅前にランナー＆バイクのサポートステーションを整備するものである。







次第

松下政経塾 見学ツアー & 「湘南都市構想2022」中間発表会

2012年12月2日（日）12:20開場 13:00開会

於：松下政経塾 講堂 茅ヶ崎市汐見台5-25

実施主体

主催：湘南ビジョン研究会

プログラム

- 12:50 松下幸之助「建塾の理念」VTR上映
13:00 開会の辞・主催者挨拶

第1部 松下政経塾 見学ツアー

- 13:05 基調講演
「松下幸之助塾主が松下政経塾に託した日本の未来」
松下政経塾政経研究所 所長 金子一也
13:40 學生発表
「地域主権社会の実現～地域のリーダーシップで日本を変える～」
松下政経塾 第31期生 片山清宏
14:00 松下政経塾 施設見学ツアー

第2部 湘南ビジョン研究会「湘南都市構想2022」中間発表会

- 14:50 主催者挨拶
「『湘南都市構想2022』の策定意義～子どもたちの未来のために～」
湘南ビジョン研究会 代表 片山清宏

14:55 分科会発表1 教育・スポーツ分科会 リーダー 坂本勝敏
15:10 分科会発表2 観光・産業分科会 リーダー 壱岐信二
15:25 分科会発表3 医療・福祉分科会 リーダー 東晋吾
15:40 分科会発表4 防災・交通分科会 リーダー 江口元気

15:55 特別ステージ 「マリエリカ」によるヴィオラとピアノの演奏
16:15 質疑応答・会場クロストーク
16:35 講評（政策コンテスト結果発表）
松下政経塾政経研究所 所長 金子一也
16:45 閉会の辞
17:00 懇親会（松下政経塾ラウンジ）18:30 終了

◆お問い合わせ・お申し込みは、以下の連絡先からお願いします。
湘南ビジョン研究会 代表 片山清宏 (shonan_vision@hotmail.co.jp 090-9017-2459)

(7) 最終提言発表会

ア 日時

2013年2月9日（土） 13時00分～16時30分

イ 場所

神奈川県立かながわ女性センター ホール

ウ 主催

公益財団法人 松下政経塾

エ 共催

湘南ビジョン研究会

オ 概要

2013年2月9日に開催された松下政経塾主催「湘南未来フォーラム 2013in 江の島」の中で「湘南都市構想 2022」の最終提言発表を行った。本フォーラムは、「湘南ビジョン研究会」代表である片山の松下政経塾卒塾フォーラムであり、第2部の「実践活動報告」の中で「湘南ビジョン研究会」として、約10ヶ月かけて策定してきた「湘南都市構想 2022」の最終提言を発表させていただいた。

テーマは、「湘南の未来に向けて、私たち市民ができること」。発表者は、坂本勝敏（教育・スポーツ分科会）、壱岐信二（観光・産業分科会）、東晋吾（医療・福祉分科会）、加藤道夫（防災・交通分科会）の4人。当日は、4つの分科会発表の中から、来場者の投票により最優秀提案を決定する市民参加型の「政策コンテスト」を実施した。

第3部では、「みんなで考えよう！湘南の未来、日本の未来」をテーマに「パネルディスカッション＆質疑応答」を行う。各分科会の発表者4人は引き続き登壇し、松沢成文氏（前神奈川県知事）、朝比奈一郎氏（青山社中株式会社筆頭代表／中央大学客員教授）、宮川浩子氏（レディオ湘南パーソナリティ／フリーアナウンサー）の3人のパネリストとクロストークを行った。さらに、この場で「政策コンテスト」の結果が発表され、会場との質疑応答も織り交ぜ、湘南と日本の未来について議論していった。

なお、当日の司会は、第11回「湘南の海を考えるミニフォーラム」で講師を務めていただいた松原広美氏（J-WAVE ナビゲーター／サーフライダーファウンデーションジャパン事務局長）にお願いした。

力 発表内容 【教育・スポーツ分科会】

湘南都市構想 教育・スポーツ分科会

発表者：坂本 勝敏

恵まれた環境を活かしているか？

自然・文化・歴史・人材



求められる教育・スポーツ



学校の津波対策 グローバル化・情報化 生きる力
地元愛 海で遊ぶ 過保護・しつけ 海のスポーツ

教育としてめざす姿

- ▶ これからの時代を生き抜く力
 - ・課題を解決する力 【知】
 - ・豊かな人間性 【徳】
 - ・たくましく生きる体力 【体】
- ▶ 郷土を愛する力
 - ⇒ これらの力をもった人材(湘南人)を育成

教育・スポーツ／プロジェクト

- ▶ [学校教育] ①郷土を学ぶ「湘南学」 ★
 - ②自ら考え身を守る防災教育の推進
 - ③世界で生き抜く湘南人の育成
- ▶ [社会教育] ④保護者のしつけ力向上プロジェクト
 - ⑤湘南版食育活動～湘南を食べよう～
- ▶ [スポーツ] ⑥湘南マリンスポーツアカデミー ★
 - ⑦アクティブ・アフタースクール
 - ⑧ワールドビーチケーズムin湘南



★…重点プロジェクト

湘南都市構想実現に向けて Step1

- 宣言・しつけは家庭の役割
～湘南では、しつけを学校に任せない～
[実施機関] 各行政機関
[ね ら い] ・保護者の意識改革
・保護者が学ぶ機会の充実

プロジェクト4

湘南都市構想実現に向けて Step2

[中学校区]学校支援地域本部の設置

[小学校区]放課後子ども教室の実施

実施機関: 地域住民(一部法人化もあり)

ね ら い: 地域・保護者が学校運営に参加

→ 学校力・地域力・保護者力の向上

プロジェクト4

湘南都市構想実現に向けて Step3

小・中学校で、郷土を学ぶ「湘南学」を導入

湘南学とは…

> 湘南“を”学ぶ

> 湘南“で”学ぶ

の2本立て

湘南学の実践① “湘南を学ぶ”

- 郷土を愛するには、その地域をよく知ること
- 地域を学ぶ機会はあるが、十分ではない
⇒総合的な学習の時間の一部を「湘南学」の時間として設定



湘南学の実践② “湘南を学ぶ”

(指導案のコンセプト)

○対象学年は、小学校3年～中学3年

○学ぶ対象地域は、学年に沿って拡大

【地区】 → 【学区】 → 【行政区】 → 【湘南】

○キーは、“人”から学ぶこと

そこに住む人・そこで働く人・そこで学ぶ人

湘南学の実践③ “湘南を学ぶ”

(指導プラン・案)

- 小3:
・地域の地名の由来を調べよう
・地域のお祭りに参加しよう



湘南学の実践④ “湘南を学ぶ”

(指導プラン・案)

- 小5:
・地域で活躍している人を調べよう
・地域活動に参加しよう



湘南学の実践⑤ “湘南を学ぶ”

(指導プラン・案)

- 中3：・湘南で活躍している人にインタビューし、自分の将来を考えよう
・湘南こども議会で提言しよう



湘南学の実践⑥ “湘南で学ぶ”

●地域資源を活かした教育の実践

提案1: 体育で活かす！

- ・海が近い学校 ⇒ サーフィン
- ・川が近い学校 ⇒ カヤック など



湘南学の実践⑦ “湘南で学ぶ”

●地域資源を活かした教育の実践

提案2: 理科で活かす！

- 海が近い学校 ⇒ 海水で塩分調べ
- 川が近い学校 ⇒ 生物の観察
- 田畠が近い学校 ⇒ 植物の観察 など



湘南学の実践⑦ “湘南で学ぶ”

●地域資源を活かした教育の実践

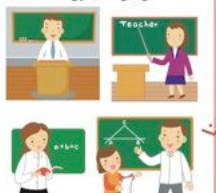
提案3: 社会で活かす！

- 地域の寺社で歴史を学ぶ
- 地域の道路で産業を学ぶ など



湘南学の実践⑧ 協力した教育体制

教員



保護者・地域住民



最後に…



皆で湘南を学び、皆が湘南を愛す
そして、次の世代へその想いをつなげる
そんな教育の実現へ…

【観光・産業分科会】

湘南都市構想2022
観光・産業分科会

徹底的に生活者の視点で見た計画を

リーダー: 壱岐 信二

2013/2/9

湘南の魅力は

- ・学校の窓を開けると潮風が吹いてくる、虹がきれいで、面白い雲もできるよ。
- ・海だけじゃなく山も歴史もあるよ。
- ・ロハスなくらし、ライフスタイル、おしゃれで知的な“いなか”。
- ・江ノ電は乗っても外から見ても楽しく、海の見える瞬間がいい。

国際海浜リゾート「湘南」

海 + 山 + まち + 文化

イノベーション産業都市「湘南」

◆戦後、東海道線沿いに多くの工場ができる。

資料: 湘南地区の企業・大学のHPより

問題点

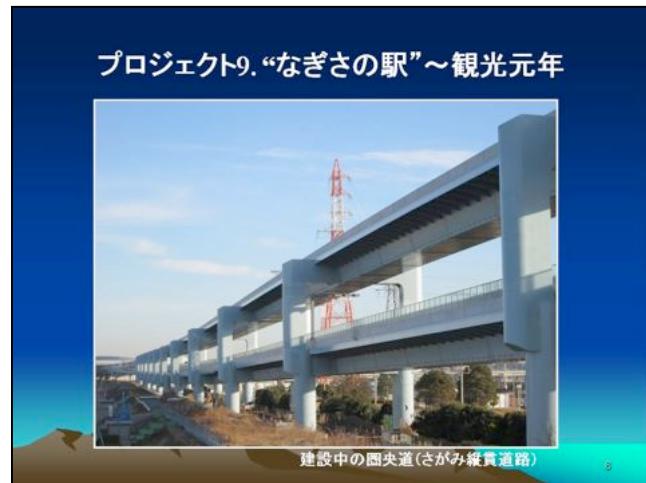
- ・「湘南とは一体？」…ブランド
- ・「おれが湘南、私の湘南」…取り合い
- ・「当たり前の存在」…意識
- ・「混雑」…苦情
- ・「相次ぐ工場の撤退」…雇用

混雑

音の苦情

漂着ゴミ

イベントはするが…
￥地元に金が落ちない\$



方向性

「湘南ブランド」
この点から観光を考えると、個々に眠る資源が見えなくなる。

・海ばかりが資源ではない
眠っている地域の宝を発掘して磨きをかけて重ね、横のつながりを作り、足りないものは広域連携で補う。

・バランスのとれた観光
観光と文化、遊びvs.トラッドを織り交ぜたオールラウンド・オールシーズンの観光地をめざす。

1. 魅力あふれる湘南観光のための土台づくり

なぎさの駅…観光・防災の拠点

134号線に複数開設、海産物販売、バイクシェーリング、なぎさの交番110, 118、津波タワー

2. 徹底的な地域の「宝さがし」

①今のアドバンテージを活かそう！海、眺望、体感

②市民参加型ガイド…サーファー向き、スイーツ向き、文学歴史向きの休日ガイドを育成。

③ひと工夫…なぎさの足湯、えぼし岩ブリッジ

3. 地域の参画による「観光」の育成、情報の発信

- ①外国人を呼ぼう…冬の湘南は北国の人には暖かい！
- ②ロードレーサー＆バイク愛好家…なぎさの駅へ誘導
- ③ペットと休む…ドックカフェ



ケーススタディ～小さいことから始めてみる

1. まちの資源の掘り起こし～景観スポット＆観光ルートの発掘。市民アンケート。
2. 民家のゲストハウスや休日の駐輪・駐車場。
3. 市民参加型ガイド。



「観光・産業も国際化の時代へ」



～つながろう湘南、ひかろう湘南～

경청해주셔서 대단히 감사합니다.
“谢谢您”

Thank you for your attention.

ありがとうございました



【医療・福祉分科会】

湘南ビジョン研究会(医療・福祉分科会)からの
ご提案(最終)

2013年2月9日
医療・福祉分科会リーダー 東 晋吾

メンバー 小鷹 英由紀 清水 孝哉 武田 真由美
能勢 健生 宮澤 進一

分科会のコンセプト

基本理念「湘南の源となる輝きつづける命と絆づくり」

- 生まれた命が、寿命を迎えるまで、
心身共に健康で輝きつづけるように。
- 誰もが湘南で共に生き、支え合える
絆ができるように。
- その絆が世代を超えて湘南の地で
変わらず続していくように。

—それに向かって自分達ができることは何か？

湘南ビジョン研究会(医療・福祉分科会)からのご提案(最終)

6つのプロジェクト

- * 「湘南ヘルスツーリズム」の確立
- * 高度医療(最先端医療)の提供
- * 誰もが楽しみながら享受できる保険事業の実施
- * 50歳からの「湘南大人大学」 ……重点
- * 介護・育児を支え合うコミュニティづくり ……重点
- * ユニバーサルスポーツ大会の開催

湘南ビジョン研究会(医療・福祉分科会)からのご提案(最終)

50歳からの「湘南大人大学」① 目的

- なぜ、福祉で大学なのか？ → PPK
そのためには、
①生きがい、②日常的な活動、③仲間 が必要
- 加えて、神奈川県は、
生涯未婚率(男性)が全国5位 ……単身者の急増
高齢者予想増加率が全国3位 ……高齢者の急増
→ 健康(医療・介護)リスク、経済的なリスクの増
を抑える必要があるのでは！

湘南ビジョン研究会(医療・福祉分科会)からのご提案(最終)

50歳からの「湘南大人大学」① 目的

- 湘南大人大学は、
「自立した健康づくりの場」
「湘南好き同士がつながる場」
「個人だけでなく、家族や地域も元気にする場」

ゴール

単身者も含めた自立した健康維持がなされる
50代からも地域の一員としての役割を担い自立する
若者がそれを見てかっこいい50代をめざす

湘南ビジョン研究会(医療・福祉分科会)からのご提案(最終)

50歳からの「湘南大人大学」② 概要

- 50歳以上の「大人」が対象(メインターゲットは50代)
- 約束 卒業後は、地域の一員になっていただきます。
<入学資格は、50歳以上、湘南が好き、地域で活動>
- 正式な「大学(学校)」でないので、もっと楽しくおしゃれに！

創造性の高い学長
事務局

湘南で学ぶ「人生学部」
湘南を学ぶ「なぎさ学部」

それぞれに魅力的なカリキュラム
(例:酒、料理、地域史...)を
寄付講座中心で

一かつ学びながら地域の課題も解決できないか？

湘南ビジョン研究会(医療・福祉分科会)からのご提案(最終)

50歳からの「湘南大人大学」③ 実践

直近の活動として、プレ講座を開講します！

テーマは、「農」(人生学科) 一なぜ？

地域課題としての「農」

- 一人で就農することが難しい
- 休耕地・休耕田、後継者問題
- 地元野菜などの種苗の保全

一課題意識を持った方とカリキュラムをつくりながら！

湘南ビジョン研究会(医療・福祉分科会)からのご提案(最終)

50歳からの「湘南大人大学」③ 実践

チラシをご覧ください！

講師は、

八百屋café ハロハ
代表 中越 節生さん



湘南ビジョン研究会(医療・福祉分科会)からのご提案(最終)

50歳からの「湘南大人大学」④ 今後

短期的な展開

プレ講座の経験を踏まえて、次の講座を検討・実施

```

graph TD
    subgraph 人生学部
        震[震] --> 開講済[開講済]
        海[海] --> 海のマナー[海のマナー、釣り]
    end
    防災[防災] --> 防災マイスター[防災マイスター]
    観光[観光] --> なぎさの駅[なぎさの駅]
    なぎさ学部[なぎさ学部] --- 防災
    なぎさ学部 --- 観光
    海 --- 防災
    海 --- 観光
    開講済 --- 他にも
    開講済 --- 終活
    開講済 --- 保護者のしつけ力向上
    開講済 --- and so on...
    他にも --- 湘南は幅広い可能性は～
  
```

一関心のあるテーマで、一緒にやっていきませんか？

湘南ビジョン研究会(医療・福祉分科会)からのご提案(最終)

50歳からの「湘南大人大学」④ 今後

その他の短期的な展開

- ② 湘南大人大学の法人格取得
- ② 事務局機能の確立
- ② 会場の確保検討 …やっぱり校舎がほしい！
- ② 大学ロゴの作成 …おそろいの大学グッズ

一湘南の人と人とをつないでどんどんアイデアを形に！

湘南ビジョン研究会(医療・福祉分科会)からのご提案(最終)

50歳からの「湘南大人大学」④ 今後

長期的には、、、

- ④ 大学機能の確立(カリキュラム作成、実施機能)
- ④ 講座のアーカイブ化、インターネット配信
- ④ 人材バンクやキャリアパスづくり
- ④ 湘南からのビジネスモデルの創出

…第二の人生で起業も！

一湘南に集まる人、憧れる人をふやして地域も元気に！

湘南ビジョン研究会(医療・福祉分科会)からのご提案(最終)

ご清聴ありがとうございました。

医療・福祉分科会一同

8. SPECIAL THANKS
大塚光紀さん(背景写真)



湘南ビジョン研究会(医療・福祉分科会)からのご提案(最終)

【防災・交通分科会】



3 防災・交通分科会

～日常に生かす湘南防災スタイル～

2013年2月9日

プロジェクトメンバー

江口元気、大塚光紀、岡崎進、津田淳、堂谷拓
葉木洋一、宮崎渉、村上賢之、加藤道夫

五つの政策プロジェクトを提言します

防
災

P21 誰もが湘南防災マイスター

P22 地域防災10日間プラン

P23 津波避難ビル充実大作戦

交
通

P24 自転車で湘南の風を感じよう

P25 北斎が愛した富士に逢う
さがみなぎさ新交通

防災クイズ

Q1

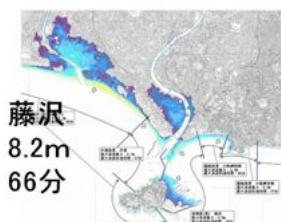
自宅の
津波避難場所を知っている
(または津波避難ビル)



防災クイズ

Q2

到達する最大の津波の高さと
時間や、オレンジフラッグの
意味を知っていた



防災クイズ

Q3

防災士や災害救護ボランティア
などの講習会を受講し、油圧
ジャッキやチェンソーを扱える



Q1からQ3まで
「はい」と答えられた人が
湘南防災マイスター



大災害の発生時は

公助 < 共助 < 自助
2022年には
会場の半数(50%)が
「湘南防災マイスター」

P22 湘南防災マイスターは、なぜ必要か

- 共助力向上で愛する家族を救う
救われる人から、救う人へ
- 防災に強い地域は、幸せな街に



P24 自転車で湘南の風を感じよう

逗子～二宮を結び、自転車レンタルステーション
シャワー、飲食店などを完備した『渚の駅』を設置



P23 津波避難ビル充実大作戦

- マンションごとに屋上階段・通路を整備

- 共助が盛んなマンション、地域に補助拡充



津波対策の森を作る「千年希望の丘※」計画

イメージ ※被災地の津波対策として、ガレキを埋めて盛土した上に広葉樹の森を作る



現在のサイクリングロード 砂の除去が悩み



16

現防砂林を10mかさ上げする



17

10mの津波から住宅地と国道を守る

辻堂 ⇒ 茅ヶ崎側



18

かさ上げすると、さらに眺望は良くなる

もっと湘南の風を感じるために



19

8メートル道路の建設推進

- 湘南の道路事情
狭すぎて大型消防車
が入れず、大火事の
延焼を防げない
- サイクリングロードと
別に、バスが通れる
車道を確保する
- 最低でも幅8m必要



20

海上交通「湘南シーバス」プラン



船に自由に自転車が乗せられる

21

湘南クルーズボート イメージ



ときが止まる瞬間が湘南にある

いいね!

いいね!

ダイヤモンド富士 次は4月4,5日



ご清聴ありがとうございました

未来に輝く
湘南都市構想
2022

叶



片山清宏・松下政経塾卒塾フォーラム

みんなで湘南の 未来を考えよう！

湘南未来フォーラム 2013

日 時 ➤ 2013年2月9日(土)13時開会 16時30分閉会

会 場 ➤ 神奈川県立かながわ女性センター ホール

主催 公益財団法人 松下政経塾
共催 湘南ビジョン研究会

プログラム *program*

13:00 開会

13:05 ~ 13:10 主催者挨拶 公益財団法人 松下政経塾 塾長 佐野尚見

第1部 研修成果発表

13:15 ~ 13:50 「地域主権社会の実現～湘南から日本の未来を切り拓く～」



塾生 片山 清宏 *Kiyohiro Katayama*

—— 松下政経塾 第31期生

1975年 神奈川県藤沢市生まれ。私立湘南学園小学校、藤沢市立鵠沼中学校、明治学院高等学校、明治学院大学経済学部卒業。1999年 厚木市役所入所、都市部、市政企画部、市民健康部。神奈川県市町村振興協会海外派遣メンバーとしてイギリス・スウェーデンに派遣。構想日本「事業仕分け」メンバーとして、全国自治体の事業仕分けに参加。2009年 神奈川県庁へ派遣。政策部総合政策課で総合計画の進行管理等を担当。神奈川自治政策研究会(K33ネットワーク)設立(代表)。2010年 財団法人松下政経塾入塾(第31期生)。2010年~2011年 神奈川県知事マニフェスト評価委員会県民委員。2011年5月 湘南ビジョン研究会設立(代表)

第2部 実践活動報告

13:50 ~ 14:45 「湘南の未来に向けて、私たち市民ができること」

～10年後のまちづくりビジョン「湘南都市構想2022」最終提言発表～

実践活動報告では、「湘南ビジョン研究会」の4つの分科会の代表者から「湘南都市構想2022」の最終提言を発表し、その中から、来場者の皆様の投票により最優秀提案を決定する市民参加型の「政策コンテスト」を実施します。

「湘南ビジョン研究会」



発表者 加藤 道夫氏 *Michio Kato*

防災・交通分科会

★「湘南がまとまり、エコでお洒落で健康的な国際海浜リゾートへ」



発表者 壱岐 信二氏 *Shinji Iki*

観光・産業分科会

★「湘南で働き、学び、思いきり遊ぶ～これぞ湘南ライフスタイル！」



発表者 坂本 勝敏氏 *Katsutoshi Sakamoto*

教育・スポーツ分科会

★「時代を生き抜くための新しい教育モデルの実現をここ湘南で！」



発表者 東 晋吾氏 *Shingo Azuma*

医療・福祉分科会

★「中間発表は珍しく緊張してしまったので今回こそ頑張ります」

14:45 ~ 15:00 休憩

第3部 パネルディスカッション & 質疑応答

15:00 ~ 16:20 「みんなで考えよう！湘南の未来、日本の未来」

パネルディスカッションでは、「湘南ビジョン研究会」の4つの分科会の発表者に引き続きご登壇いただき、3人のパネリストとの活発なクロストークを行います。この場で「政策コンテスト」の結果も発表し、会場との質疑応答も織り交ぜ、みんなで湘南と日本の未来について考えてていきます。

(コーディネーター 片山 清宏)



パネリスト 松沢 成文氏 *Shigefumi Matsuzawa*

前神奈川県知事

1958年神奈川県生まれ。慶應義塾大学法学部卒業後、(財)松下政経塾に入塾(第3期生)。神奈川県議会議員(2期)、衆議院議員(3期)を経て、2003年から神奈川県知事を2期務め2011年4月に退任。現在、筑波大学客員教授などを務める他、吉本興業グループに所属しエリアプロジェクトを推進中。



パネリスト 朝比奈 一郎氏 *Ichiro Asahina*

青山社中株式会社筆頭代表(CEO) /中央大学客員教授

1973年東京都生まれ。東京大学法学部卒業。ハーバード大行政大学院修了(修士)。経済産業省を経て、青山社中株式会社を設立、筆頭代表(CEO)。NPO法人プロジェクトK「新しい霞ヶ関を創る若手の会」前代表。NPO法人「地域から国を変える会」理事長。中央大学客員教授。慶應義塾大学SFC研究所上席研究員(訪問)



パネリスト 宮川 浩子氏 *Hiroko Miyagawa*

レディオ湘南パーソナリティー/フリーアナウンサー

藤沢市辻堂在住。ケーブルテレビ番組制作会社を経て、藤沢エフエム放送(株)レディオ湘南。藤沢市広報番組「ハミングふじさわ」、「Pallete~湘南ライフをあなた色に~」のパーソナリティー。現在は、フリーアナウンサーとしても、各種イベントの司会や、講演会のパネリスト等で活躍している。

16:20 ~ 16:25 謝辞 公益財団法人 松下政経塾 塾頭 古山和宏

16:25 ~ 16:30 御礼挨拶 公益財団法人 松下政経塾 第31期生 片山清宏

16:30 閉会

17:00 ~ 18:30 懇親会(会場:江の島アイランドスパ本館4F「アイランドグリル」)



司会 松原 広美氏 *Hiromi Matsubara*

J-waveナビゲーター/サーフライダーファウンテーションジャパン事務局長

1978年千葉県生まれ。GE Capital勤務を経て、2006年インターネットメディア“greenz.jp”を創立。現在はサーフライダーファウンテーションジャパン事務局長、J-WAVE「LOHAS SUNDAY」ナビゲーターとして活動中。大学時代は鎌倉材木座で体育会系ウィンドサーフィンに打ち込んだ。海を愛するサーファー。

ご挨拶

本日はお忙しいなか、片山清宏・松下政経塾フォーラム「湘南未来フォーラム 2013～湘南の未来をみんなで考えよう！～」にご来場いただきまして、ありがとうございます。また、本フォーラム企画運営に際し、多大な御力添えをいただいた全ての関係者の皆様にも厚く御礼申し上げます。

2010年3月、私は11年間勤めた市役所を退職し、松下政経塾の門を叩きました。行政職員として仕事をしている中で、目の前の市民の切実な声も国の制度に縛られ、その場で解決できない現状に強い問題意識を感じたからです。「地域主権社会の実現～地域のリーダーシップで日本を変える～」。これが私の志です。入塾以来、松下幸之助塾主の理念探究を続けるとともに、全国各地の様々な現場で学ばせて頂き、また豊富な経験や見識を持つ方々にお話を伺って参りました。

そして、小さくともまずは一歩を踏み出し、自ら行動を起こしていくべきだと考え、地元湘南のまちづくりを考える勉強会「湘南ビジョン研究会」を立ち上げ、これまでメンバーとともに湘南のまちづくりについて議論し、共に活動してきました。

私の志実現は大変困難なものではあります。しかし、一人の人間が志という一灯を掲げれば、その光は周りの人々を照らし、必ずや全国各地へと広がり、日本に新たな輝きを取り戻すことができる信じています。湘南から日本の未来を切り拓きたい。そうした思いを込めて3年間の研修の集大成として、本フォーラムを開催させていただきます。

本日は、私の志を軸に、第一線でご活躍されているパネリストの方々を交え、ご来場いただきました皆様と一緒に、これからの湘南、そして日本について考える一日にさせて頂ければ幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

松下政経塾 第31期生 片山 清宏

公益財団法人 松下政経塾

1979年にパナソニックの創業者・松下幸之助が「新しい国家経営を推進する指導者の育成」を目指し、私財70億円と投じて創設した私塾。神奈川県茅ヶ崎市にあり4年間の全寮制（31期生までは3年間）で、「自修自得」「現地現場」などが研修の基本方針。創設以来、内閣総理大臣をはじめ各界に252名の卒塾生を輩出している。（2013年2月現在）



湘南ビジョン研究会

地元湘南のまちづくりを考える市民の勉強会。10年後の湘南地域のまちづくりビジョン「湘南都市構想2022」の策定と、ビーチの国際環境基準「ブルーフラッグ」の認証取得を目標として掲げ活動している。メンバーは、会社員、公務員、学者、経営者、NPO、学生、自治会、芸術家、教師など約60人。随時募集中。2011年5月に設立。代表・片山清宏



松下政経塾フォーラム

みんなで湘南の 未来を考えよう!

湘南未来フォーラム 2013

参加費
無料

2013年2月9日(土) 13:00~16:30
(12:30 開場)

かながわ女性センター ホール (定員 500人)
藤沢市江の島 1-11-1

懇親会 ● 江の島アイランドスパ本館 4F「アイランドグリル」 ● 17:00~18:30

主 催 公益財団法人 松下政経塾

共 催 湘南ビジョン研究会

特典① 湘の宝物 ビーチグラスストラップをプレゼント

特典② あなたの写真を上映!「幸せの写真プロジェクト」

特典③ もっと知りたい!「江の島観光ガイドツアー」

※詳しくは松下政経塾 HP(裏面参照)



松下政経塾 第31期生
片山清宏

第1部

●研修成果発表 ■ 片山清宏(松下政経塾第31期生)

「地域主権社会の実現 ~湘南から日本の未来を切り拓く~」

第2部

●実践活動報告 ■ 湘南ビジョン研究会

「湘南の未来に向けて、私たち市民ができること」

第3部

●パネルディスカッション&質疑応答

「みんなで考えよう!湘南の未来、日本の未来」

司会



J-WAVE ナビゲーター
松原広美氏

第3部パネリスト



前神奈川県知事
松澤成文氏



青山社中株式会社 代表取締役(CEO)
中央大学客員教授
朝比奈一郎氏



レディオ湘南パーソナリティー
フリーアナウンサー
宮川浩子氏

■ 特別ステージ ■

マリエリカ

MARIERIKA

湘南地域で活躍する
ヴィオラとピアノの
姉妹デュオ



17:45~18:00
懇親会(アイランドグリル)

みんなで湘南の未来を考えよう!

湘南未来フォーラム 2013 プログラム

第1部
13:10~

●研修成果発表
「地域主権社会の実現 ~湘南から日本の未来を切り拓く~」

片山清宏 (藤沢市出身 松下政経塾第31期生)

第2部
13:50~

●実践活動報告
「湘南の未来に向けて、私たち市民ができること」
~10年後のまちづくりビジョン「湘南都市構想 2022」最終提言発表~

湘南ビジョン研究会 坂本勝敏氏(教育・スポーツ分科会) 壱岐信二氏(観光・産業分科会)
東 晋吾氏(医療・福祉分科会) 加藤道夫氏(防災・交通分科会)

14:45~15:00 休憩

第3部
15:00~

●パネルディスカッション&質疑応答
「みんなで考えよう！湘南の未来、日本の未来」

コーディネーター／片山清宏 (松下政経塾第31期生)

パネリスト

■松沢成文氏
(前神奈川県知事)

1958年神奈川県生まれ。慶應義塾大学法学部卒業。(財)松下政経塾(第3期生)。神奈川県議会議員(2期)、衆議院議員(3期)、神奈川県知事(2期)を経て、筑波大学客員教授等を務める。

■朝比奈一郎氏
(青山社中株式会社筆頭代表(CEO)/中央大学客員教授)
1973年生まれ。東京大学法学部卒業。ハーバード大行政学院修了(修士)。経済産業省を経て、青山社中株式会社を設立。中央大学客員教授。慶應義塾大学SFC研究所上席所員(訪問)。

■宮川浩子氏
(レディオ湘南パーソナリティー/フリーアンサー)
藤沢市辻堂在住。ケーブルテレビ番組制作会社を経て、藤沢エフエム放送(株)レディオ湘南。藤沢市広報番組「ハミングふじわら」、「Palette ~湘南ライフをあなた色に~」パーソナリティー。

■司会／松原広美氏(J-WAVEナビゲーター/サーフライダーファウンデーションジャパン事務局長)

懇親会

場所：アイランドグリル
時間：17:00～18:30
会費：3,500円

●湘南の魅力溢れる眺望と美味しい料理をご提供

●ヴィオラとピアノの姉妹デュオ*マリエリカ*の特別ステージ

場 所

●神奈川県立かながわ女性センター ホール

〒251-0036 藤沢市江の島 1-11-1
小田急線片瀬江ノ島駅下車 徒歩15分
TEL: 0466-27-2111



●レストラン＆バー「アイランドグリル」

〒251-0036 藤沢市江の島 2-1-6
江の島アイランドスパ本館 4F
(フォーラム会場から徒歩3分)
TEL: 0466-29-0688

申込方法

松下政経塾ホームページ <http://www.mskj.or.jp>

または下記 お問い合わせ先 にて受け付けております。



公益財団法人
松下政経塾

1979年にパナソニックの創業者・松下幸之助が「新しい国家経営を推進する指導者の育成」を目指し、私財70億円を投じて創設した私塾。神奈川県茅ヶ崎市にあり4年間の全寮制(31期生まで3年間)で、「自修自得」「現地現場」などが研修の基本方針。創設以来、内閣総理大臣をはじめ各界に252名の卒塾生を輩出している。



湘南ビジョン研究会とは

地元湘南のまちづくりを考える市民の勉強会です。当会では、2012年4月から約40人のメンバーと共に10年後のまちづくりビジョン「湘南都市構想 2022」を策定してきました。2011年5月設立。(代表・片山清宏)

●公益財団法人 松下政経塾

■〒253-0033 神奈川県茅ヶ崎市汐見台5番25号
■TEL: (0467) 85-5813 ■FAX: (0467) 82-4950

●片山清宏

■携帯: 090-9017-2459 ■E-mail: katayama@mskj.or.jp
■facebook: <http://www.facebook.com/kiyohiro.katayama>



2013年2月
「湘南都市構想 2022」
～つながろう湘南、ひかろう湘南～
提言書

編集・発行
湘南ビジョン研究会
shonan_vision@hotmail.co.jp
090-9017-2459
